

ClickShare CX-50 Gen2

モデル C5011S



設置マニュアル

Barco NV
Beneluxpark 21, 8500 Kortrijk, Belgium

Registered office: Barco NV
President Kennedypark 35, 8500 Kortrijk, Belgium

Copyright ©

All rights reserved.本文書のいかなる部分もコピー、複製、翻訳が禁止されています。Barco から事前の書面による通知がある場合を除いて、他の方法で、記録、転送、検索システムへの保存も認められていません。

変更点

Barco は、このマニュアルを「現状のまま」で提供し、暗黙的保証または特定の目的に対する商業性および適合性を含むがそれに限定されない、明示的または暗黙的に、いかなる保証も適用されません。Barco は、この出版物に記述されている製品やプログラムに対する改良や変更を事前通知なしでいつでも実施できます。

この出版物には、技術的な誤りや誤植が含まれている可能性があります。この出版物への変更は定期的に行われます。このようは変更は新版に組み込まれます。

Barco マニュアルの最新版は、Barco の Web サイト (www.barco.com) からダウンロードできます。

製品セキュリティ問題対応

グローバルな技術リーダーである Barco は、Barco の知的財産権を保護しながら、お客様に安全なソリューションとサービスを提供することに努めています。製品のセキュリティの問題があると、製品のセキュリティ問題対応プロセスが即座に開始されます。特定のセキュリティ問題に対処したり、Barco の製品のセキュリティ上の問題を報告するには、<https://www.barco.com/psirt> に記載されている詳細な連絡先までお知らせください。Barco は、当社の顧客を保護するために、Barco が製品の分析を行い、修正プログラムや緩和策を出すまで、セキュリティ上の脆弱性を公開したり確認したりいたしません。

特許に対する保護

本製品は、特許取得済みおよび特許申請中のアプリケーションを使用しています。詳細は、<https://www.barco.com/en/about-barco/legal/patents> を参照してください。

商標

本書に記載されているブランド名と製品名は、各所有者の商標、登録商標、または著作権である場合があります。これらのブランド名および製品名は、いずれも説明上、または例として挙げたものであり、その製品やメーカーを宣伝するものではありません。

目次

1	CX-50 Gen2 はじめに	9
1.1	CX-50 Gen2 について	10
1.2	CX-50 Gen2 の仕様	12
1.3	Base Unit について	14
1.4	モバイル装置のサポート	18
2	紹介	19
2.1	設置要件	20
2.2	開始前のセキュリティに関する推奨事項	21
2.3	基本ワークフロー	22
3	CX-50 Gen2 の設置	23
3.1	Base Unit の設置方法	24
3.2	ClickShare 会議システムのインストールに関するガイドライン	25
3.3	テーブル マウント	26
3.4	ウォール マウント	27
3.5	スタンドアロンセットアップ	29
3.6	ネットワーク デプロイメント要件	30
3.7	ネットワーク接続セットアップ	32
3.8	デュアルネットワーク接続セットアップ	33
3.9	専用ネットワークセットアップ	34
3.10	Base Unit のディスプレイ 接続	36
3.11	設備の整った会議室 (オーディオのみ、またはカメラのみ)	39
3.12	フレキシブルな会議室設定	41
3.13	Base Unit へのタッチスクリーン接続	43
3.14	カメラ接続	44
3.15	コンテンツオーディオの接続	45
3.16	エコーキャンセルスピーカーフォンオーディオ接続	46
3.17	LAN 接続	47
3.18	Base Unit の HDMI 接続	48
3.19	電源接続	49
3.20	有線ルームドック	51
3.21	Base Unit の最初の起動	52
3.22	コンフィグレーションなしで起動	53
3.23	起動するための優先方法	54
3.24	XMS Cloud 登録	60

3.24.1	PC オンボーディング	60
3.24.2	モバイル オンボーディング	61
3.25	XMS Cloud とカレンダーの統合を有効にする	65
4	Button の準備	71
4.1	ペアリング	72
4.2	ClickShare Extension Pack	74
4.3	ClickShare Extension Pack インストーラ	75
4.4	ClickShare Windows 認定ドライバ	77
4.5	ClickShare デスクトップ アプリ	78
4.6	ClickShare デスクトップ アプリの MSI インストーラー	79
5	CX-50 Gen2 構成	81
5.1	構成へのアクセス	83
5.2	ClickShare 構成ウィザード	87
5.3	画面に表示されるID	89
5.4	カスタマイズ、壁紙	91
5.5	個人用設定、独自の壁紙	93
5.6	構成ファイルの管理	95
5.7	ディスプレイ設定、出力	97
5.8	ディスプレイ設定、入力	99
5.9	周辺機器	100
5.10	フレキシブルな会議室	102
5.11	WiFi設定	103
5.12	Wi-Fi 設定、アクセスポイント設定	104
5.13	WiFi 設定、ワイヤレスクライアント	106
5.14	WiFi設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS	107
5.15	WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TTLS	110
5.16	WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、PEAP	111
5.17	WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、WPA2-PSK	113
5.18	LAN 設定	114
5.19	LAN 設定、有線認証	117
5.20	LAN 設定、EAP-TLS セキュリティモード	118
5.21	LAN 設定、EAP-TTLS セキュリティモード	120
5.22	サービス、モバイル装置	122
5.23	サービス、PresentSense	124
5.24	サービス、ClickShare API、API を使用したリモート コントロール	125
5.25	サービス、SNMP	126
5.26	セキュリティ、セキュリティ レベル	127
5.27	セキュリティ、パスワード	129
5.28	セキュリティ、HTTP 暗号化	130
5.29	Base Unit のステータス情報	132
5.30	日時の設定、手動	133
5.31	日時の設定、タイム サーバー	135
5.32	省電力設定	136
5.33	Button	138
5.34	Button、外部アクセスポイント、モード EAP-TLS	139
5.35	Button、外部アクセスポイント、モード EAP-TTLS	141
5.36	Button、外部アクセスポイント、モード PEAP	142
5.37	Button、外部アクセスポイント、モード WPA2-PSK	143
5.38	黒板	144
5.39	XMSクラウド統合	145
5.40	ファームウェア更新	147
5.41	サポートとアップデート、トラブルシューティング、ログ設定	149

5.42	トラブルシューティング、すべての設定を消去.....	150
5.43	工場出荷時の設定にリセット.....	151
5.44	トラブルシューティング、診断.....	152
6	ファームウェア更新.....	153
6.1	CX-50 Gen2 ファームウェアの更新.....	154
7	トラブルシューティング.....	155
7.1	トラブルシューティング一覧.....	156
	索引.....	161

CX-50 Gen2 はじめ に

1

1.1	CX-50 Gen2 について.....	10
1.2	CX-50 Gen2 の仕様.....	12
1.3	Base Unit について.....	14
1.4	モバイル装置のサポート.....	18

この文書について

この設置マニュアルは、会議室に CX-50 Gen2 を設置する方法について説明しています。また、すべてを動作可能にする方法についても説明します。CX-50 Gen2 の設定方法についても詳しく説明します。

入手可能なシステム説明書

設置マニュアルの次に、ユーザーガイドおよび安全手動が、Barco の Web サイト (www.barco.com/clickshare) で提供されています。

セーフティ マニュアルの印刷物は、ご購入時の CX-50 Gen2 の箱に同梱されています。



CX-50 Gen2 のバージョンによって、本マニュアルに記載される図の一部が異なる場合がありますが、機能には一切影響ありません。

1.1 CX-50 Gen2 について

CX-50 Gen2 バージョン

Conferencing Button または ClickShare アプリを使用すると、数秒で、会議室のカメラ、マイク、サウンドバー、その他の AV 周辺機器に自動的に接続され、より臨場感のある会議体験が得られます。すべてがノート PC の一部になります。

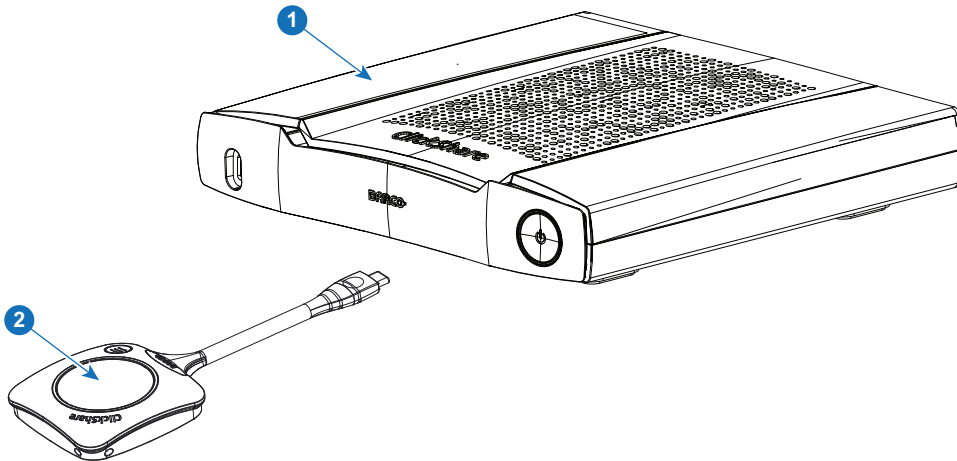
この CX-50 Gen2 は、プレゼンターがプレゼンテーションをすぐにスクリーンに表示できるようにするだけでなく、会議の他の出席者もより積極的に参加できるようにします。その結果、会議の効率性が向上し、より優れた意思決定をすることが可能です。

このセットは、ノート PC、デスクトップタブレット、またはスマートフォン OS と互換性があります。あらゆる会議プラットフォームで動作し、Conferencing Button または ClickShare アプリを使用すると、ほとんどのブランドの周辺機器（スピーカー、マイク、Web カメラ、サウンドバー）と即座に接続できます。

現在、6 種類のバージョンが市販されています。WiFi 規制により、各セットはそれぞれ特定の地域で販売されています。

コンポーネント CX-50 Gen2 セット

標準 CX-50 Gen2 は、Base Unit および 2 Conferencing Button で構成されます。製品の購入場所によって、Base Unit のソフトウェアは異なります。必要に応じて、追加の Conferencing Button および Button を保管するためのトレイを購入していただくことも可能です。



画像 1-1

1	Base Unit
2	コンファレンシング Button ¹

同梱アクセサリ

製品を購入する国によって、以下の地域別アクセサリも CX-50 Gen2 の箱に同梱されています。

製品	梱包物	同梱アクセサリ
R9861622xx ²	<ul style="list-style-type: none"> R9861622 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に依存した電源コードを備えた DC アダプター 印刷された安全マニュアル
R9861622xx ² B2	<ul style="list-style-type: none"> R9861622 2x R9861600D01C³ 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に依存した電源コードを備えた DC アダプター 印刷された安全マニュアル
R9861600D01C ³	1x R9861600D01C ³	

1. さらに Button とも呼ばれる
 2. xx=EU, CN, NA, US, ZH, RW,
 3. 米国の場合、R9861600D01CUS

お客様の国で使用できる適切な地域別アクセサリーについては、現地販売代理店にお問い合わせください。

1.2 CX-50 Gen2 の仕様

寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	39mm x 200mm x 202mm
電源	標準 110/220 V AC プラグまたは USB-C (背面)
電力消費	動作時: 74.5 W (最大) スタンバイ時: 0.27 W - ネットワーク スタンバイ時: 3.7 W
重量	985 gr
オペレーティングシステム	Windows 10 以上 macOS 11 (BigSur) 以上 Android v11 以上 (ClickShare アプリ) iOS 14 以上 (ClickShare アプリ)
システム要件	Microsoft Teams や Zoom をスムーズにご利用いただくために 最小 Intel i3 デュアルコア プロセッサ / 8 GB RAM / OS: Windows 10 最新ビルドまたは Mojave 最新ビルド 推奨: Intel i5 4 コアプロセッサ / 8GB RAM / OS: Windows 10 最新ビルドまたは Mac OS 最新ビルド
ビデオ出力	4K UHD (3840*2160) @ 60Hz.HDMI 1.4b 4K UHD (3840*2160) @ 60Hz.USB-C DP ALT モード (背面)
ビデオ入力	4k UHD (3840*2160) @30Hz.USB-C DP ALT モード (前面)
音声出力	USB、ジャック、HDMI
接続	前面: 1x USB-C 3.1 後面: 1xUSB - C 3.1、2xUSB - A 3.1、1xイーサネット LAN 2.5 Gbit、 ジャック ソケット (3.5 mm) のオーディオ アナログ ライン出力
ClickShare Buttons	2
ClickShare アプリ	デスクトップとモバイル
ネイティブプロトコル	Airplay、Google Cast、Miracast
同時接続の最大数 (Button および / またはアプリを使用)	32
ノイズレベル	最大 25dBA @ 0 ~ 30°C 最大 30dBA @ 30 ~ 40°C
認証プロトコル	スタンドアロン モードにおいて WPA2-PSK ネットワーク統合モードにおいて、ClickShare Button を使用する WPA2-PSK または IEEE 802.1X
ワイヤレス転送プロトコル	IEEE 802.11 a/g/n/ac および IEEE 802.15.1
通信範囲	ClickShare Button および ClickShare Base Unit 間最大 30m (100 ft)
周波数帯域	2.4 GHz および 5 GHz (一部の国では DFS チャンネルがサポート)
温度範囲	動作中: 0°C ~ +40°C (+32°F ~ +104°F) 最大: 3,000m で 35°C (95°F) 保管: -20°C ~ +60°C (-4°F ~ +140°F)
湿度	保管: 0 ~ 90%相対湿度、非凝縮 動作: 0 ~ 85%相対湿度、非凝縮
盗難防止システム	Kensington ロック

認可	FCC/CE
タッチスクリーンのサポートと双方向性	はい
ワイヤレス会議	アプリまたは Button を使用
ローカルビュー	高品質
ネットワーク接続	LANとWiFi (デュアル)
管理と報告	はい
保証	1年間標準。SmartCare による 5 年間のカバレッジ

コンファレンシング Button

重量	60 gr - 0.132 lb
周波数帯域	2.4 GHzおよび5 GHz
ワイヤレス転送プロトコル	IEEE 802.11 a/b/g/n/ac
認証プロトコル	スタンドアロン モードにおいて WPA2-PSK ネットワーク統合モードにおいて、WPA2-PSK または IEEE 802.1X
コネクタ	USB-C タイプ
寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	14.6 mm x 59.3 mm x 161.39 mm / 0.57" x 2.354" x 6.354"
電力消費	USBによる電力供給 5V DC 350mA標準 500mA最大

1.3 Base Unit について



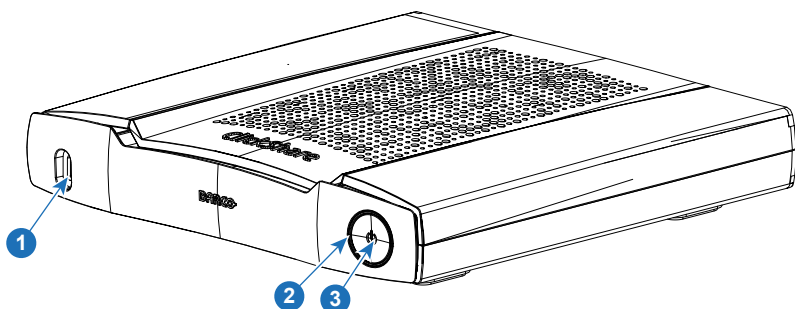
Base Unit

Base Unit は、会議 Button から無線入力を受信し、会議室のディスプレイのコンテンツを制御します。さらに、タッチスクリーン、USB カメラ、USB スピーカーフォンを Base Unit に接続できます。

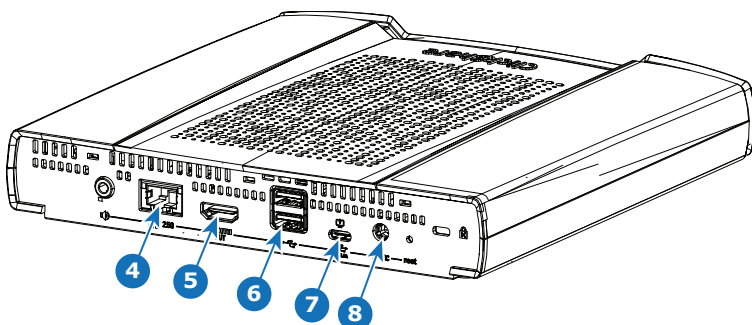
Base Unit 機能

Base Unit は、Button からワイヤレス入力を受信し、会議室のディスプレイのコンテンツおよび Base Unit に接続された周辺機器 (スピーカー、マイク、Web カメラ、サウンドバー) をコントロールします。さらに、カメラおよび / またはスピーカーフォンから Button に向けてコンテンツを送信します。

Base Unit は会議室のキャビネットの中に置いたり、会議室のテーブルの上に置いたり、壁に取り付けたりすることができます。Base Unit の設置方法に関する手順は、「設置ガイド」を参照してください。



画像 1-2



画像 1-3

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | USB Type-C™ ポート |
| 2 | ステータス LED リング |
| 3 | 待機 Button |
| 4 | LAN 入力 |
| 5 | HDMI 出力 |
| 6 | 2 X USB タイプ A ポート |
| 7 | USB Type-C™ ポート |
| 8 | 19V DC 入力 |

USB タイプ A ポート

USB ポートは、Base Unit および Button の両方のソフトウェアを更新し、タッチスクリーン、USB カメラまたは USB エコー キャンセリングスピーカーフォンを Base Unit に接続する際に使用します。

USB Type-C™ ポート

前面の USB Type-C™ ポートは、Button を Base Unit にペアリングするために使用されます。このポートは、Base Unit および Button の両方のソフトウェアおよびファームウェアをアップデートする際に使用できます。

前面の USB Type-C™ ポートは、HDMI-in / USB-C コンバータと組み合わせて使用し、HDMI 入力として使用できます。このポートは、有線ルームドック機能をサポートしています。有線ルームドックを使用すると、ユーザーは、高解像度のコンテンツを共有し、有線接続を介して部屋のオーディオとビデオに接続できます。

背面の USB Type-C™ ポートは、第 2 のディスプレイ、タッチスクリーン、USB カメラまたは USB エコーキャンセリングスピーカーフォンを Base Unit と接続するために使用されます。USB 経由の電源入力としても使用できます。

ステータス LED リング

Base Unit の電源ボタン周辺にある LED リングの色は、システムのステータスを示します。

LED の動作	説明
赤色で点灯	<ul style="list-style-type: none"> Button からのコンテンツを受信し、ディスプレイにストリーミングしています。 Base Unit の起動プロセスの最初のフェーズが進行中です。
白色で点滅	<ul style="list-style-type: none"> システムが起動中 (第 2 フェーズが進行中) です。 Button のペアリングが進行中です。 Base Unit のソフトウェアアップデート
白色でゆっくり点滅	<ul style="list-style-type: none"> ECO スタンバイ モード
白色で点灯	<ul style="list-style-type: none"> 起動状態 (ディスプレイに起動メッセージ表示) です。 Button のペアリングとソフトウェアの更新が完了したら、Base Unit から Button を取り外すことができます。
赤色で点滅	<ul style="list-style-type: none"> エラーが発生しました。
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ディープ スタンバイ/オフ

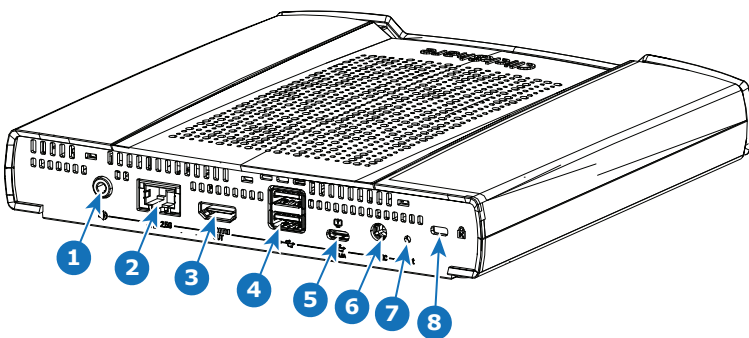
電源 Button

Base Unit の前面にある Button は、Base Unit の電源を投入した後、待機スイッチとして機能します。

- 通常動作モード時にこの Button を押すと、システムは所定の待機モードに入ります。
- 待機時にこの Button を押すとシステムが起動し、通常動作モードに入ります。

Base Unit の背面レイアウト

接続パネルは、Base Unit の背面にあります。



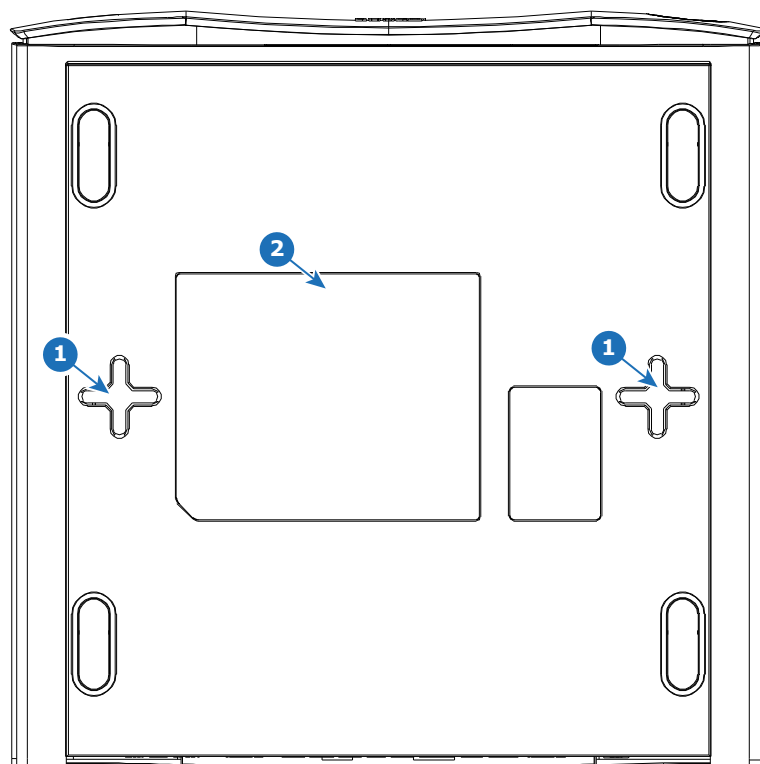
画像 1-4

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | アナログ音声出力 |
| 2 | LAN Ethernet 接続 |

3	HDMI 出力
4	USB Type-A ポート (USB 3.1)
5	USB Type-C™ ポート (USB 3.1)
6	電源接続
7	リセット
8	Kensington ロック

機械的固定ポイント

機械的固定ポイントは、Base Unit の底部にあります (Base Unit の事例 1)。



画像 1-5

アンテナ

アンテナは CX-50 Gen2 に内蔵されています。

Base Unit の下部レイアウト

Barco の部品番号、リビジョン番号、製造日 (週-年)、および製造番号が記載された製造番号ラベル(画像 1-5 の事例 2)。

適用される認可ロゴが記載された製品ラベル。

製品ラベルの記載内容:

- Barco のロゴ
- 製品名
- Barco の部品番号
- 電源定格
- 適用される規格のマーク (CE、CCC、UL など)
- 廃棄規則のマーク
- 製造国

1.4 モバイル装置のサポート

概要

下の一覧にあるアプリは ClickShare でサポートされていて、Google Play または Apple App Store からお使いのモバイル装置にインストールできます。あるいは、Windows または Mac pc にインストールできます

ClickShare をモバイルデバイスで使用する前に、モバイルデバイスの WiFi を ClickShare Base Unit の WiFi と接続する必要があります。お使いのモバイル装置のユーザー ガイドに記載されている指示に従ってください。または、Base Unit をネットワークに接続すれば、WiFi を切り替える必要はありません。

アプリ	使用デバイス
ClickShare アプリ	iOS
	Android
	Windows
	Mac OS

アプリは、www.clickshare.app からダウンロードできます。

紹介

2

2.1	設置要件.....	20
2.2	開始前のセキュリティに関する推奨事項.....	21
2.3	基本ワークフロー.....	22

2.1 設置要件

環境温度条

最高周囲温度: 40°C (104°F)

最低周囲温度: 0°C (32°F)

保管温度: -10°C ~ +60°C (14°F ~ 140°F)

湿度条件

保管: 0 ~ 90%相対湿度、非凝縮

動作: 0 ~ 85%相対湿度、非凝縮

環境条件の確認

装置の周りに大量のホコリがあるような環境で装置を設置する場合には、装置に清潔な空気が届く前にホコリを取り除くことを強くお勧めします。装置から大量のホコリを避けるまたはブロックする装置または構造が必要です。不可能な場合は、装置を清潔な空気のある環境に再設置することを考慮してください。

装置を害のある環境または汚染された空気から保護するのは、機器の所有者であるお客様の責任です。製造元は、装置が不注意な方法、誤った方法、マニュアルに従わない使用方法で使用された場合は、修理を拒否する権利を保有しています。

2.2 開始前のセキュリティに関する推奨事項

Base Unit と Button を最新の状態に保つ

Barco では、デバイスを常に改善しています。つまり、既存の機能を拡張して新しく追加しているだけでなく、セキュリティパッチも提供しています。そのため、Base Unit に最新のファームウェアをインストールして最新の状態に保ち、Button がアップデートされるようにすることをお勧めします。デバイスは常に最新のファームウェアに更新します。そのため、自動更新を入手できるよう、デバイスをインターネットに接続しておくことをお勧めします。

すべての Button がアップデートされるよう、Barco では、Base Unit をアップグレードしたらすぐに、すべての Button を対応する Base Unit とペアリングすることを強くお勧めします。

XMS プラットフォーム

XMS (Cloud) 管理プラットフォームを通じて Base Unit を管理し、更新を受信します。

XMS は、異なる場所に分布されたデバイスのコンフィギュレーション、リモート管理およびリアルタイムステータス監視のための、Barco のセキュアなクラウドベースソリューションです。デジタルワークスペースを促進する、使いやすい自動の (スケジュール設定できる) ソフトウェアのアップデート、Base Unit のコンフィギュレーション、テンプレートの作成、リモート壁紙のインストール、ユーザー管理、およびインサイトをお楽しみください。

Base Unit を鍵のかかる場所に保管する

悪意のある人物によってハードウェアが物理的に改ざんされるのを防ぐため、Barco では、鍵のかかる場所に Base Unit を保管しておくことをお勧めします。

デフォルトの Wi-Fi パスワードを変更する

Barco では、デフォルトの Wi-Fi パスワード x (WPA2-PSK モードを使用している場合にのみ適用される) を変更することを強くお勧めします。これにより、デバイスへ物理的にアクセスしない悪意のある人物にとって、Button と Base Unit の間のトラフィックを傍受するのが 1 ステップ難しくなります。

コンフィギュレーターのデフォルトのパスワードを変更する

Barco では、コンフィギュレーターのデフォルトのパスワードを変更するよう強くお勧めします。Base Unit にローカルまたは近接ネットワーク経由でアクセスできる、悪意のある人物は、e 価値のある情報 (例: Wi-Fi 資格情報など) にアクセスするために、Base Unit のコンフィギュレーターにアクセスできるかどうかを試みます。

2.3 基本ワークフロー

CX-50 Gen2 を使う前に

1. ClickShare コンポーネントおよびアクセサリを箱から取り出します。
CX-50 Gen2 の箱、の梱包物に関する詳細は、[14 ページ](#)、[Base Unit について](#) を参照してください。
2. 2つの設置方法のいずれかで Base Unit を会議室に設置します。
設置手順の詳細は、[24 ページ](#)、[Base Unit の設置方法](#) を参照してください
3. ディスプレイを HDMI 経由で Base Unit と、または背面の USB Type-C™ ポートに接続します ([36 ページ](#)、[Base Unit のディスプレイ 接続](#) を参照)。
4. Base Unit のいずれかがある場合、USB またはジャック経由でオーディオデバイスを 接続します ([39 ページ](#)、[設備の整った会議室 \(オーディオのみ、またはカメラのみ\)](#) または [45 ページ](#)、[コンテンツオーディオの接続](#) を参照)。
5. いずれかの Base Unit がある場合、USB カメラを接続します ([39 ページ](#)、[設備の整った会議室 \(オーディオのみ、またはカメラのみ\)](#) または [44 ページ](#)、[カメラ接続](#) を参照)。
6. 電源アダプタまたは背面の USB タイプ C™ ポート経由で電源を接続します ([49 ページ](#)、[電源接続 参照](#)) 。
7. Base Unit とローカルネットワークをネットワークケーブルで接続します (Base Unit がインターネットに接続され、アップデートサーバに到達可能であることを確認します)
8. デバイスを設定します。
9. XMS Cloud に Base Unit を登録し、無料の SmartCare パッケージを請求してください。詳しくは、[60 ページ](#)、[XMS Cloud 登録](#) を参照してください。
10. Button をペアリングします ([71 ページ](#)、[Button の準備 参照](#))。および/または、ClickShare アプリをインストールします。

CX-50 Gen2 の設置

3

3.1	Base Unit の設置方法	24
3.2	ClickShare 会議システムのインストールに関するガイドライン	25
3.3	テーブル マウント	26
3.4	ウォール マウント	27
3.5	スタンドアロンセットアップ	29
3.6	ネットワーク デプロイメント要件	30
3.7	ネットワーク接続セットアップ	32
3.8	デュアルネットワーク接続セットアップ	33
3.9	専用ネットワークセットアップ	34
3.10	Base Unit のディスプレイ 接続	36
3.11	設備の整った会議室 (オーディオのみ、またはカメラのみ)	39
3.12	フレキシブルな会議室設定	41
3.13	Base Unit へのタッチスクリーン接続	43
3.14	カメラ接続	44
3.15	コンテンツオーディオの接続	45
3.16	エコーキャンセルスピーカーフォンオーディオ接続	46
3.17	LAN 接続	47
3.18	Base Unit の HDMI 接続	48
3.19	電源接続	49
3.20	有線ルームドック	51
3.21	Base Unit の最初の起動	52
3.22	コンフィグレーションなしで起動	53
3.23	起動するための優先方法	54
3.24	XMS Cloud 登録	60
3.25	XMS Cloud とカレンダーの統合を有効にする	65

3.1 Base Unit の設置方法



最適な性能を確保するため、Base Unit はディスプレイの近くに設置し、Base Unit と Button の間に障害物を置かないようにしてください。



Base Unit を金属エンクロージャ内に設置しないでください。

機器の設置

Base Unit は、以下の 2 つの方法で会議室に設置できます。

- テーブルマウント
- ウォールマウント

Base Unit の片側側面には、後に Kensington ロックが表示されます。



警告: シーリングマウントは許可されていません。

スタンドアロンまたはネットワーク統合

Base Unit は、スタンドアロンユニットとして使用することも、企業ネットワークに統合することもできます。

- すぐに使用可能
- イーサネットリンクですぐに使用可能
- 企業ネットワークへの統合
- デュアルネットワーク統合
- 専用企業ネットワークへの統合

会議室のセットアップ

- 会議室の完全なセットアップ
- フレキシブルな会議室設定
- オーディオのみの会議室のセットアップ
- ビデオのみの会議室のセットアップ

3.2 ClickShare 会議システムのインストールに関するガイドライン

概要

- Base Unit を最新の状態に保ちます。最適な体験を提供し、システム全体のセキュリティを確保するために、無料アップデートは複数回利用できます。
- ユーザー、ゲスト、従業員および管理者にとって最高のユーザーエクスペリエンスを実現するために、Base Unit をネットワーク (有線イーサネット接続または無線接続) に接続することをお勧めします。そうすることで、ゲストと従業員の両方が、無線ネットワークから切断したりインターネット接続を失ったりすることなく、BYOD サービス (AirPlay、Google Cast、Miracast など) だけでなく ClickShare アプリも利用できるようになります。
- 高品質で低遅延のワイヤレス会議には、会議 Button と Base Unit の間の直接接続を使用することをお勧めします。
- 金属製のシェルを取り付けないように、Base Unit を開いた状態で取り付けます。
- 最適なユーザー体験を実現するために、ClickShare および AirPlay、Google Cast や Miracast などの BYOD サービスは、両方ともさまざまな方法でプレゼンスと近接検出を実行しています。これらのメカニズムを最大限に活用するには、ClickShare Base Unit を会議室内に設置することを強くお勧めします。このときは、閉じたキャビネットではなく、ディスプレイの近くに設置してください。
- カメラやオーディオデバイスは、必ず USB 経由で Base Unit に接続してください。
- 最適なセキュリティのために、デフォルトのパスワードを変更することを強くお勧めします。
- BYOD プロトコルを有効にして、ClickShare アプリを共有するために Base Unit を会社ネットワークに接続する場合は、スタンバイモードを「エコスタンバイ」に変更することを強くお勧めします。そうしないと、BYOD プロトコル、ClickShare アプリ、およびおそらく ClickShare Button が Base Unit をスタンバイから起動できなくなります。



より詳細なガイドラインについては、Barco のウェブサイトの製品のサポートページで入手できる“ネットワーク導入ガイド”を参照してください。

3.3 テーブル マウント

概要

Base Unit を会議室テーブルの上に直接置きます。

Base Unit の総重量は 900 g です。

3.4 ウォール マウント

ウォール マウントについて

Base Unit を壁に取り付ける場合、取り付け金具は必要ありません。Base Unit はどのような向きで壁に取り付けても構いませんが、接続部を下に向けるようお勧めします。

Base Unit の総重量は 900 g です。

必要なツール

- ドリル (壁の種類によって必要なドリルの種類は異なります)
- ドライバー (使用するねじに合ったもの)

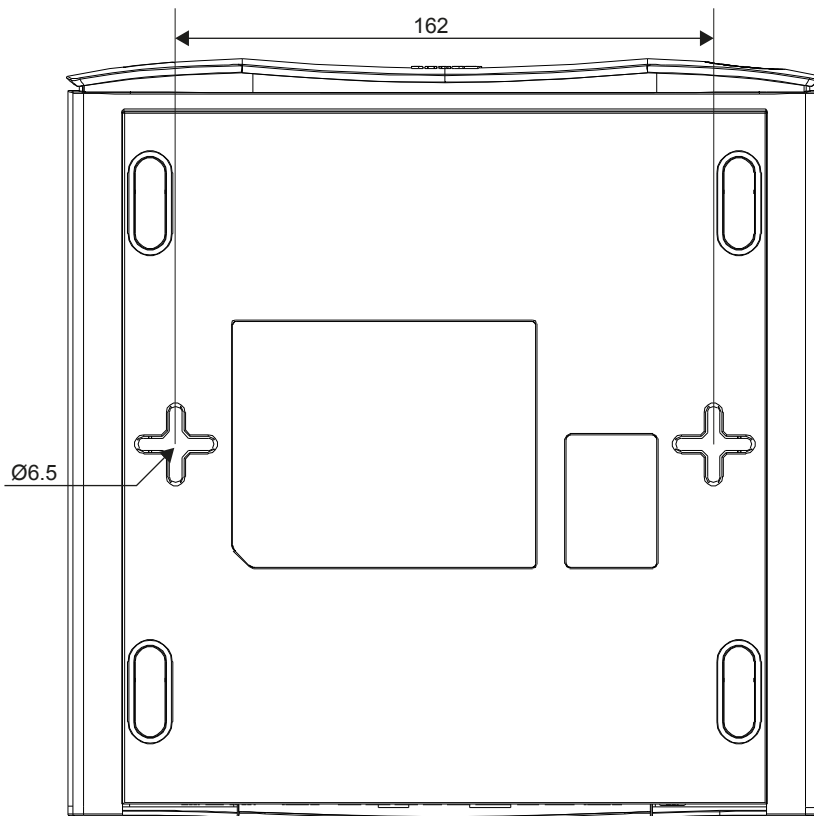
必要な部品

- 取り付けねじ 2 つ、ねじ頭の最大直径 6.5 mm
- プラグ 2 つ

取り付け方法

1. 図に示すように、壁または天井に 2 つの穴をあけます。

水平距離: 162mm



画像 3-1 取り付け穴

2. それぞれの穴にプラグを挿入し (必要に応じて、壁または天井の種類によって)、2 つのねじを締めます。ねじは緩く締めてください。



注: 取り付けねじとプラグは CX-50 Gen2 の箱に同梱されていません。ねじおよびプラグの種類は、Base Unit を取り付ける壁の種類 (石製、木製、石膏ボード製など) によって異なります。Base Unit の下部のプレートにある穴よりねじ頭が大きいことを確認してください (6.5 mm 未満)。

3. Base Unit を両方のねじ頭に引っ掛け、Base Unit が固定されるまで下方方向にスライドします。

3.5 スタンドアロンセットアップ

概要

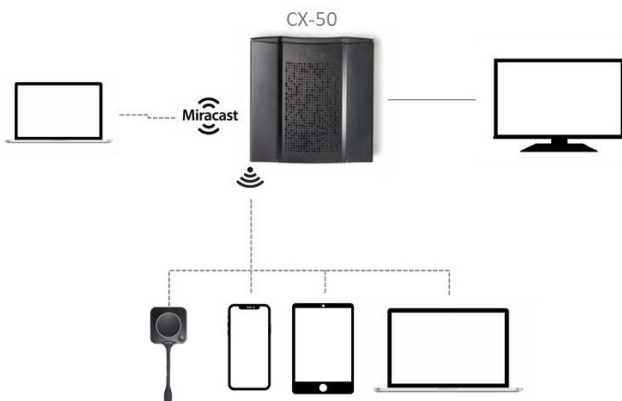
このセットアップは、設置の点で最も簡単であり、一時的なセットアップや、一元管理やサードパーティの統合が不要な組織で使用できます。

ClickShare Base Unit と Button は、企業ネットワークに統合されていなくても、すぐに使用できます。アップデートを確認し、デバイスを SmartCare に登録するために、少なくとも 1 回は Base Unit をインターネットに接続することをお勧めします。ユーザーは、Button が Base Unit にペアリングされてから、あるいは ClickShare アプリまたは Miracast を使用するか、Airplay または Google Cast を使用してモバイルデバイスを使用して、ClickShare Button 経由で Base Unit に直接接続できます。

ClickShare Button を使用すると、インターネットに接続したままにできます。ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay、Chromecast と共有するユーザは、Base Unit のアクセスポイントに接続する必要があり、デバイスがデータ (3G/4G) を同時に使用できる場合にのみインターネットにアクセスできます。このためには、Base Unit のアクセスポイントがオフになっていないこと、表示されていること、および誰でも接続できることが必要です。

Miracast 経由での共有は、WiFi 経由で直接できます。

ClickShare Base Unit および Button をすぐに使用できることは、一時的なセットアップ、ビジターセンター、およびネットワーク統合の必要や可能性がない中小規模の設置に最適です。このセットアップでは、最小限の設置作業で、共有データをエンタープライズネットワークから完全に分離します。Base Unit の更新および設定は、手動で行う必要があります。



画像 3-2

3.6 ネットワーク デプロイメント要件

一般

このトピックでは、デバイスを企業ネットワークに統合することに関する推奨事項が含まれます。特定の機能が動作するため構成する必要がある、最小要件と必要なポートおよびファイアウォール ルールに関する詳細な概要が記載されています。

Base Unit: 初回の設定

- **アクティブ化と更新 (en: Activation and update)** : このアクションでは、以下に記載した自動更新機能と同様、update.cmp.barco.com および assets.cloud.barco.com に対するポート 443 でのアウトバウンド TCP 接続が必要です。
- SmartCare および XMS クラウド機能を有効にするための **[XMS クラウドへの接続]**: TCP ポート 443 から *.azure-devices.net、*.core.windows.net および global.azure-devicesprovisioning.net に送信します。

初回の設定では、ラップトップで以下にアクセスする必要があります:

- XMS Cloud: アウトバウンド TCP ポート 443 から xms.cloud.barco.com
- MyBarco ポータル: アウトバウンド TCP ポート 443 から *.barco.com (login/xms.cloud.barco.com)。
- (オプション) デバイスの Web コンフィギュレータ: TCP ポート 80 および 443 から Base Unit、または Base Unit の Wi-Fi に直接接続できる機能。

必要なポートの概要

自社のネットワークで次のポートを開き、コンテンツを ClickShare 経由で共有できるようにします:

送信側/受信側		ポート
ClickShare Button (ワイヤレスプレゼンテーション)	TCP	2345、6544
	UDP	
ClickShare デスクトップおよびモバイル アプリ (ワイヤレスプレゼンテーション)	TCP	6541-6545
	UDP	5353、1900
ワイヤレス会議用の追加ポート (Button またはデスクトップアプリ)	TCP	1235、9999
	UDP	1234
AirPlay	TCP	4100-4200、7000、7100、47000
	UDP	4100-4200、5353
Google Cast	TCP	8008、8009、9080
	UDP	1900、5353、32768、61000 ⁴
Miracast MS-MICE	TCP	7236、7250
	UDP	7236
ClickShare 構成	TCP	80、443
	UDP	該当なし
XMS Cloud	TCP	443
XMS Edge	TCP	4003
自動更新	TCP	80、443
	UDP	該当なし

4. Google Cast はビデオストリーミング用に、32768 より大きい UDP ポートをランダムに選択します。

送信側/受信側		ポート
SNMP	UDP	161 および 162
REST API	TCP	4003

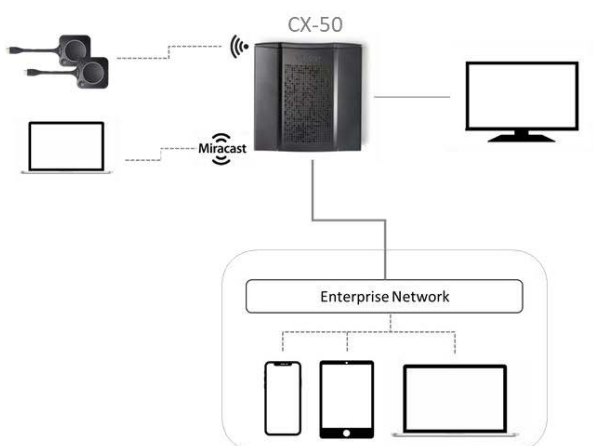
3.7 ネットワーク接続セットアップ

概要

これは、従業員にシームレスな操作性を提供する最もシンプルな設置法です。一時的なセットアップ、ビジターセンター、ネットワーク統合の必要がない小規模から中規模の設置、社内会議室、フラットなネットワークトポロジを持つ企業、または ClickShare Button がシステムへの主要な方法である場合に推奨されるセットアップです。

このデフォルトモードで、ClickShare Button および Base Unit は、すぐに使用でき (Button は、使用前に Base Unit にペアリングされなければなりません)、ユーザは、インターネット接続を失うことなく、Base Unit が接続されているネットワーク経由で ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay、Google Cast と Base Unit に共有できます。Miracast を介した共有は、デバイスの構成によって異なります。

ClickShare Button を使用すると、ゲストはゲスト LAN に接続したままでインターネット接続を維持できます。ゲストモバイルデバイスは通常、Base Unit に直接接続する必要があり、デバイスがデータ (3G/4G) を同時に使用できる場合にのみインターネットにアクセスできます。



画像 3-3

CX-50 の Miracast

Base Unit が LAN ケーブルを介してネットワークに接続されると、Miracast は WiFi Direct およびインフラストラクチャ (MS-MICE) を介して使用できるようになります。

Base Unit がクライアントモードでワイヤレスネットワークに接続されると、Miracast を WiFi Direct およびインフラストラクチャ (MS-MICE) を介して使用できるようになります。Base Unit がデュアルネットワーク構成で設定されている場合、MS-MICE は LAN 接続でのみ使用できます。そのネットワークに接続されていない場合、ユーザーのデバイスは WiFi Direct 経由で Base Unit に接続します。

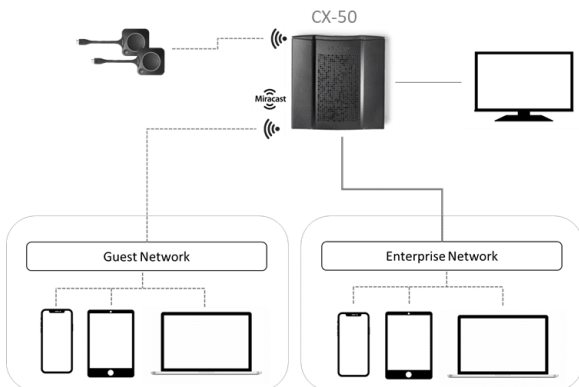
3.8 デュアルネットワーク接続セットアップ

概要

この設置では、従業員とゲストにシームレスなエクスペリエンスを提供し、高度なネットワークコンフィグレーションを持つ組織、ゲスト、訪問者、外部の人が頻繁に使用する会議室、または ClickShare アプリやネイティブ BYOD プロトコルなどの場合に推奨される設定です。AirPlay、Google Cast、Miracast は、組織内で頻繁に使用されます。

この設定では、CX-50 を使用して ClickShare Buttons を Base Units アクセスポイントに直接接続します。

ユーザーは、Base Unit が接続されているいずれかのネットワークを介して、ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay、Miracast、および Google Cast を使用して Base Unit と共有できます。Miracast MS-MICE は LAN 接続を介してのみ利用可能であり、他のすべてのデバイスは Wi-Fi Direct を介して Base Unit に直接接続します。



画像 3-4

コンフィギュレーターを使用して設定する方法

1. Base Unit を接続し、ClickShare コンフィギュレーターを参照してログインします。
2. システムメニューの **Button** を選択し、**設定の編集** をクリックします。
ドロップダウンメニューから外部アクセスポイントを選択し、優先認証モードを選択して詳細を入力します。
変更の保存 をクリックします。詳しくは、[138 ページ](#)、[Button](#) を参照してください。
3. Button と Base Unit を再度ペアリングします。
4. オプションで、Base Unit の WiFi をアクセスポイントに設定することも、オフに設定することもできます。詳しくは、[106 ページ](#)、[WiFi 設定](#)、[ワイヤレスクライアント](#) を参照してください。

XMS による設定

1. XMS にログインし、**Base Units** タブに移動します。
2. デバイスリストで、ネットワーク統合モードを導入する Unit を選択します。
3. コンフィギュレータードロップダウンリストを開き、ネットワーク統合を選択します。
4. ネットワーク統合モードの認証モードのいずれか一つを選択し、詳細を入力します。
5. ClickShare ボタンを更新された Base Unit と再ペアリングし、新しい設定を適用します。
XMS の使用方法に関する詳細は、XMS のユーザーガイドを参照してください。

3.9 専用ネットワークセットアップ

概要

このインストールでは、Base Unit との間のすべての接続を制御できる、分離ネットワークセットアップが提供されます。この専用 AV（または ClickShare）ネットワークまたは VLAN を使用すると、接続されている物理 LAN または仮想 LAN 間で接続が発生しないように、または帯域幅、セキュリティおよび遅延に関するビジネス要件を確保するために、他のすべての IP トラフィックからすべての ClickShare トラフィックを分離するために、より詳細なアクセス制御を行うことができます。

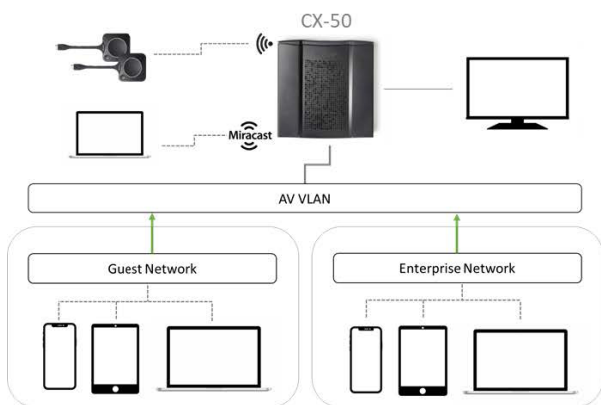
このセットアップでは、組織のネットワークトポロジとセキュリティ要件によって、設定が大きく異なる場合があります。ここでは、Base Unit が専用の AV VLAN に配置される簡単な設定について説明します。これは、組織内で一般的に使用される方法です。

この設定では、ClickShare Button および Base Unit がすぐに直接動作します (Button は、使用する前に Base Unit とペアリングする必要があります)。専用ネットワークに Base Unit がインストールされているため、ネットワーク上で、ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay、Google Cast を使用できるようにするには、ファイアウォール構成が必要です。

ゲスト WiFi または従業員 WiFi からの接続を許可するようにファイアウォールが構成されていない場合、ユーザは Base Unit のワイヤレスアクセスポイントに接続して、ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay および Chromecast を使用できます。また、デバイスがデータ (3G/4G/5G) を同時に使用できる場合のみ、インターネットにアクセスできます。このためには、Base Unit のアクセスポイントがオフになっていないこと、表示されていること、および誰でもに接続できることが必要です。モバイルユーザは、スタンドアロンセットアップで説明するエクスペリエンスに限定されます。Miracast の場合、Base Unit は、Miracast に WiFi で直接接続するように設定する必要があります。

Base Unit を企業ネットワークに接続すると、一元管理にエクスペリエンス管理スイート (XMS) を使用したり、自動更新機能を使用したりしてインストールベースを最新の状態に保つことができます。

ネットワークに接続されている Base Unit は、SNMP を介して監視でき、Crestron などの他のサードパーティ製システムによって制御および監視できます。また、ClickShare REST API を介してインターフェイスすることもできます。



画像 3-5

コンフィギュレーターを使用して設定する方法

1. Base Unit を接続し、ClickShare コンフィギュレーター を参照してログインします。
2. システムメニューの **Button** を選択し、**設定の編集** をクリックします。

ドロップダウンメニューから外部アクセスポイントを選択し、優先認証モードを選択して詳細を入力します。

変更の保存 をクリックします。詳しくは、[138 ページ](#)、[Button](#) を参照してください。

3. Button と Base Unit を再度ペアリングします。
4. オプションで、Base Unit の WiFi をアクセスポイントに設定することも、オフに設定することもできます。詳しくは、[106 ページ](#)、[WiFi 設定](#)、[ワイヤレスクライアント](#) を参照してください。

XMS による設定

1. XMS にログインし、*Base Units* タブに移動します。
2. デバイスリストで、ネットワーク統合モードを導入する Unit を選択します。
3. コンフィギュレータードロップダウンリストを開き、ネットワーク統合を選択します。
4. ネットワーク統合モードの認証モードのいずれか一つを選択し、詳細を入力します。
5. ClickShare ボタンを更新された Base Unit と再ペアリングし、新しい設定を適用します。
XMS の使用方法に関する詳細は、XMS のユーザーガイドを参照してください。

3.10 Base Unit のディスプレイ接続

ディスプレイを Base Unit に接続する方法


方法 1: HDMI ケーブルを使用してディスプレイを Base Unit に接続します。

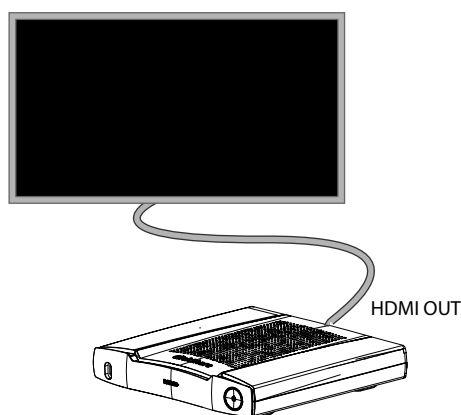
方法 2: USB 経由でビデオをサポートするディスプレイの場合、ディスプレイを USB ケーブル経由で Base Unit の USB Type C ポートに接続します。

方法 3: デュアルディスプレイの場合は、1 台のディスプレイを Base Unit の HDMI 出力に接続し、2 台目のディスプレイを Base Unit の USB Type C ポートに接続します。

HDMI 経由での接続

1. HDMI ケーブルを使って、Base Unit をディスプレイに接続します。

 注: ディスプレイケーブルは、購入時の ClickShare の箱には同梱されていません。



画像 3-6

ディスプレイ構成を設定する際、HDMI ケーブルをディスプレイに接続します。必要に応じて、ディスプレイポートまたはディスプレイ側の DVI ポートにアダプターを接続します。

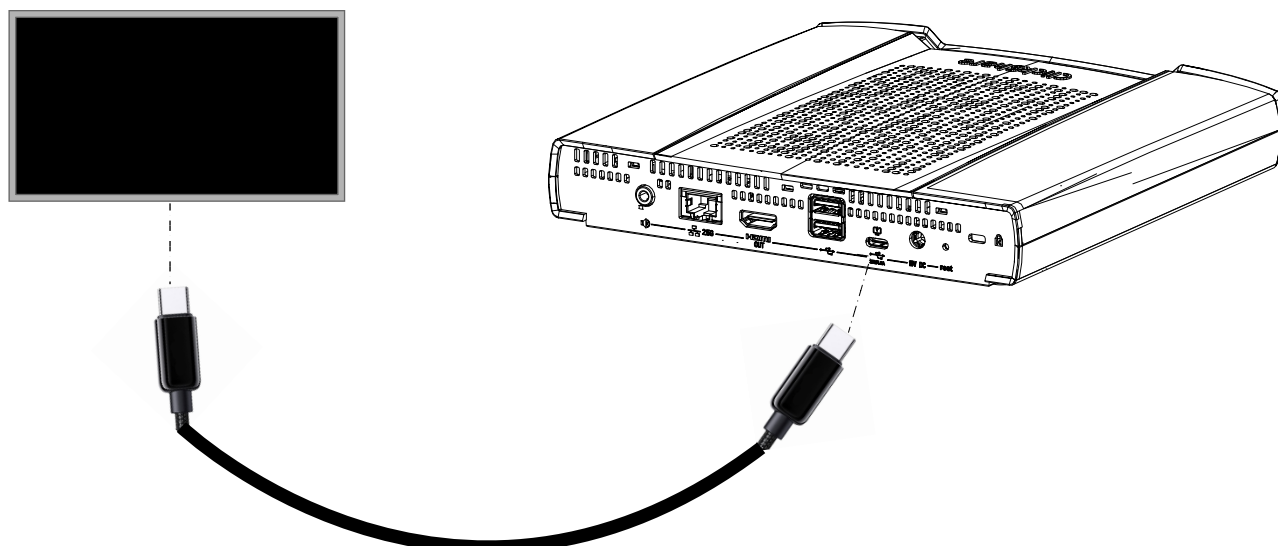


画質を保証するには、4K の性能と、HDMI 2.0 仕様に対応する HDMI ケーブルをシールドする制限 EMC 露出の 360 度ボンディングを使用する必要があります。

USB 経由で接続

1. Base Unit の背面にある USB Type-C ポートをディスプレイの USB 入力に接続します (USB 経由でビデオをサポートするディスプレイの場合のみ)。

Barco のウェブサイトでは、サポート / 推奨ケーブルの全リストを確認してください。



画像 3-7

ビデオとオーディオは USB ケーブル経由でディスプレイに転送されます。



ディスプレイが USB Type-C ポート経由で接続され、そのディスプレイに追加の USB Type-C ポートがある場合、これらのポートを使用してカメラやエコー キャンセリング スピーカーフォンに接続できます。

その他にも、ディスプレイを USB Type-C 接続経由で 90 W または 100 W (20V/5A または 20V/45A) を出力できる場合、Base Unit は電力供給にその方法を使用できます。



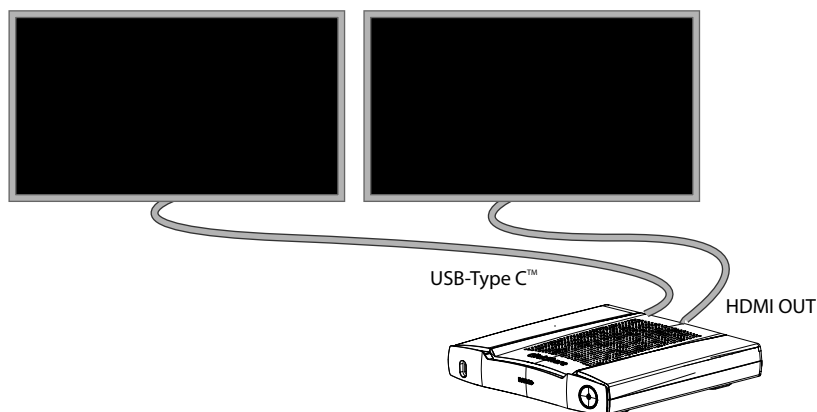
Base Unit とディスプレイの間で HDMI と USB Type-C の両方を使用した場合、HDMI 接続が優先されます。



ウルトラワイド ディスプレイは、「DisplayPortからUSB」接続でしか接続できません。

デュアルディスプレイ接続

1. 1 台のディスプレイを Base Unit から HDMI に接続します。



画像 3-8

2. 2 台目のディスプレイを USB 経由で Base Unit の背面の USB Type-C ポートに接続します。



注: タッチスクリーン ディスプレイは、USB Type-C ポートに接続する必要があります!



注: 一度に接続できるウルトラワイド ディスプレイは 1 台のみです。そのウルトラワイド ディスプレイがタッチ対応であれば、他のタッチ ディスプレイは使用できません。

3.11 設備の整った会議室（オーディオのみ、またはカメラのみ）

設備の整った会議室

会議室内では、次のコンポーネントを使用できます。

- USB カメラは、少なくとも 720p の解像度をサポートしている必要があります。
- USB 経由で接続されたスピーカー/マイクシステム。

Button と接続すると、会議室のスピーカーフォン、マイク、およびカメラのワイヤレスをラップトップに接続し、ビデオ会議通話で会議室のより良い機器を使用できます。

ほとんどのビデオ会議ツールでは、会議室の周辺機器（カメラとスピーカーフォン）の選択は自動的に行われます。

壁紙のアイコンは、室内の周辺機器の可用性とステータスを示します。いずれかの会議室が Base Unit に接続されておらず、オーディオのみの会議室またはビデオのみの会議室の作成ができる場合は、対応するアイコンは壁紙に表示されません。



画像 3-9

- | | |
|--|---|
| <p>A 周辺機器が接続されていません。ローカルビューがアクティブです</p> <p>B カメラとスピーカーフォンが接続されていますがローカルビューのみです</p> <p>C カメラとスピーカーフォンが接続されてアクティブで、ローカルビューがアクティブです</p> <p>1 ローカルビューがアクティブです</p> <p>2 カメラが接続されていますが、アクティブではありません</p> | <p>3 スピーカーフォンが接続されていますが、アクティブではありません</p> <p>4 ローカルビューがアクティブです</p> <p>5 カメラが接続され、アクティブです</p> <p>6 スピーカーフォンが接続されていてアクティブで、ミュートされていません</p> <p>7 ローカルビューがアクティブです</p> |
|--|---|



マイクのミュート状態は、記号にダッシュが付いたマイク記号で示されます。

ClickShare アプリを 1 回クリックするだけで、議題の次の仮想会議に参加できます。Outlook カレンダーは、ClickShare コラボレーションアプリと自動的に同期します。議題の次の Microsoft Teams 会議は ClickShare アプリに表示されます。1 回のクリックでその通話に参加すると、Teams アプリが自動的に開き、通話がすぐに開始されます。同じことが Zoom、Webex、その他の通話にも当てはまります。

1 回のクリックでコンテンツを共有できます。Microsoft Teams、Zoom、または Webex の通話でコンテンツの共有を開始すると、ClickShare は、同じコンテンツを会議室のディスプレイと自動的に共有します。

オーディオのみの会議室

オーディオのみの会議室には、USB で接続されたスピーカー / マイクシステムが備わっています。

Button または ClickShare デスクトップアプリに接続すると、会議室のスピーカーフォンとマイクをラップトップに接続して会議通話で使用できます。


ビデオのみ会議室

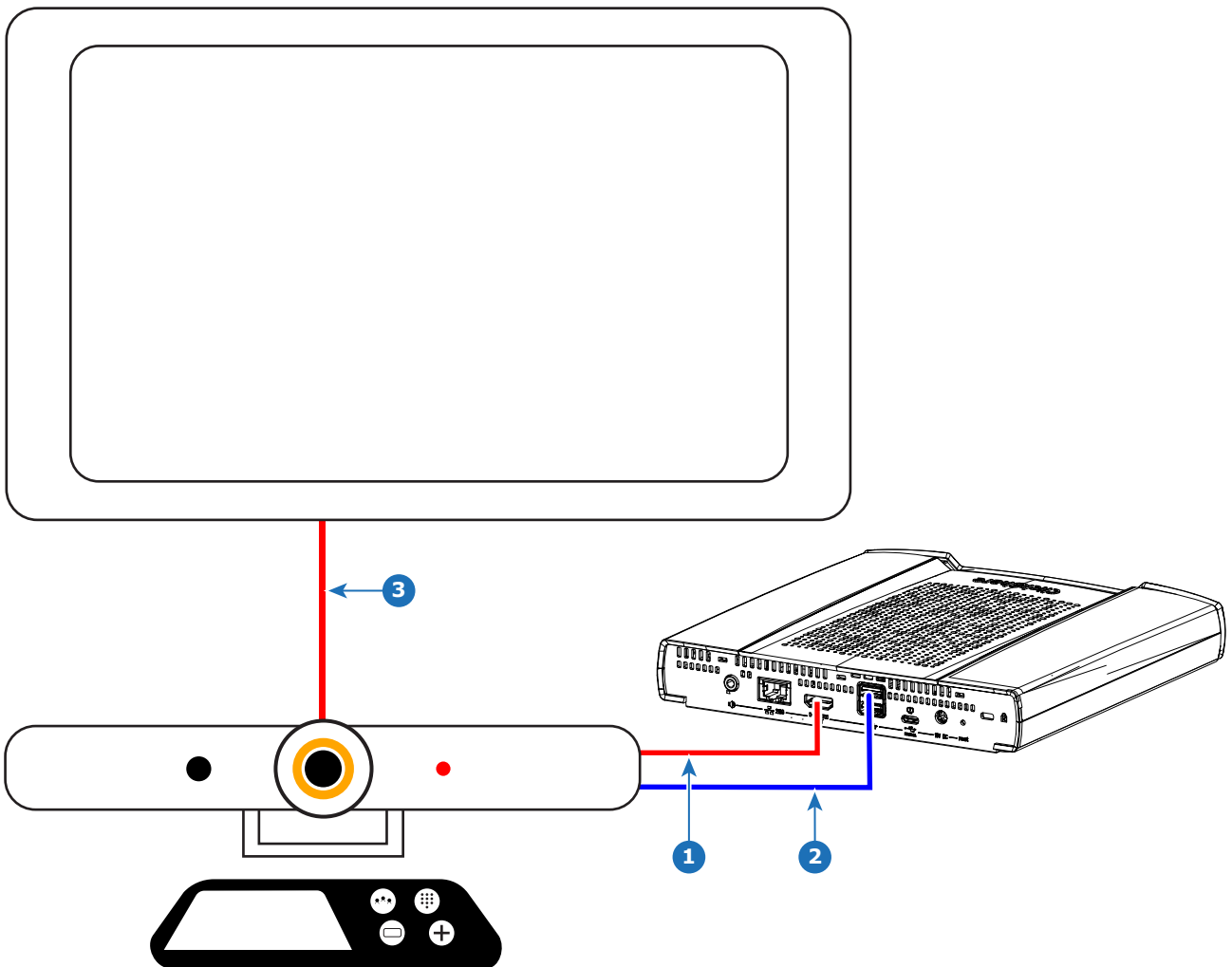
ビデオのみ会議室には、Base Unit に接続された USB カメラのみが接続されています。

3.12 フレキシブルな会議室設定

コラボレーションバー

1. コラボレーションバーを CX-50 Gen2 のバックポートに接続します。
 - a) CX-50 Gen2 の「HDMI out」ポートからコラボレーションバーの「HDMI in」ポートに「HDMI」ケーブルを接続します（事例 1）。
 - b) CX-50 Gen2 の「USB-A」ポートからコラボレーションバーの専用「USB」ポートに「USB」ケーブルを接続します（事例 2）。

 注: デュアルスクリーンの設定には、追加のスイッチングハードウェアが必要です。セカンダリディスプレイを前面の「USB-C」ポートに直接接続することはサポートされていません!
2. コラボレーションバーの「HDMI out」ポートからプライマリディスプレイの「HDMI in」ポートに「HDMI」ケーブルを接続します（事例 3）。

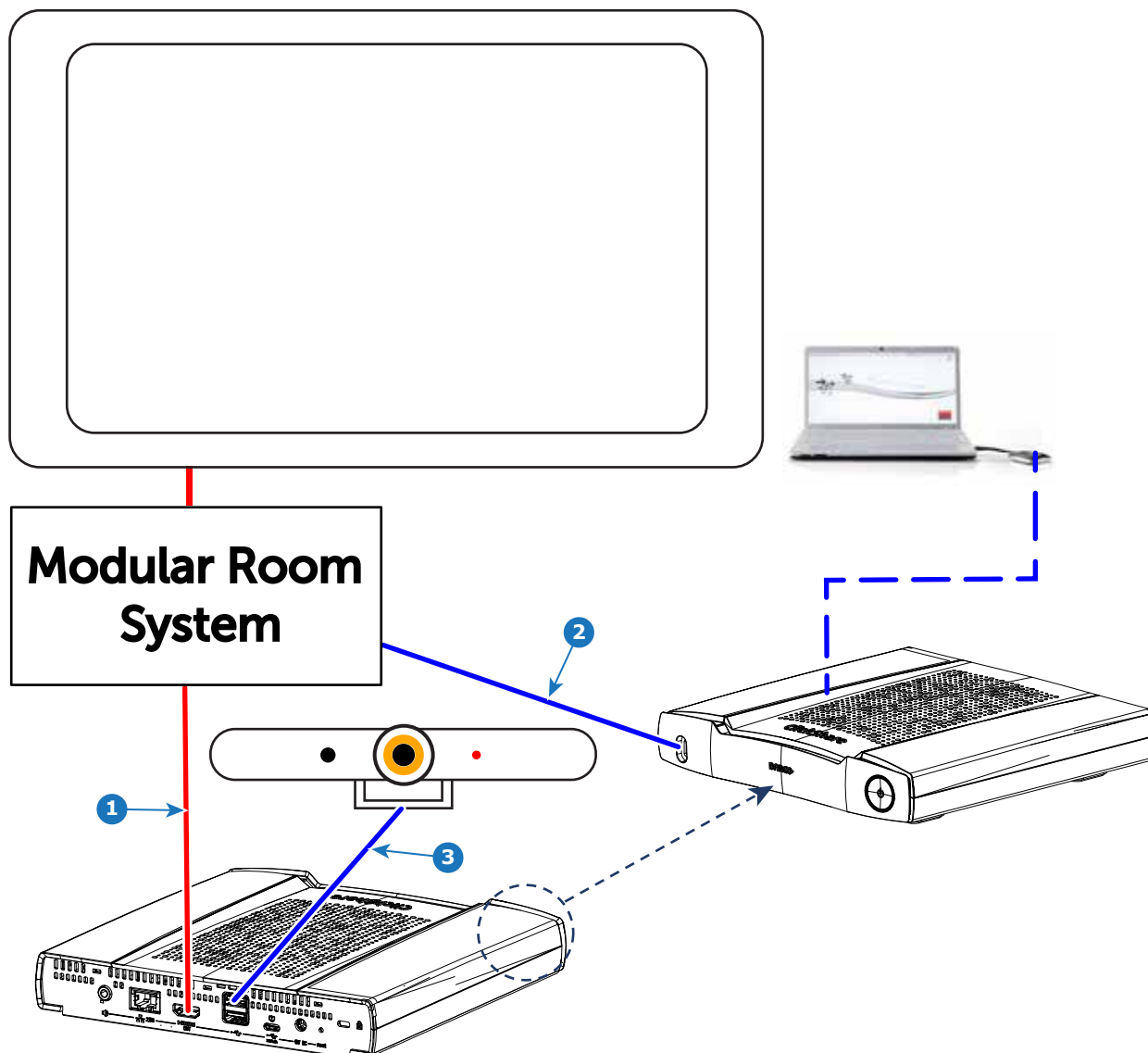


画像 3-10 コラボレーションバーの接続例

モジュール設定

1. CX-50 Gen2 の「HDMI out」ポートからルームコントローラの「HDMI in」ポートに「HDMI」ケーブルを接続します（事例 1）。
2. CX-50 Gen2 の前面にある「USB-C」ポートから「USB-AからUSB-C」ケーブルをルーム PC の「USB-A」に接続します（事例 2）。
3. CX-50 Gen2 の背面にある「USB-A」または「USB-C」ポートから「USB」ケーブルを外部周辺機器に接続します（事例 3）。

注: モジュール設定モードでは、ルームシステムモードの Base Unit と新しい Button をペアリングできません!



画像 3-11 モジュラー ルーム システムの接続例

3.13 Base Unit へのタッチスクリーン接続

接続について

Base Unit にはスクリーンを 1 台接続できます。

ビデオを接続するには、Base Unit とディスプレイ間を HDMI で接続します。タッチ機能を接続するには、タッチスクリーンと Base Unit の間に USB ケーブルを接続する必要があります。サポートされるタッチスクリーンのリストは、Barco の Web サイトにあります。<https://www.barco.com/en/support/docs/TDE9538> を参照してください。

接続するには

1. Base Unit とタッチスクリーンディスプレイの間に HDMI ケーブルを接続します。必要に応じて、ディスプレイポートまたはディスプレイ側の DVI ポートにアダプターを接続します。
2. タッチスクリーンの USB 出力を Base Unit の USB コネクタに接続します。



注: USB ケーブルでディスプレイが Base Unit に接続されている場合、利用可能な追加 USB がある場合はタッチスクリーンをディスプレイに接続できます。

3.14 カメラ接続

USB カメラについて

少なくとも 720p の解像度を持つ USB カメラは、Base Unit に接続できます。サポートされるカメラのリストは、Barco の Web サイトにあります。

USB ポートは USB 2.0 ポートのため、HDMI カメラは HDMI から USB へのコンバータ経由でサポートされます。

接続するには

1. USB 経由でカメラを Base Unit に接続します。

Base Unit に接続されているカメラは、Button を接続するとアクセス可能になります。ドライバは必要ありません。すべてのカメラが「ClickShare Camera」として表示されます。

3.15 コンテンツオーディオの接続

コンテンツオーディオについて (スピーカーフォンが接続されていない場合)

ClickShare Buttonは、ユーザのラップトップのオーディオ出力をキャプチャし、それをビデオ信号とともに Base Unit に送信します。オーディオは、ミニジャックソケット (3.5mm)、TOSLINK ソケット、または HDMI コネクタ (コンフィギュレーターで設定可能) からラインレベルで出力できます。

音声信号をビデオ信号とともに送信するかどうかは、ユーザーが決定できます。このオプションは、ラップトップのスピーカーまたはヘッドフォンをコントロールする際に使用するのと同じツール (オペレーティングシステムのオーディオコントロール、またはラップトップのキーボードにあるボタン (ミュート/ミュート解除、ボリュームを調整するボタンなど)) を使って選択できます。

ユーザがコンテンツを共有すると、オーディオ信号とビデオ信号は同期されます。

コンテンツオーディオについて (スピーカーフォンが接続されている場合)

ユーザのラップトップでキャプチャされたコンテンツオーディオは、Button の共有を介して Base Unit に送信され、スピーカーフォンが接続された USB ポートに送信されます。

HDMI 経由のオーディオ (スピーカーフォンが接続されていない場合)

ディスプレイが HDMI を使用して接続されていて、それがオーディオをサポートしている場合、オーディオを別接続する必要はありません。音声信号は、ビデオ信号とともにディスプレイに送信されます。

USB スピーカーフォンが Base Unit に接続されている場合、すべてのオーディオが出力されます。別のオーディオシステムが接続されている場合でも。

音声を別接続するには、

1. アナログ出力を使用する場合は、ミニジャック (3.5 mm) の付いたオーディオケーブルを Base Unit のアナログオーディオ出力に接続します。
デジタル出力を使用する場合は、TOSLINK コネクタ付き光ファイバーケーブルを Base Unit のデジタルオーディオ出力に接続します。
2. そのケーブルを会議室のサウンドシステムに接続します。



音声出力はコンフィギュレーターで選択する必要があります。詳しくは、[81 ページ](#)、[CX-50 Gen2 構成](#) を参照してください。

サウンドが送信されない場合

一部の Windows 環境では、サウンドが送信されません。これは、次のように解決できます (Windows のバージョンによって異なります)。

たとえば、Windows 7 の場合:

1. システムトレイにあるサウンドアイコンを右クリックし、[デフォルトデバイス] を選択します。[サウンド] ウィンドウが開きます。
2. [スピーカー ClickShare]、[規定値に設定] を選択し、[適用] をクリックします。

たとえば、Windows 10 の場合

1. システムトレイのサウンドアイコンをクリックし、上矢印をクリックして、可能性を開きます。
2. 目的のデバイスを選択します。

3.16 エコーキャンセルスピーカーフォンオーディオ接続

エコーキャンセルスピーカーフォンのオーディオについて

Base Unit に接続されたエコーキャンセルスピーカーフォンによるオーディオキャプチャは、Button に送信され、リモート会議で使用できます。Button から Base Unit に伝送されるコンテンツオーディオは、スピーカーフォンに送信されます。

Button とスピーカーフォン間の双方向オーディオ伝送です。

USB スピーカーフォンのサポート

サポートされるスピーカーフォンのリストは、Barco の Web サイトにあります。

エコーキャンセルスピーカーフォンの接続方法

1. USB 経由でスピーカーフォンデバイスを Base Unit に接続します。

USB スピーカーフォンが Base Unit に接続されている場合、すべてのオーディオが出力されます。別のオーディオシステムがコンテンツオーディオに接続されている場合でも。

サウンドが送信されない場合

一部の Windows 環境では、サウンドが送信されません。これを解決するには、以下の手順に従ってください:

たとえば、Windows 7 の場合

1. システムトレイにあるサウンドアイコンを右クリックし、[デフォルト通信デバイス] を選択します。[サウンド] ウィンドウが開きます。
2. [エコーキャンセルスピーカーフォン] を選択し、[規定値に設定] を選択し、[適用] をクリックします。

たとえば、Windows 10 の場合

1. システムトレイのサウンドアイコンをクリックし、上矢印をクリックして、可能性を開きます。
2. 目的のデバイスを選択します。

間違ったオーディオデバイスを選択すると起こること

- 画面コンテンツを共有していて、オーディオがスピーカーフォンを通過する場合
 - 共有してなくても、部屋でオーディオが再生されます
 - オーディオが低遅延で送信されるため、リップシンクはありません
 - 積極的なジッター適応により、サウンド (特に音楽) は 100% 固定トーンではない場合があります
- UC&C 通話で ClickShare スピーカーを使用する場合
 - オーディオには追加の遅延があります
 - 画面に表示されていないときはオーディオが出力されないため、「通話終了」や「ミュート状態」と誤解される可能性があります。
- 部屋のスピーカーフォンをマイクとして選択せず、ラップトップのマイクを ClickShare スピーカーまたは部屋のスピーカーフォンと組み合わせて選択した場合:
 - リモート参加者のエコーの可能性が高い!
 - 部屋のマイクのピックアップが悪い

3.17 LAN 接続

LAN 接続について

Base Unit は、ローカルネットワークまたはラップトップに直接接続できます。

最大許容 LAN 速度: 1000 Mbit

LAN 接続と XMS クラウドを使用して設定、監視、追加機能を行うことを強くお勧めします。また、LAN 接続により、ClickShare アプリや Airplay などのネイティブ共有プロトコルを使用する際のユーザエクスペリエンスも大幅に向上します。

接続方法

1. RJ-45 コネクター付きのネットワークケーブルを LAN ポートに挿入します。
2. そのケーブルを LAN に接続します。

3.18 Base Unit の HDMI 接続

HDMI in について

デフォルトでは、Base Unit の HDMI in はありません。HDMI を Base Unit に接続するには、Barco アダプタを使用する必要があります。このアダプタを使用すると、HDMI ソースを Base Unit に接続でき、USB Type-C™ ポートは引き続き使用できます。接続された HDMI 信号は、DisplayPort over USB-C に変換されます。



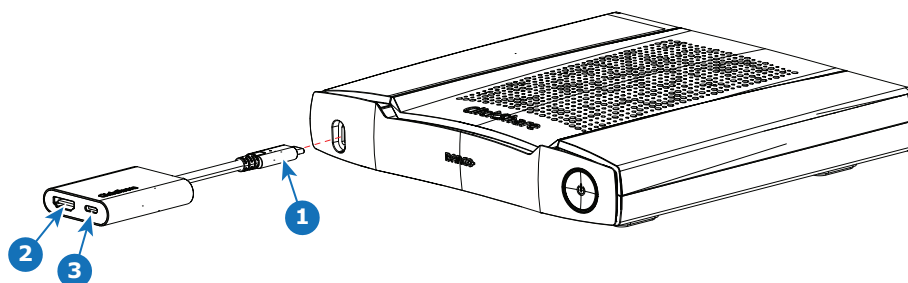
DisplayPort over USB-C は、コンフィギュレータ、タブページディスプレイと音声、入力で有効にする必要があります。

必要な部品

USB-C コンバータキットの Barco HDMI-in (R9861581)

接続方法

1. HDMI アダプタの USB Type-C™ コネクタを前面の USB Type-C™ ポート (1) に接続します。



画像 3-12

2. HDMI ソースを HDMI ケーブルで HDMI アダプタ (2) の HDMI 入力に接続します。
3. 予備の USB Type-C™ ポートは、有線ルームドックに使用できます。

3.19 電源接続

電源接続について

Base Unit は、2つの方法で電源を入れることができます:

- 19VDC ネットワークアダプタ経由
- USB Type-C™ 経由



両方が接続されている場合は、外部電源アダプタが優先されます。

電源アダプタについて



警告: 地域の規則に準拠した電源コードを使用してください。箱に同梱されていない場合は、現地の販売店に連絡して適切な電源コードを入手してください。

Base Unit は、Barco 電源アダプタ ATM090T-A190 (電力仕様: 入力 100-240V、1.2A 50/60Hz および出力 19 VDC 4.74A/出力) によって電力を供給することを想定しています。



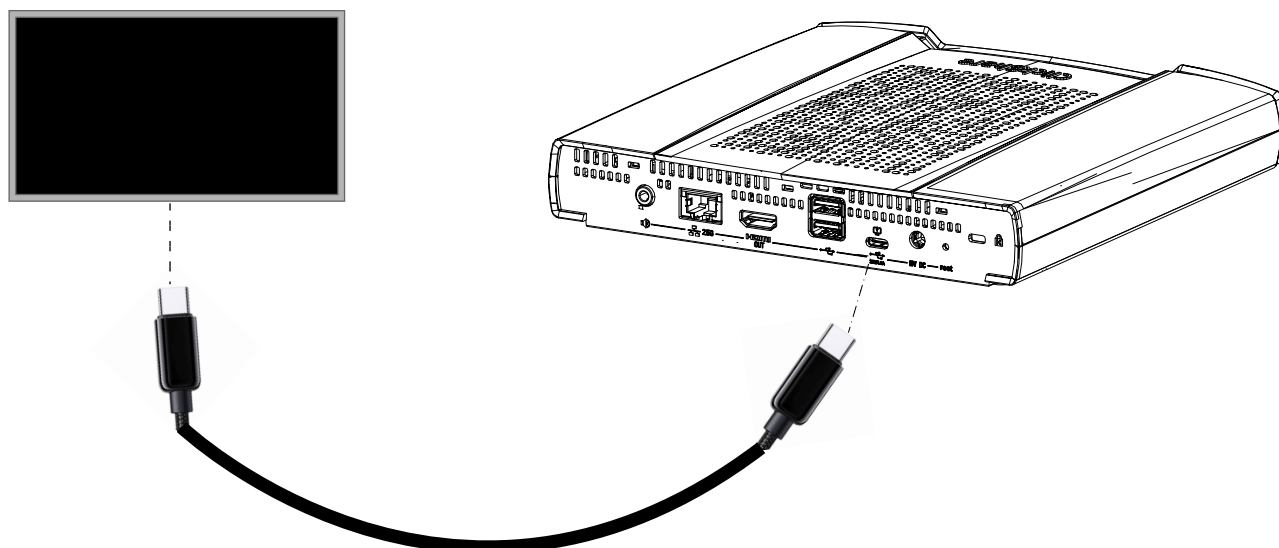
画像 3-13

電源アダプタ経由

1. 電源アダプターのバレル端子を Base Unit の電源入力に差し込みます。
2. ClickShare の電源アダプターにある電源入力アダプター部 (米国、オーストラリア、インド、中国、欧州、または英国) をクリック音がするまでスライドします。1つを使用
お住まいの国に適合するもの。
3. 電源ケーブルをコンセントに接続します。

USB とディスプレイ経由

1. Base Unit の背面にある USB Type-C ポートをディスプレイの USB 入力に接続します (USB ポートに電力を供給できるディスプレイの場合のみ)。
ディスプレイの USB の最小電力仕様: 90W または 100W (20V/5A または 20V/4.5A)



画像 3-14

ディスプレイは、Base Unit に電力を供給し、Base Unit は、ディスプレイにビデオ信号を送信します。

3.20 有線ルームドック

有線ルームドックについて



有線ルームドックは、ClickShare コンフィギュレーターで選択する必要があります! 詳細は、99 ページ、[ディスプレイ設定](#)、[入力](#) を参照してください

有線ルームドックにより、有線接続による高解像度とフレームレートのコンテンツ共有が可能になります。USB で接続すると、室内のオーディオとビデオの管理が可能になります。



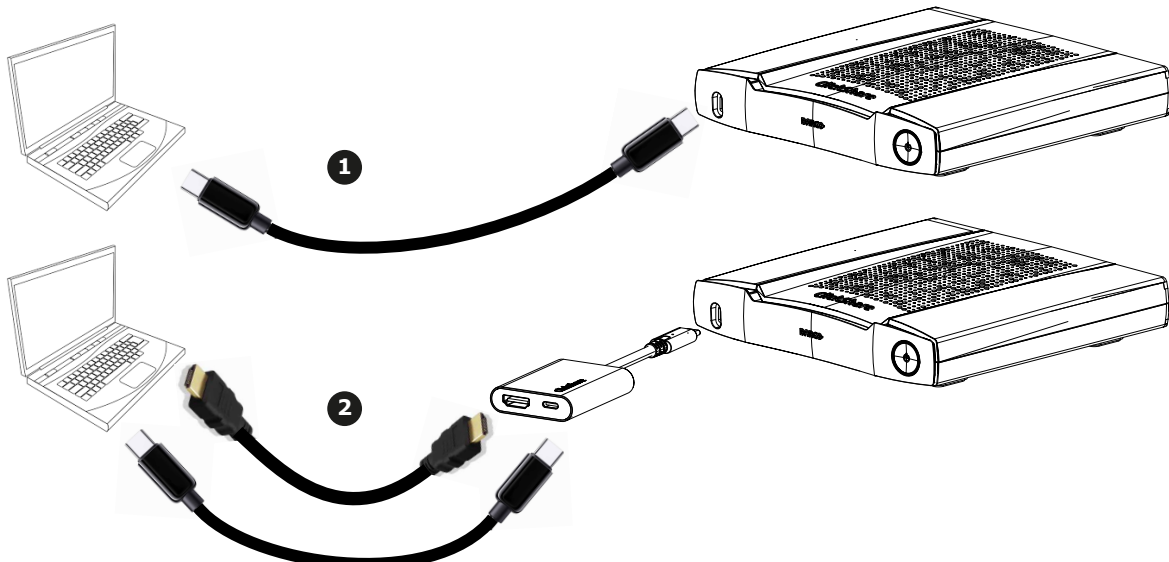
前面の USB-C ポートだけが有線ルームドック機能をサポートしています!

接続方法

1. コンピュータは、ディスプレイポートのオルタネートモードをサポートしていますか?

▶ **「はい」の場合**、Base Unit のフロント「USB-C」ポートの「USB-C」ケーブルを、コンピュータのディスプレイポートオルタネートサポートされた「USB-C」ポートに接続します。(参照 1)

▶ **「いいえ」の場合**、Base Unit のフロント「USB-C」ポートの「USB-C to HDMI」ドングルを使用した「HDMI」と「USB-C」ケーブルを、コンピュータの「HDMI 出力」と「USB-C」ポートに接続します。(参照 2)



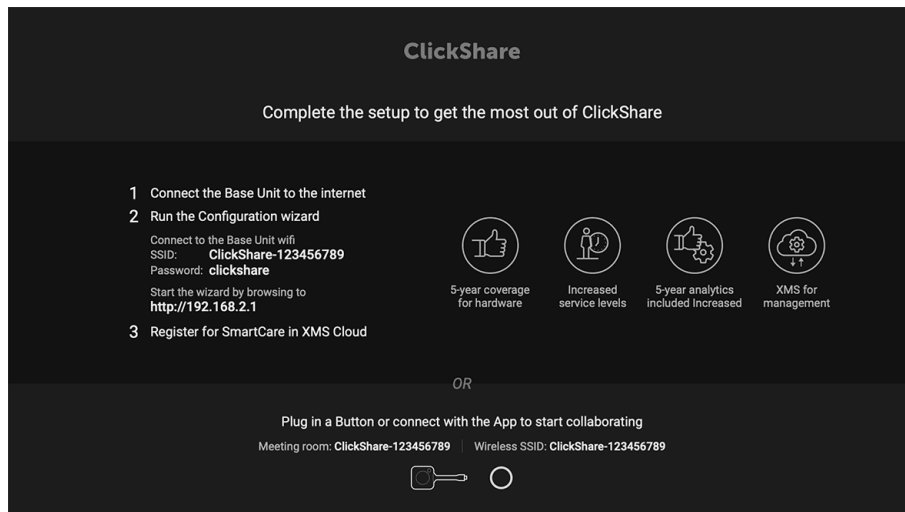
画像 3-15 可能な有線ルームドック接続

3.21 Base Unit の最初の起動

ワークフロー

1. Base Unit の初めての起動。

接続されているモニターに次の画面が表示されます。



画像 3-16 オンボーディング画面

次の 2 つの方法で続行できます。

1. [更新を確認し \(オプション\)](#)、Base Unit を構成し、XMS Cloud に登録します。[54 ページ](#)、[起動するための優先方法を参照してください](#)。
2. [Button を差し込み](#)、画面の共有を開始します。[53 ページ](#)、[コンフィグレーションなしで起動を参照してください](#)。

3.22 コンフィグレーションなしで起動

開始方法

1. Button を差し込み、画面の共有を開始します。

ユーザーが Base Unit に接続するとすぐに、デフォルトの壁紙が会議室のディスプレイに表示され、ユニットをデフォルト コンフィグレーションで使用できるようになります。ただし、コンフィグレーション ウィザードが完了していない限り、デバイスを再起動するたびに初期起動画面が再び表示されます。

デバイスの登録は、コンフィグレーション ウィザードまたは ClickShare コンフィギュレーターからのみ可能で、Base Unit がインターネットに接続されている場合です。

3.23 起動するための優先方法

何が行われますか？

オプションのファームウェアのアップデートのチェックが完了したら、構成ウィザードを起動して Base Unit を設定する必要があります。

処理方法

1. 指示に従って、デバイスの WiFi を接続します。
デフォルトの SSID は、ClickShare-[serial number] です。
パスワード： clickshare
2. WiFi 接続が確立されたら、デバイスのネットワーク設定に進みます。

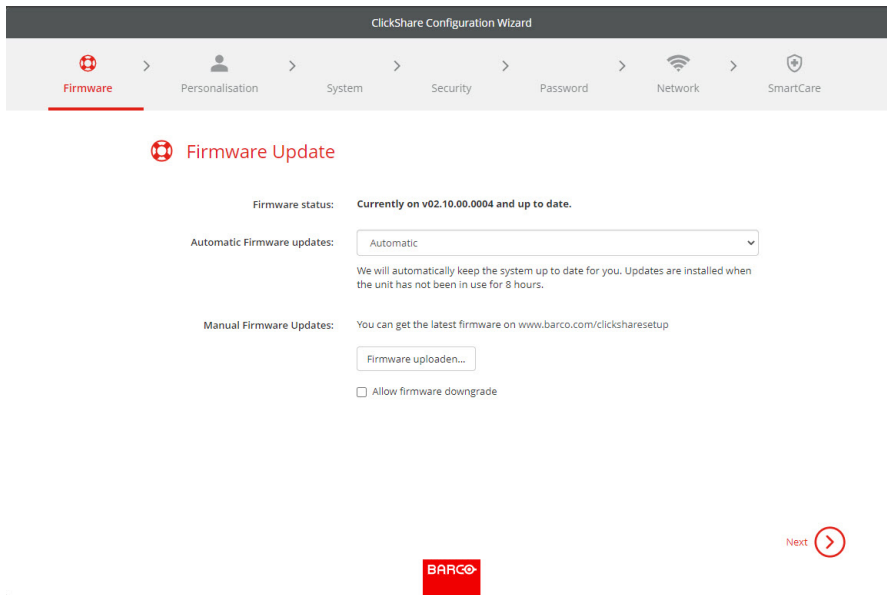
次の URL に移動します: <http://192.168.2.1>

ClickShare コンフィギュレーター ウィザードが起動します。



画像 3-17

3. **コンフィグレーションの開始**をクリックします。
ファームウェアのアップデート ウィンドウが開きます。



画像 3-18

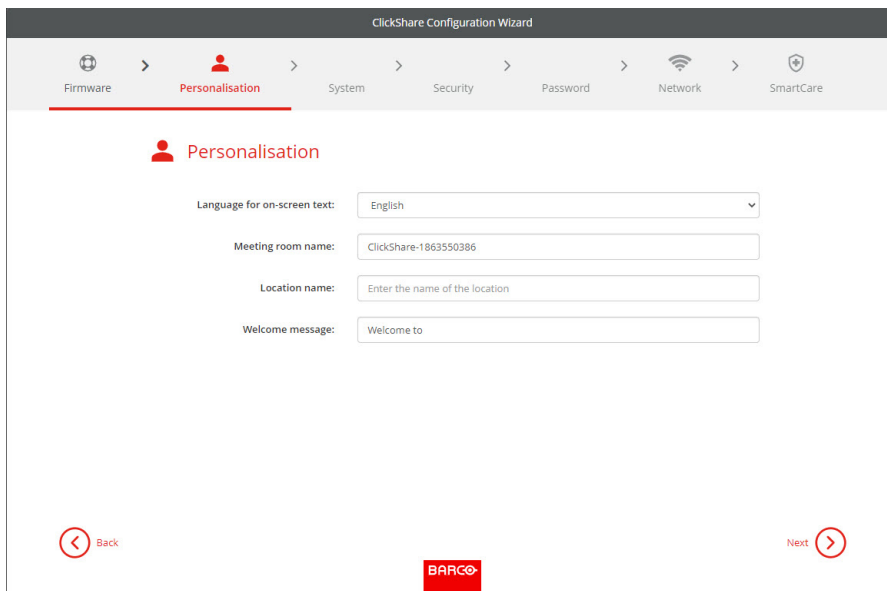
インターネットに接続されている場合は、ファームウェアのアップデートで自動を選択できます (推奨)。いいえを選択した場合でも、USB スティックにソフトウェアをダウンロードして手動でアップデートすることができます。

インターネットに接続し、設定が自動に設定されている場合、ソフトウェアチェックが実行され、最新バージョンがダウンロードされますが、ファームウェアのアップデートは構成ウィザードの終了時のみ実行されます。

ファームウェアの自動更新の詳細については、[147 ページ](#)、[ファームウェア更新](#) を参照してください。

次へ をクリックして次のページに進み、**戻る** をクリックして前のページに戻ります。

4. カスタマイズ ステップ。

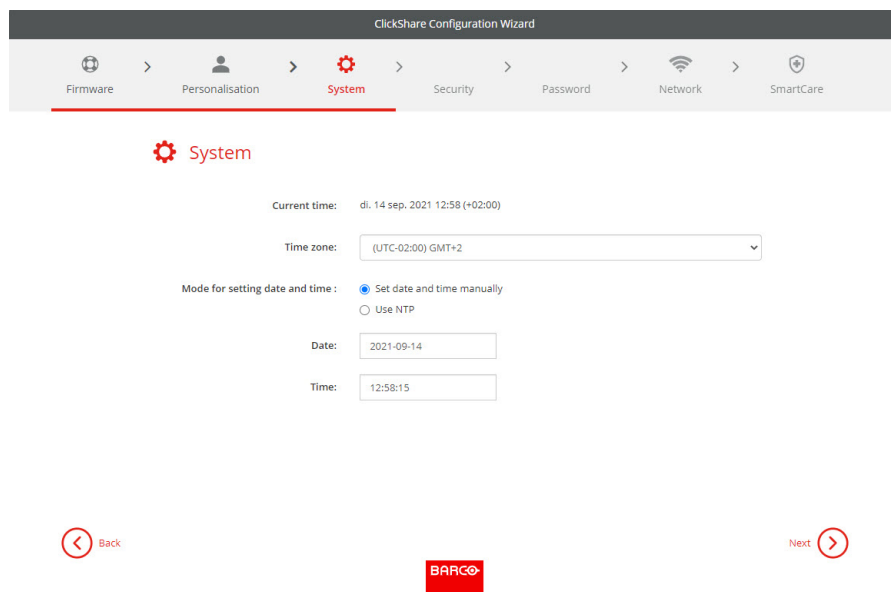


画像 3-19

使用する画面上の言語を入力します。詳細は、[89 ページ](#)、[画面に表示されるID](#) を参照してください。

会議室名、場所の名前、およびウェルカムメッセージを入力します。詳細は、[89 ページ](#)、[画面に表示されるID](#) を参照してください。

5. システム設定



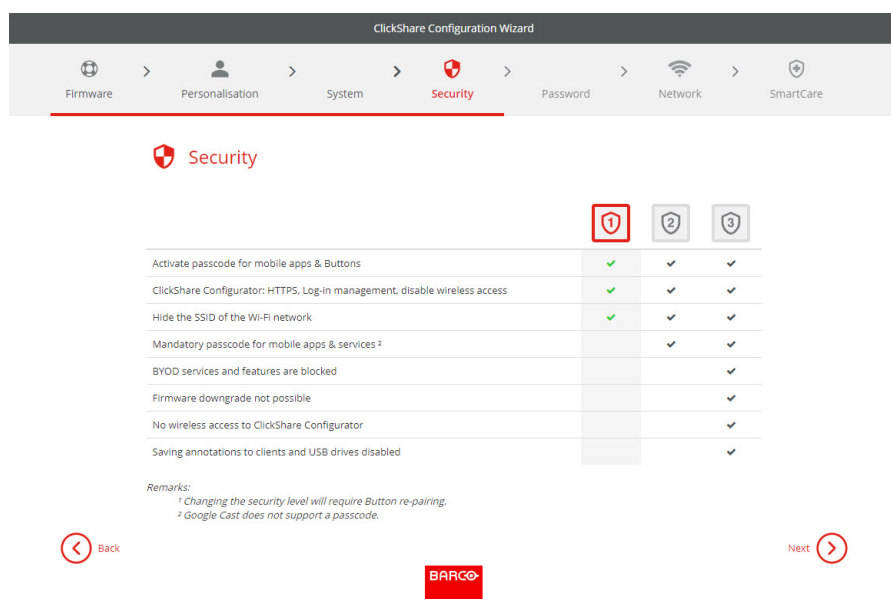
画像 3-20

タイムゾーンを入力し、手動での時刻設定と NTP の使用を選択します。

手動時刻設定の詳細については、[133 ページ](#)、[日時の設定](#)、[手動](#) を参照してください。

NTP サーバーの使用の詳細については、[135 ページ](#)、[日時の設定](#)、[タイムサーバー](#) を参照してください。

6. セキュリティー設定



画像 3-21

目的のセキュリティーレベルを設定します。詳細は、[127 ページ](#)、[セキュリティー](#)、[セキュリティーレベル](#) を参照してください。

7. パスワードの変更

画像 3-22

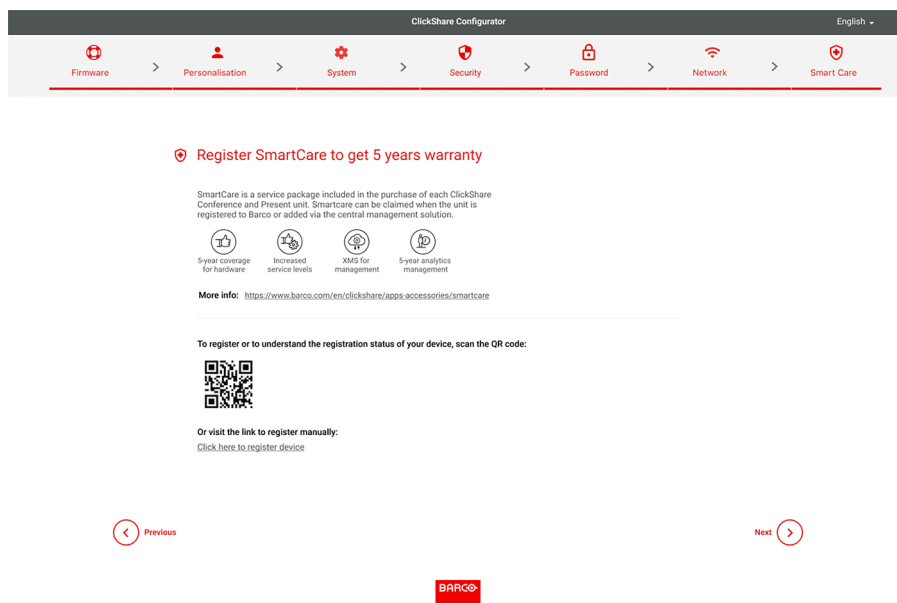
デフォルトのパスワードを**変更**してコンフィギュレーターを使用することをお勧めします。詳細は、[129 ページ](#)、[セキュリティ](#)、[パスワード](#)を参照してください。

8. ネットワーク設定

画像 3-23

周波数帯域、チャンネルを**選択**し、**必要**に応じて Wi-Fi パスフレーズを入力します。詳細は、[104 ページ](#)、[Wi-Fi 設定](#)、[アクセスポイント設定](#)を参照してください。

9. SmartCare 登録

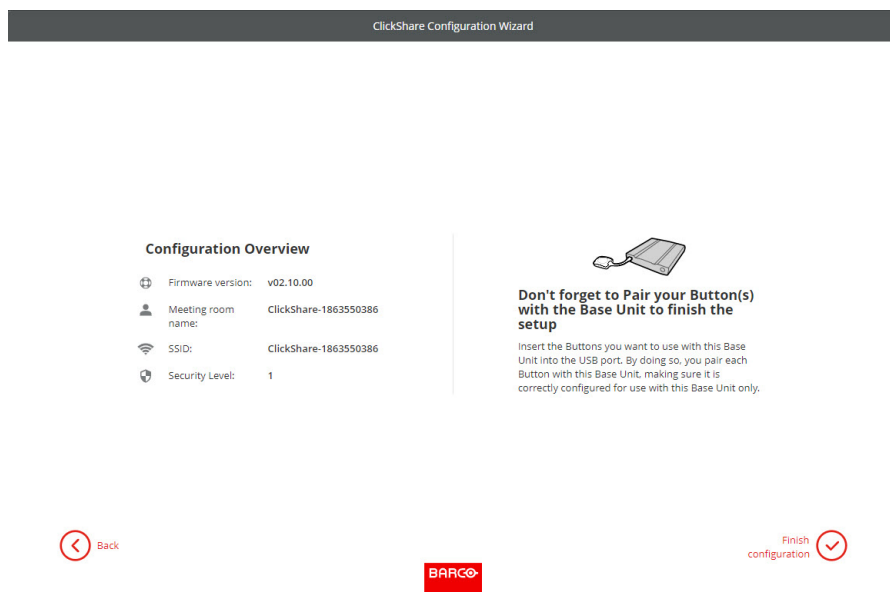


画像 3-24 SmartCare のページ

SmartCareを有効にするには、XMS Cloud に Base Unit を登録する必要があります。XMS Cloud に登録するには、2つの方法があります。

- **PC 登録:** QR コード下のリンクをクリックすると登録が開始されます。詳しくは、[60 ページ](#)、[PC オンボーディング](#) を参照してください。
- **モバイル登録:** スクリーンまたはボックスに含まれているカードの QR コードをスキャンしてください。詳しくは、[61 ページ](#)、[モバイル オンボーディング](#) を参照してください。

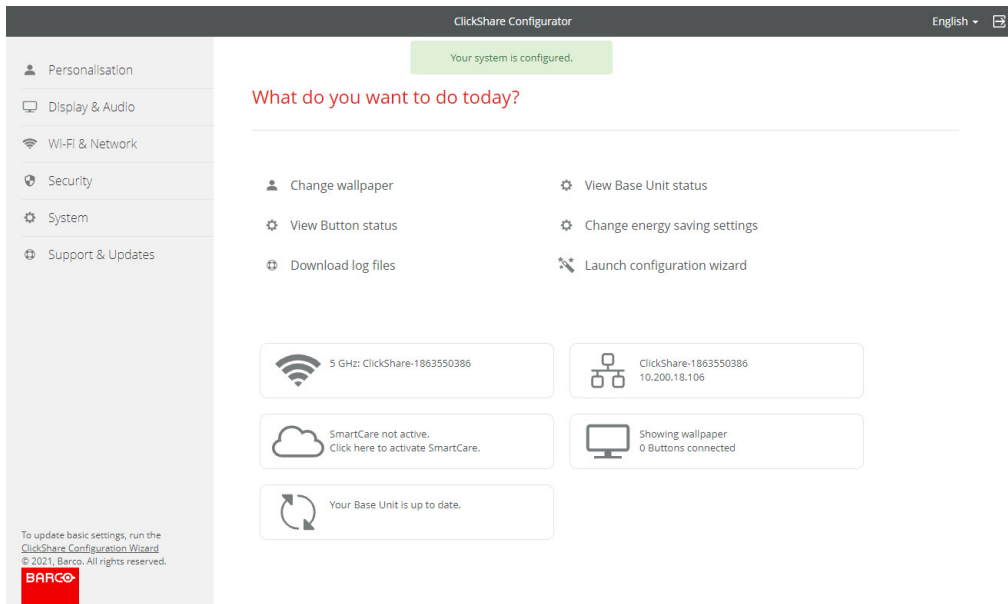
10. 概要ページ



画像 3-25

現在のコンフィグレーションの概要を示します。

[構成の終了 (Finish configuration)] をクリックします。デバイスがインターネットに接続され、ファームウェアのアップデートが自動的に設定されると、ソフトウェアのチェックと更新トが実行されます。デバイスが設定されたことを示すメッセージが表示され、コンフィグレーターが自動的に起動します。



画像 3-26

3.24 XMS Cloud 登録

登録について

Base Unit を登録することで、よりコントロールしやすくなり、より多くの機能を利用できるようになり、**5年 SmartCare パッケージ**が可能になります。

SmartCare パッケージには以下が含まれます：

- ハードウェアの 5 年間保証
- 増加サービスレベル
- 管理用 XMS
- 5 年間の分析管理

詳細は、<https://www.barco.com/en/clickshare/apps-accessories/smartcare> を参照してください。

3.24.1 PC オンボーディング

PC での登録方法

1. コンフィギュレーター内の SmartCare ページにある QR コード下のリンクをクリックします。

The screenshot shows the XMS Cloud registration interface. At the top, there is a 'BARCO XMS Cloud' header with a moon icon and a blue circle. The main content area is titled 'Welcome to XMS Cloud' and includes the text: 'Before you can start using XMS Cloud to manage your resources, we need to take care of some housekeeping stuff.' Below this, it says 'Please select your role' and presents two options: 'Owner/ Admin' (with a person icon) and 'Reseller/ Integrator' (with a group icon). Underneath, there is a 'Create organisation account' section with a text input field containing 'e.g. Company Name', a 'Country' dropdown menu with 'Select country' and a downward arrow, and a checkbox labeled 'I have read the terms & conditions of the End-User License Agreement & hereby accept them'. At the bottom center is a blue button labeled 'Continue to XMS Cloud'.

画像 3-27 PC での登録ログインページの例。

ログインページが表示された場合は、アカウントの詳細を入力し、ログインして続行します。

2. ユニットは顧客用に設置されていますか？

▶ **「はい」の場合**、「リセラー/インテグレーター」を選択し、XMS で組織と呼ばれる顧客を作成するか、以下のフィールドから選択します。

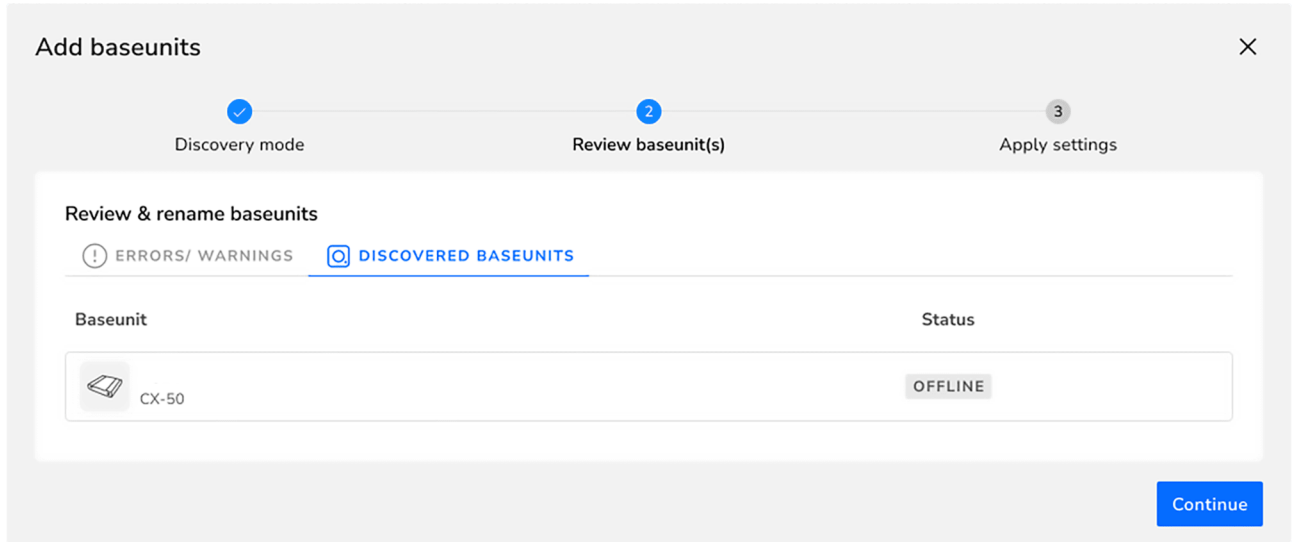
▶ **「いいえ」の場合**、「オーナー/管理者」を選択し、ユニットが設置されている組織の名前を作成するか、選択します。



ヒント: Base Unit は、一度に 1 つの組織にのみ登録できます! Base Unit を別の組織に変更しなければならない場合は、まず Base Unit のリンクを解除する必要があります!

利用可能な Base Unit は自動的にスキャンされ、登録の準備が行われます。

3. 情報を確認して、正しい Base Unit が正しい組織に追加されるようにします。情報が正しければ、「続ける」をクリックします。



画像 3-28 リンクされた Base Unit の例

Base Unit をネットワークに接続し、オンボーディングを完了します。

4. 追加された Base Unit の管理方法または XMS Cloud の使用方法の詳細については、XMS Cloud ユーザーガイドを参照してください。

3.24.2 モバイル オンボーディング

モバイルでの登録方法

1. コンフィギュレーター の SmartCare ページ、またはボックスのカードの QR コードをスキャンします。



画像 3-29 QR コードをスキャンした後のランディング ページの例。

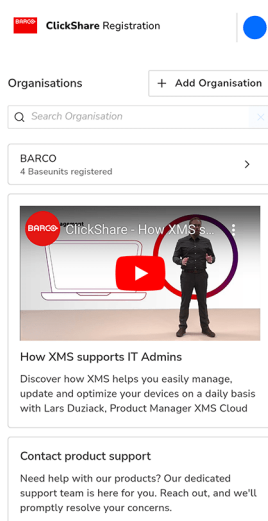
2. ユニットの顧客用に設置されていますか？
 - ▶ 「はい」の場合、「リセラー / インテグレーター」をクリックします。
 - ▶ 「いいえ」の場合、「オーナー / 管理者」をクリックします。



ヒント: Base Unit は、一度に 1 つの組織にのみ登録できます! Base Unit を別の組織に変更しなければならない場合は、まず Base Unit のリンクを解除する必要があります!

登録ページが表示されます。

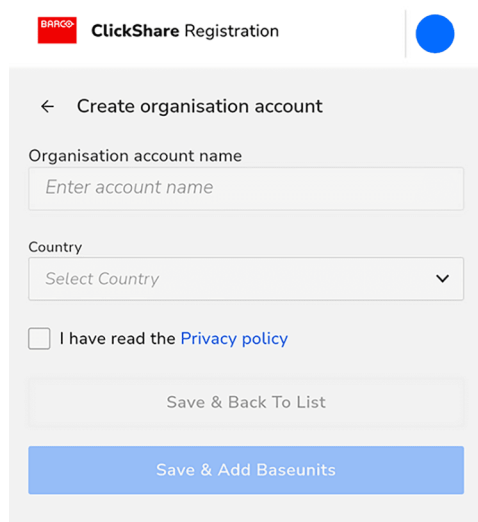
3. 矢印「>」をクリックするか、リストから希望の組織を検索して矢印「>」をクリックします。



画像 3-30 登録ページの例。

希望の組織がリストにない場合は、以下の手順に従って、XMS 内に新しい組織を作成します。

- a) 「+ 組織の追加」をクリックして、新しい組織を作成します。
- b) 名前を入力し、該当する国を選択します。

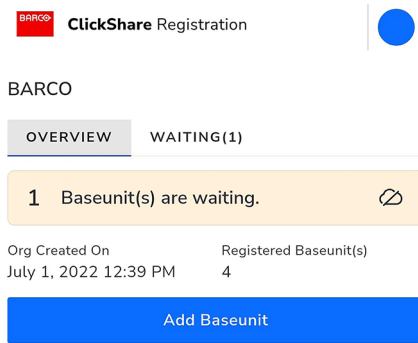


画像 3-31 組織を作成する例。

- c) 「プライバシーに関する方針」を読み、チェックボックスにチェックを入れます。
- d) 「保存して追加」をクリックして、Base Unit を新しく作成した組織にリンクするか、「保存してリストに戻る」をクリックして、別の組織を作成するか既存の組織を選択します。


選ばれた組織の概要が表示されます。現在登録されている Base Unit を表示するか、まだ登録の最終確認を待っている Base Unit の簡単な概要を取得します。

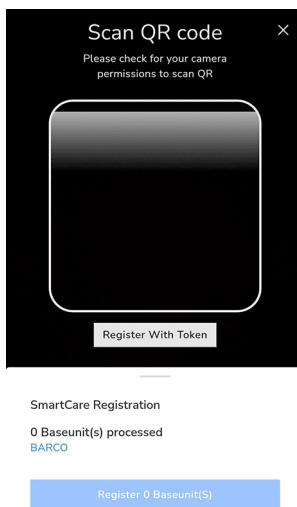
4. 「追加」をクリックして、デバイスの登録を開始します。



画像 3-32 組織概要の例。

5. Base Unit の下部にある QR コードをスキャンして、XMS Cloud に登録します。

 ヒント: コードをスキャンするには、ブラウザがカメラにアクセスできなければなりません!

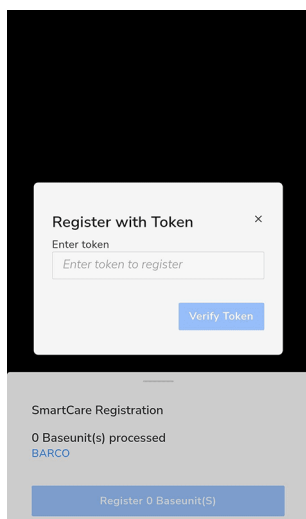


画像 3-33 QR コードスキャンページの例。

QR コード全体が白い丸い四角形に収まるようにカメラを向けます。成功すると、Base Unit が処理され、登録されます。


QR コードが見つからない場合、またはスキャンがうまくいかない場合は、以下の手順に従って手動で Base Unit を追加します。

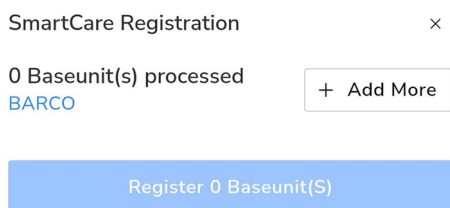
a) 「トークンで登録」ボタンをクリックして、手動で Base Unit を追加します。



画像 3-34 トークンによる手動登録の例。

- b) Base Unit のシリアル番号を入力します。
- c) 「トークンの検証」をクリックして、Base Unit を処理して登録します。

 ヒント: カメラとトークンの登録が見つからない場合は、「+ さらに追加」をクリックして、これらを再度開きます。



画像 3-35

必要な Base Unit をすべて追加するまで、この（サブ）ステップを繰り返します。

- 6. 追加された Base Unit のリストを確認し、「登録」をクリックします。
オンボーディングを完了するには、Base Unit をネットワークに接続する必要がある旨のポップアップが表示されます
- 7. 追加された Base Unit の管理方法または XMS Cloud の使用方法の詳細については、XMS Cloud ユーザーガイドを参照してください。

3.25 XMS Cloud とカレンダーの統合を有効にする

カレンダーについて

カレンダー機能を使用すると、ClickShare デバイスに接続されたモニターに会議室のカレンダーを表示できます。

セキュアな Azure AD 統合

ClickShare (オプションの機能) を使用して、スクリーンに会議室の空き状況を、XMS Cloud を使って表示できます。これは、Azure AD と統合された Azure Enterprise アプリケーションを使用して行われます。Azure Enterprise アプリケーションを Azure AD と統合する際のセキュリティー上のリスクを軽減するため、この機能は、2 つの別々の Azure Enterprise アプリケーション (「ClickShare Meeting Room Discovery」と「ClickShare Calendar Sync」) を使用します。「ClickShare Meeting Room Discovery」はマルチ組織アプリケーションですが、「ClickShare Calendar Sync」は、顧客の Azure AD でのみホストされるシングル組織アプリケーションです。ClickShare Base Unit は、顧客の一意かつランダムなクライアントシークレットを使用して、単一組織「ClickShare Calendar Sync」のみを介してカレンダーにアクセスします。クライアントシークレットは Microsoft によって、次のプロパティで作成されます: ランダムに生成され、24 か月後に自動的に期限切れとなります。

詳細は、Barco の Web サイトからダウンロードできる、Barco のセキュリティー ホワイトホワイトペーパー「XMS Cloud および (仮想) Edge セキュリティー ホワイトペーパー」を参照してください。



組織を追加する前に、エンタープライズ アプリケーションの発行者 (Barco) を検証します。



Microsoft Exchange Online の ApplicationAccessPolicy を使用して、Enterprise Application「ClickShare Calendar Sync」のアクセスを、必要な会議室 (およびその他のカレンダー) のみに制限します。

このプロセスにおける IT 管理者の役割

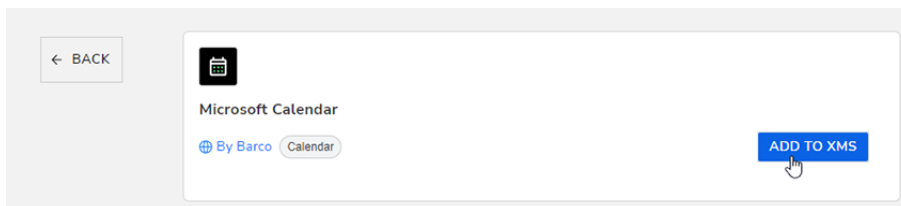
デバイスがカレンダーを取得できるようにするには、XMS Cloud を Microsoft Azure アカウントに「接続」する必要があります。この「接続」により、会議室を検出し、資格情報をデバイスと共有することができます。組織の O365 管理者の承認が必要です。

1. 統合を開始する前に、**Azure Active Directory** の **グローバル管理者ロール** を持つ IT 管理者に連絡してください。このタイプのアカウントのみ統合を有効化できます。
2. カレンダーを追加する XMS 組織の IT 管理者の認証情報を追加します。
3. IT 管理者に XMS Cloud へのサインインと、次の「設定方法」の実行を依頼します。
4. 設定方法を完了したら、顧客またはインテグレーターは「会議室を予定表に割り当て」の手順を続行できます。

開始する前に

デフォルトでは、Microsoft Calendar プラグインが現在の組織にインストールされています。そうでない場合 (または手動で削除した場合) は、以下の手順で元に戻してください:

1. XMS Cloud で、[マーケットプレイス]>>[カレンダー]に移動し、[詳細を見る]をクリックします。
2. 詳細ウィンドウで、[XMS に追加]をクリックします。

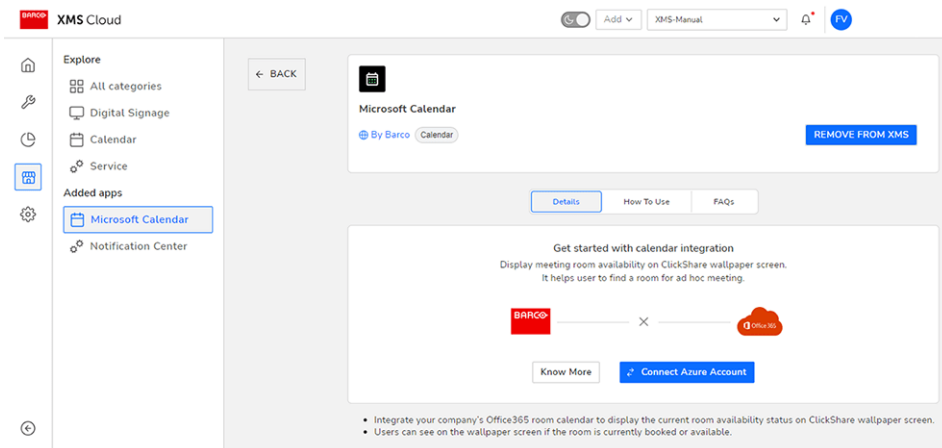


画像 3-36

カレンダーの設定方法 (IT 管理者として)

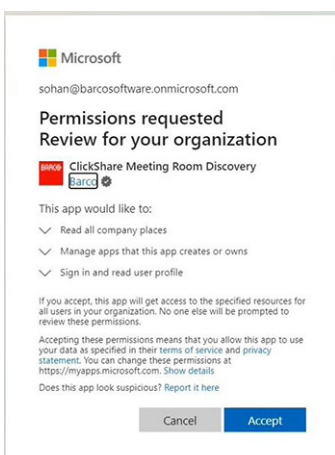
以下の操作は、Azure Active Directory のグローバル管理者のロールを持つ IT 管理者が実行してください。

1. XMS Cloud で、[マーケットプレイス]>>[Microsoft カレンダー]に移動します。
Calendar のデフォルト ページが表示されます。



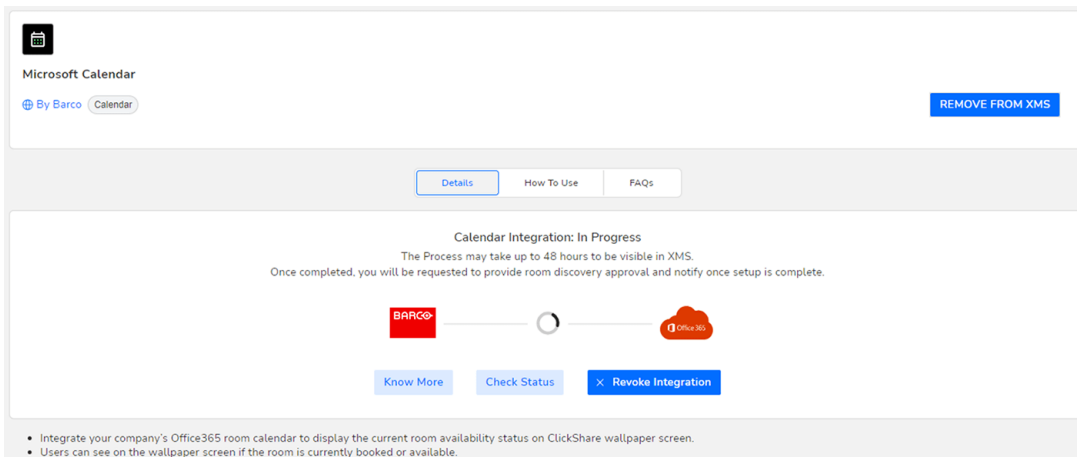
画像 3-37

2. [Azure アカウントの接続] をクリックします。
Microsoft Azure アカウントにリダイレクトされます。Microsoft のサインイン ウィンドウが表示されま
す。
3. 正しい管理者認証情報でサインインします。
サインインすると、ClickShare Meeting Room Discovery の承認画面が表示されます。



画像 3-38

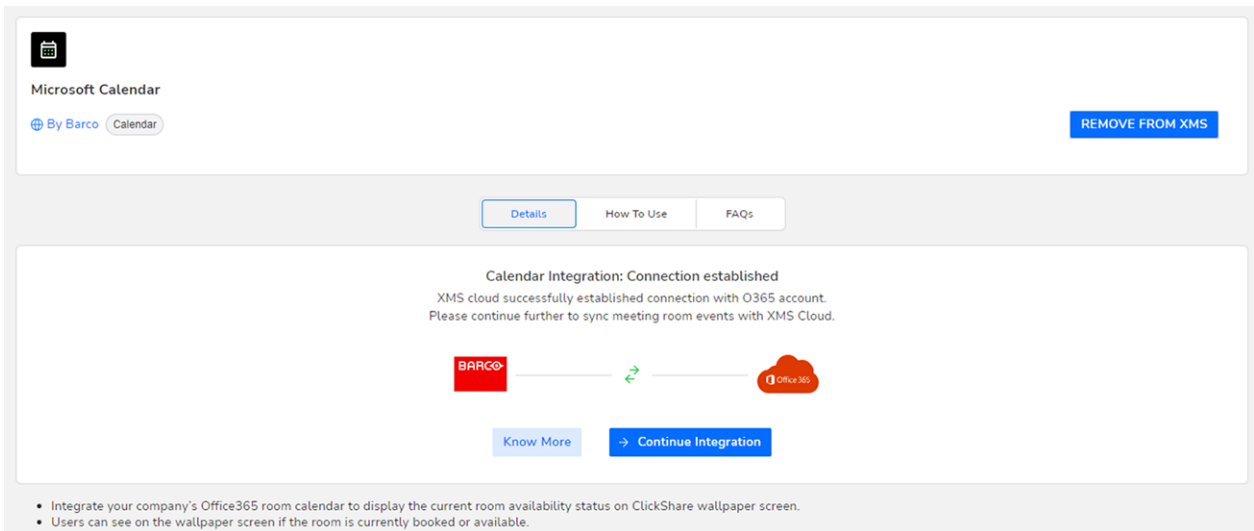
4. 画面上のメッセージを読み、**同意**をクリックします。
承認されると、XMS Cloud にリダイレクトされ、以下のようなページが表示されます：



画像 3-39

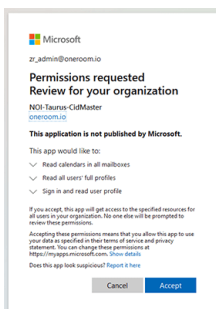
この作業は 10 分から 30 分で終わるはずですが、例外的なケースに限り、時間がかかることもあります。

5. プロセスが完了すると、画面が更新され、**統合を続ける** ボタンが表示されます。



画像 3-40

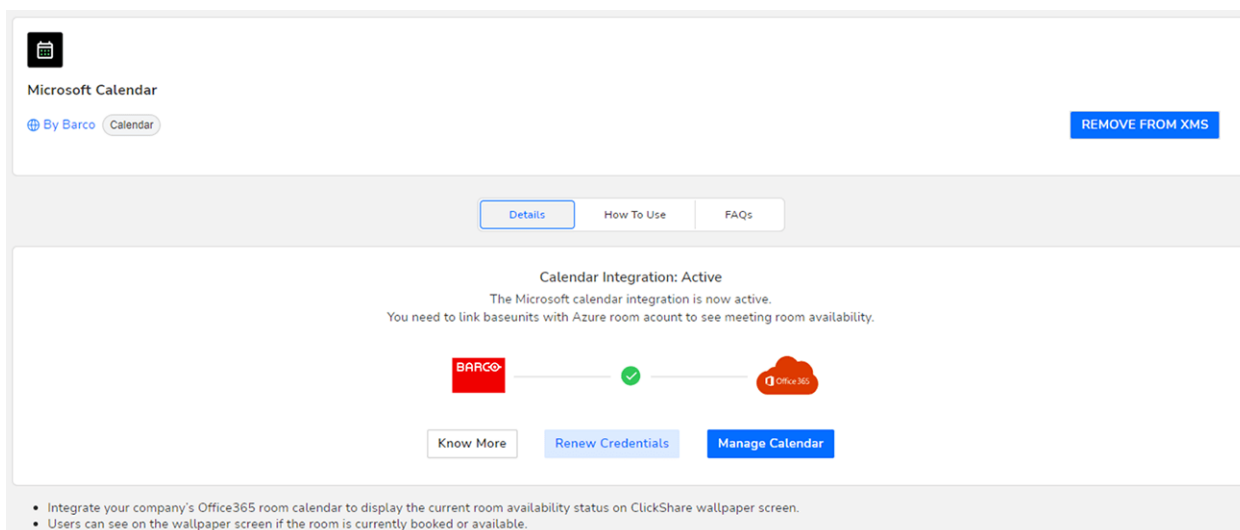
6. **統合を続ける** をクリックして、O365 管理者に各会議室アカウントのカレンダー情報を取り戻すための最終的な許可を要求し、これを実現するためにデバイスの資格情報を生成します。



画像 3-41

7. **承諾** をクリックします。

Microsoft Calendar との接続が有効になりました。メニューオプション [カレンダー] は、[管理] メニューにも表示されるようになりました。

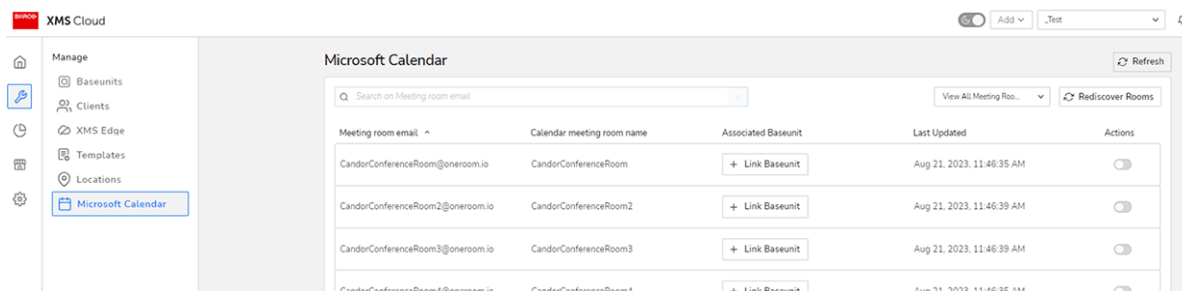


画像 3-42

カレンダーの会議室に Base Unit デバイスを割り当てるには、**[カレンダーの管理]** をクリックします。また、XMS Cloud でブラウズすることもできます: **[管理]** >> **[カレンダー]**。

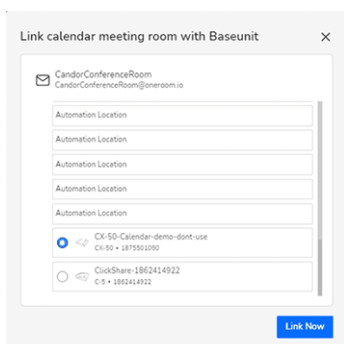
カレンダーに会議室を割り当てます

1. **[カレンダーの管理]** ページで、希望の会議室を選択し、**[+ Link Base Unit]** をクリックします。



画像 3-43 **[カレンダーの管理]** ウィンドウの例。

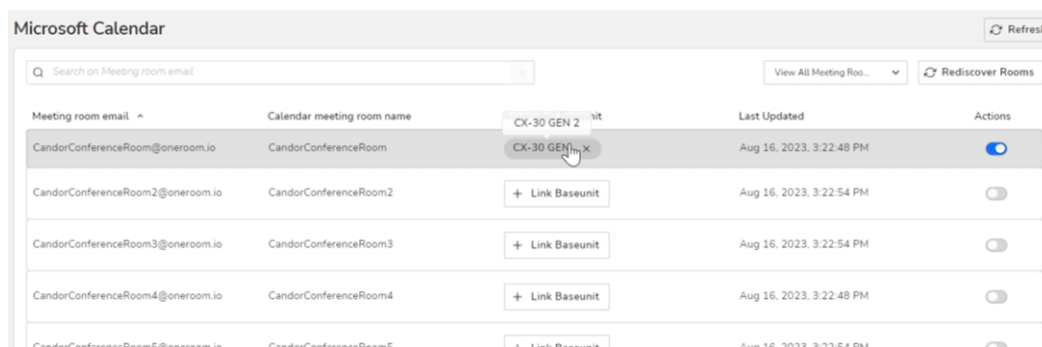
Base Unit セレクター ウィンドウが表示されます。



画像 3-44 Base Unit セレクター ウィンドウの例。

2. 選択した会議室にリンクする Base Unit デバイスを選択します。
3. **[今すぐリンク]** をクリックします。

Base Unit デバイスは、選択した会議室とリンクされます。



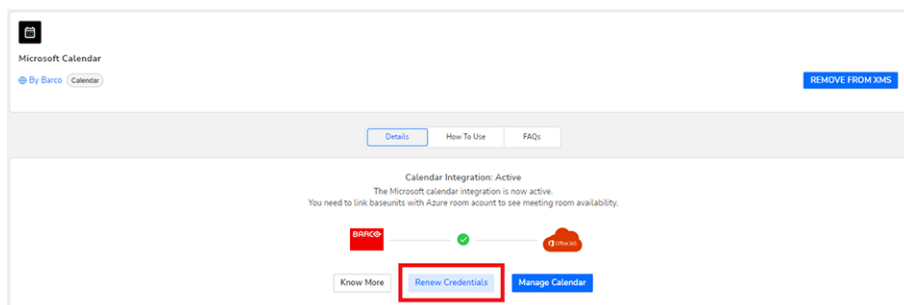
画像 3-45 Base Unit デバイスとリンクした会議室の例

4. ClickShare Base Unit デバイスがあるすべての会議室について、この手順を繰り返します。

認証情報について

デフォルトでは、XMS Cloud は、定期的な認証情報チェック中に認証情報を自動更新するため、ユーザーは、期限切れの認証情報に対して何もする必要はありません。更新されると、更新認証情報は、向こう 6 ヶ月間有効です。

[カレンダー プラグイン] ページに移動し、[認証情報の更新] をクリックすることで、手動で認証情報を更新できます。



画像 3-46

Button の準備

4

4.1	ペアリング.....	72
4.2	ClickShare Extension Pack	74
4.3	ClickShare Extension Pack インストーラ	75
4.4	ClickShare Windows 認定ドライバ	77
4.5	ClickShare デスクトップ アプリ.....	78
4.6	ClickShare デスクトップ アプリの MSI インストーラー	79

4.1 ペアリング

Button を Base Unit とペアリング

Button を使用できるようにするには、お使いの Base Unit に割り当てる必要があります。このプロセスをペアリングと呼びます。すべての Button は、使用する前に更新してペアリングする必要があります。

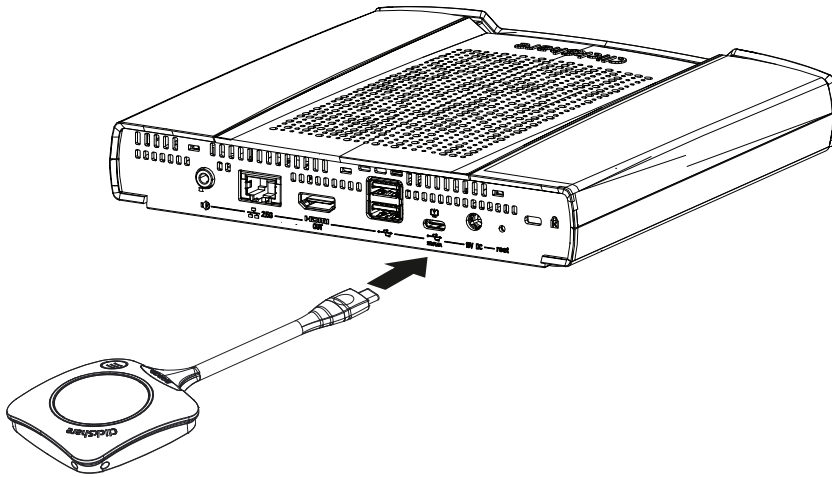
追加で Button を購入したり、Button を別の Base Unit に割り当てたりする必要がある場合は、Button を (再度) ペアリングする必要があります。Button のソフトウェアアップデートはバックグラウンドで実行され、ユーザがシステムを使用している間、ユーザに影響を与えることはありません。Base Unit ソフトウェアの古いバージョンにダウングレードまたはアップデートする場合は、Button を手作業でペアリングし、そのソフトウェアをアップデートする必要があります。



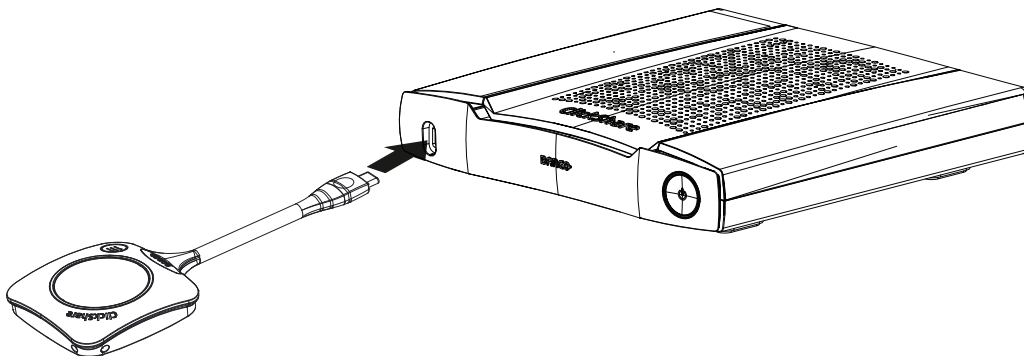
Button は、一度に 1 台の Base Unit にのみペアリングできます。
Button は、最後にペアリングした Base Unit に常に接続します。

接続で Button を Base Unit とペアリングするには、

1. Button を、お使いの Base Unit で利用可能な USB Type-C™ ポートに挿入します。



画像 4-1



画像 4-2

Button LED が円を描く間、Base Unit LED が点滅します。これはペアリングが進行中であることを示します。

Base Unit は、Button のソフトウェアが最新のものであるかどうかを自動的に確認します。Button のソフトウェアが最新のものでない場合は、Base Unit がアップデートします。これには時間がかかる場合があります。

ペアリングプロセスの結果は、以下のとおり通知されます：

- Button の LED が緑色になり、Base Unit で白の点灯状態になると、Button は Base Unit とペアリングされています。Button を Base Unit から取り外すことができます。

2. Base Unit から Button を取り外します。

これで Button を使用する準備が整いました。



画像 4-3

4.2 ClickShare Extension Pack

一般情報

ClickShare Extension Pack は、お客様の ClickShare のユーザーエクスペリエンスをアップグレードするためのツール集です。この Extension Pack には、ClickShare Launcher サービスと Extended Desktop 機能を有効にするドライバが含まれています (Windows 上のみ)。両方のツールがデフォルトでインストールされます。インストーラのデフォルト動作を変更するには、インストーラをコマンドラインパラメータで実行する必要があります。

ClickShare Extension Pack は、エンドユーザーが手動でインストールしたり、社内のラップトップイメージにあらかじめインストールしたり、SCCM や他のツールを使用して全社展開したりすることができます。

ClickShare Extension Pack は、Button および / または ClickShare デスクトップアプリと組み合わせて使用できます。

最新の拡張パックは、<http://www.barco.com/en/product/clickshare-extension-pack> からダウンロードできます。

4.3 ClickShare Extension Pack インストーラ

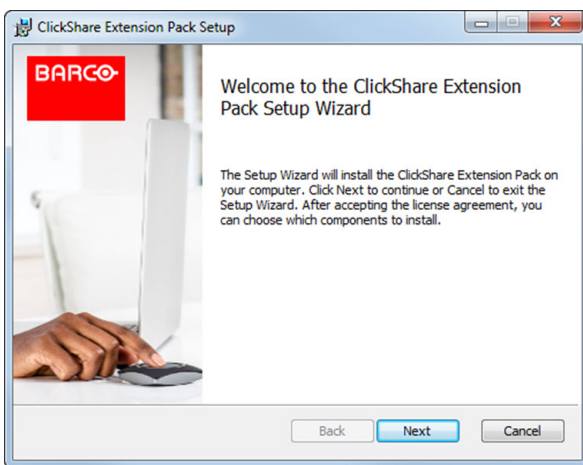
インタラクティブセットアップ

この設定では、ユーザーが EULA を受け入れた後、自分のコンピュータに ClickShare Extension Pack をインストールするインストーラを実行します。

設定が終了すると、ClickShare ランチャーが自動的に開始されます。Extended デスクトップドライバは、ユーザーがコンピュータを再起動した後にのみ使用できます。

設定の開始

1. ClickShare Extension Pack をダウンロードします (<http://www.barco.com/en/product/clickshare-extension-pack> 経由でダウンロード)。
2. ダウンロードファイルを解凍します。
3. *ClickShare-Extension-Pack.msi* をクリックして、インストールを開始します。



画像 4-4

4. **次へ** をクリックし、ライセンス契約に同意し、**次へ** をクリックして続行します。
必要に応じて、オンスクリーンの使用説明に従ってください。

サイレントセットアップ

この設定では、ユーザーまたは IT 管理者が Windows のコマンドプロンプトを使って Clickshare Extension pack をインストールします。サイレントインストールの例を以下に示します (バージョン番号は例に過ぎません。最新バージョンについては、必ず Barco の Web サイトを確認してください)。

ランチャーのみインストール:

```
msiexec.exe /i ClickShare-Extension-Pack-01.00.02.0003.msi ACCEPT_EULA=YES INSTALLFOLDER=C:\ LAUNCH_APP=YES /qn
```

拡張デスクトップのみインストール:

```
msiexec.exe /i ClickShare-Extension-Pack-01.00.02.0003.msi ACCEPT_EULA=YES ADDLOCAL=ExtendedDesktopDriverFeature INSTALLFOLDER=C:\ LAUNCH_APP=YES /qn
```

フルインストール (ランチャー + 拡張デスクトップ):

```
msiexec.exe /i ClickShare-Extension-Pack-01.00.02.0003.msi ACCEPT_EULA=YES ADDLOCAL=ALL INSTALLFOLDER=C:\ LAUNCH_APP=YES /qn
```



コンピュータが再起動します。これは /norestart で抑制することができます。拡張デスクトップ機能が動作するには、後で再起動が必要になります。エンドユーザーが再起動するかどうかを決定する必要がある場合は、/promptrestart/QB!+ を使用できます (基本 UI、キャンセルオプションなし、再起動を促すメッセージ)

パラメータの説明

ACCEPT_EULA	このパラメーターは、インストール者が EULA テキストを現状のまま受諾することを示します。インストールを続行するには、このパラメーターを YES に設定する必要があります。
INSTALLFOLDER	このパラメーターは、ClickShare ランチャーのインストール先ディレクトリーを指定します。指定しない場合のデフォルトのフォルダーは「Program Files」フォルダーです。
LAUNCH_APP	このパラメーターを「はい」に設定すると、インストール終了直後に ClickShare ランチャーアプリケーションが開始されます。それ以外の場合、Launcher アプリケーションは開始されません。
/qn	このパラメーターは、インストールがサイレントモードで行われることを示し、インストール中は一切ウィンドウが表示されないことを意味します。
ADDLOCAL	このパラメーターは、インストールの種類を示します。パラメーターを追加せずに、ランチャーのみインストールします。

Windows 環境変数

使用する変数は「CLICKSHARE_LAUNCHER_CLIENT_PATH」です。値は、クライアントソフトウェアへのパスにします。

4.4 ClickShare Windows 認定ドライバ

一般情報

Windows PC に Button を接続すると、ClickShare Windows 認定ドライバが自動的にインストールされます。

この Windows ドライバは、Button 上の実行ファイルを自動的に起動します。

ファームウェアのバージョン 4.10 以降の Button をサポートするには、バージョン **1.20.0** 以上が必要です。古いバージョンが PC にインストールされている場合は、PC に挿入した Button で Windows 更新 更新の確認を起動します。Windows 7、8、8.1 コンピュータでは、ドライバを手動でダウンロードしてインストールする必要があります。

4.5 ClickShare デスクトップ アプリ

一般情報

コンピュータに ClickShare デスクトップ アプリをインストールすると、会議室に入り、Button に接続することなく数秒で画面に表示できます。ClickShare デスクトップ アプリは、Button と組み合わせて使用できます。

ClickShare デスクトップ アプリは、コンテンツを共有するために会議室の画面に接続します。そのために存在検出技術が使用されます。ClickShare デスクトップ アプリは、プレゼンス検出技術を使用して、ユーザーに最も近い会議室を決定します。会議室名をクリックするだけです。つまり、会議室に接続する前に、IP アドレスを入力したり、会議室の長いリストをスクロールしたりする必要はありません。PresentSense 機能を使用するとさらに簡単になります。会議室に入り、**接続**をクリックします。

Outlook を主議題として使用すると、次の会議の概要もすぐに表示されます。Outlook で予定を検索したり招待したりする必要はありません。**参加**をクリックするだけで、会議通話に参加できます。アプリベースの会議を使用すると、Button を接続せずにワイヤレス会議を楽しむこともできます。ClickShare 会議デバイスに接続すると、接続されている会議室の周辺機器を次の会議通話で使用できるようになります。MSI インストーラー (管理者権限が必要) を使用して ClickShare デスクトップ アプリをインストールし、アプリベースの会議機能を有効にしてください。

設置

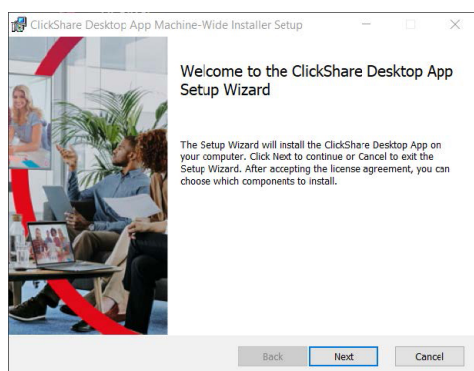
ClickShare デスクトップ アプリが IT 環境に事前配置されていない場合は、管理者権限なしで、www.clickshare.app からソフトウェアをダウンロードしてインストールできます。カレンダー統合機能またはアプリベースの会議機能を備えた ClickShare デスクトップ アプリをインストールするには、管理者権限が必要です。MSI インストーラーの詳細については、[79 ページ](#)、[ClickShare デスクトップ アプリの MSI インストーラー](#) を参照してください。

4.6 ClickShare デスクトップ アプリの MSI インストーラー

! 注意: インストールは管理者権限でのみ実行できます。

取り付け方法

1. www.clickshare.app から MSI インストーラーをダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルをダブルクリックして MSI インストーラーを実行します。インストールウィザードが起動します。異なる画面の指示に従ってください。



画像 4-5

3. ライセンス契約を読み、「ライセンス契約の内容を承認します」にチェックマークを付けて続けます。次へをクリックします。
4. 必要なコンポーネントを有効にし、[インストール] をクリックします。
ClickShare デスクトップ アプリと選択した機能が、お使いのコンピュータのすべてのユーザーで利用できるようになりました。

CX-50 Gen2 構成

5

5.1	構成へのアクセス.....	83
5.2	ClickShare 構成ウィザード.....	87
5.3	画面に表示されるID.....	89
5.4	カスタマイズ、壁紙.....	91
5.5	個人用設定、独自の壁紙.....	93
5.6	構成ファイルの管理.....	95
5.7	ディスプレイ設定、出力.....	97
5.8	ディスプレイ設定、入力.....	99
5.9	周辺機器.....	100
5.10	フレキシブルな会議室.....	102
5.11	WiFi設定.....	103
5.12	Wi-Fi 設定、アクセスポイント設定.....	104
5.13	WiFi 設定、ワイヤレスクライアント.....	106
5.14	WiFi設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS.....	107
5.15	WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TTLS.....	110
5.16	WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、PEAP.....	111
5.17	WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、WPA2-PSK.....	113
5.18	LAN 設定.....	114
5.19	LAN 設定、有線認証.....	117
5.20	LAN 設定、EAP-TLS セキュリティモード.....	118
5.21	LAN 設定、EAP-TTLS セキュリティモード.....	120
5.22	サービス、モバイル装置.....	122
5.23	サービス、PresentSense.....	124
5.24	サービス、ClickShare API、API を使用したリモート コントロール.....	125
5.25	サービス、SNMP.....	126
5.26	セキュリティ、セキュリティ レベル.....	127
5.27	セキュリティ、パスワード.....	129
5.28	セキュリティ、HTTP 暗号化.....	130
5.29	Base Unit のステータス情報.....	132
5.30	日時の設定、手動.....	133
5.31	日時の設定、タイム サーバー.....	135
5.32	省電力設定.....	136
5.33	Button.....	138
5.34	Button、外部アクセスポイント、モード EAP-TLS.....	139
5.35	Button、外部アクセスポイント、モード EAP-TTLS.....	141
5.36	Button、外部アクセスポイント、モード PEAP.....	142
5.37	Button、外部アクセスポイント、モード WPA2-PSK.....	143
5.38	黒板.....	144
5.39	XMSクラウド統合.....	145
5.40	ファームウェア更新.....	147
5.41	サポートとアップデート、トラブルシューティング、ログ設定.....	149
5.42	トラブルシューティング、すべての設定を消去.....	150
5.43	工場出荷時の設定にリセット.....	151

構成について

デバイスの設定は、以下で行うことができます

- XMS Cloud
- ローカルのコンフィギュレーター

XMS Cloud のコンフィギュレーターは、ローカルのコンフィギュレーターよりも（時間内で）複雑になります。そのため、XMS クラウド経由でデバイスを設定することをお勧めします。詳細については、XMS ドキュメントを参照してください。

次のトピックでは、ローカルコンフィギュレーターについて説明します。



一部のメニューでは、コンフィギュレーターが **WebUI** として表示されます。例えば WebUI パスワードは、**構成** に入力するためのパスワードです。

5.1 構成へのアクセス

構成へのアクセス

構成にアクセスするには、以下の3つの方法があります:

- LAN を使用
- PC および Base Unit 間の直接 Ethernet 接続。
- Base Unit のワイヤレスネットワークを使用

構成への初回アクセス時には、ClickShare Configuration Wizard が自動的に起動します。


本構成ウィザードは、メニューを使用するかわりに、構成を変更するためにいつでも開始できます。

LAN を使用して構成にアクセスするには

1. ブラウザーを開きます。

 注: サポートするブラウザは、Microsoft Edge、Firefox、Google Chrome、および Safari です。

2. デバイスの IP アドレスを参照します。

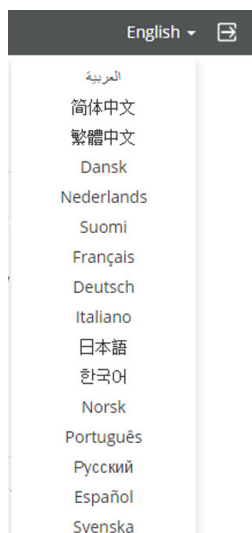
 注: ネットワーク情報の表示が無効になっているために IP アドレスがわからない場合は、直接接続またはデバイスへのワイヤレス接続を介して接続し、有線 IP アドレスを検出します。

ログイン画面が表示されます。



画像 5-1 ログイン画面

3. 構成の言語を変更するには、現在選択されている言語の横にあるドロップダウンボックスをクリックし、目的の言語を選択します。



画像 5-2 構成で使用できる言語

以下の言語で表示できます。

- アラビア文字
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- デンマーク語
- オランダ語
- 英語
- フィンランド語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ノルウェー語
- ポルトガル語
- ロシア語
- スペイン語
- スウェーデン語

構成の言語が選択したものに変わります。

4. ユーザー名「admin」およびパスワードを入力し、EULA およびプライバシーポリシーを承諾して **[OK]** をクリックします。

デフォルトで、パスワードは「admin」に設定されています。

警告: コンフィギュレーターにアクセスする他の誰かが ClickShare Base Unit の設定を変更できないように、最初の使用時にデフォルトパスワードを強力なパスワードに変更することを強く推奨します。「セキュリティ、パスワード」の項を参照してください。

コンフィギュレーターが開きます。



画像 5-3 起動画面

構成の言語は、インターフェイスのいずれのページでも変更できます。

この画面は、2つのウィンドウに分割されています。左側のウィンドウには選択ボタンがあり、右側のウィンドウでは選択した機能を構成します。

起動画面には以下が表示されます：

- 有線 IP アドレス
- ワイヤレス SSID
- 接続されている Button 数
- システムの状態
- SmartCare の状態

これらの各ボックスは、説明されている機能への直接リンクにもなっています。



IP アドレスが見つからない場合 (画面を見ることができない場合など) は、Ethernet クロスオーバーケーブルを介して Base Unit を直接お使いのラップトップに接続し、固定 IP アドレス「192.168.1.23」を使って Web インターフェイスにアクセスしてください。お使いの LAN アダプターが 192.168.1.x の範囲に設定されていることを確認してください。

直接接続を使用して構成にアクセスするには

1. Ethernet ケーブルを使って、Base Unit をお使いのラップトップに接続します。
2. ラップトップでブラウザを開きます。



注: サポートするブラウザは、Microsoft Edge、Firefox、および Safari です。

3. <http://192.168.1.23> を参照してください。


ログイン画面が表示されます。

4. ユーザー名「admin」およびパスワードを入力し、EULA を承諾して [OK] をクリックします。

デフォルトで、パスワードは「admin」に設定されています。

構成が開きます。有線 IP アドレスはスタートアップページに表示されます。

Base Unit のワイヤレスネットワークを使用して構成にアクセスするには

1. ラップトップで、Base Unit のワイヤレス ネットワークに接続します。
Base Unit に接続するためのデフォルトの SSID およびパスワードは、「ClickShare-<製造ベース番号>」および「clickshare」です。
2. ラップトップでブラウザを開きます。
 注: サポートするブラウザは、Microsoft Edge、Firefox、および Safari です。
3. <http://192.168.2.1> を参照してください。
ログイン画面が表示されます。
4. ユーザー名「admin」およびパスワードを入力し、EULA を承諾して [OK] をクリックします。
デフォルトで、パスワードは「admin」に設定されています。
構成が開きます。有線 IP アドレスはスタートアップページに表示されます。



古いラップトップは 5 GHz 周波数帯域をサポートしないことがあります。お使いの Base Unit がその周波数範囲に設定されている場合、それらのラップトップはワイヤレスネットワークを使用して Base Unit に接続できません。

機能の概要

グループ	機能
個人用設定	オンスクリーン ID
	壁紙
	構成ファイル
ディスプレイと音声	出力
	入力
	周辺機器
WiFi とネットワーク	WiFi 設定
	LAN 設定
	サービス
セキュリティ	セキュリティレベル
	パスワード
システム	Base Unit ステータス
	日時
	省電力設定
	Button
	黒板
	XMS
サポートと更新	ファームウェア
	トラブルシューティング

設定を変更した場合は、必ず **[変更の保存]** をクリックして変更を保存してください。

5.2 ClickShare 構成ウィザード



この手順は、オンボーディング手順と同じです。

構成ウィザードについて

Base Unit の初回起動時、構成ウィザードが自動的に起動します。

または、**構成ウィザード**の左下、あるいはダッシュボード ページの **Lauth 構成ウィザード** をクリックして構成ウィザードを起動することもできます。



画像 5-4 構成ウィザード起動

Base Unit の構成に必要なすべての基本設定を、この構成ウィザードで実行できます。構成ウィザードを完了すると、Base Unit が使用できます。

ウェルカム ページには、保証開始日も表示されます。デフォルトでは、この期間は 1 年で、デバイスを登録することで延長できます。



画像 5-5 構成ウェルカムページ

コンフィグレーションの開始をクリックします。

必須項目を入力し、**次へ**をクリックして続行します。

前のステップへ戻るには、**[戻る]**をクリックします。

特定のトピックについての詳細は、以下のトピックの1つを参照してください。

各画面の左下にある **ClickShare 構成ウィザード** または **開始** ページの **構成ウィザード** の **起動** をクリックするだけで、いつでも **ClickShare 構成ウィザード** を **起動** し、**構成** を **変更** できます。

ファームウェア	ファームウェアのアップデート - 自動	147 ページ、 ファームウェア更新 を参照してください。
	ファームウェアのアップデート - 手動	
個人用設定	画面上テキスト言語	89 ページ、 画面に表示されるID を参照してください。
	会議室名、場所明、および歓迎メッセージ	89 ページ、 画面に表示されるID を参照してください。
システム	タイムゾーン、日時手動設定	133 ページ、 日時の設定 、 手動 を参照してください。
	NTP の使用	135 ページ、 日時の設定 、 タイム サーバー を参照してください。
セキュリティ	レベル設定	127 ページ、 セキュリティ 、 セキュリティレベル を参照してください。
パスワード	ClickShare 構成パスワード	129 ページ、 セキュリティ 、 パスワード を参照してください。
ネットワーク	周波数帯域、チャンネル Wi-Fi パスフレーズ	104 ページ、 Wi-Fi 設定 、 アクセスポイント設定 を参照してください。
ClickShare 用 SmartCare	デバイスを登録して SmartCare パッケージを取得します	60 ページ、 XMS Cloud 登録 を参照してください。

5.3 画面に表示されるID

デバイス識別について

以下のアイテムが設定できます:

- 画面上の言語。コンフィギュレーター言語とは別です。
- 会議室名
- 会議室の場所
- 会議室に表示されるウェルカムメッセージ
- ネットワーク情報を表示
 - チェックあり: 有線 IP アドレスなどの LAN 情報が表示されます。また Wi-Fi IP アドレスおよび SSID も表示されます。
 - チェックボックスをオフにする: LAN および WiFi 情報は表示されません (デフォルト設定)。
- シアター モードを有効化
 - チェックボックスをオン: 画面全体がコンテンツの共有に使用されます。ステータス バーは表示されなくなります。ステータス バーがポップアップ表示され、ステータスの変更、通知、PIN コードなどが表示され、再びフェードアウトします。タッチ スクリーンでは、「タグ」を使用して、ステータスバーを表示し、注釈とブラックボードを開始できます。
 - チェックなし: ステータス バーは画面に表示されたままになります。



画像 5-6 オンスクリーン ID

画面上の言語選択

1. 構成にログインします。
2. [個人用設定] → [オンスクリーン ID] をクリックします。
3. オンスクリーン テキストの言語を選択します。[オンスクリーン テキストで使用する言語] の横にあるドロップダウン ボックスをクリックし、目的の言語を選択します。

以下の言語で表示できます。

- アラビア文字
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- デンマーク語
- オランダ語
- 英語
- フィンランド語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ノルウェー語

- ポルトガル語
- ロシア語
- スペイン語
- スウェーデン語

会議室名、場所、および歓迎メッセージ

1. 構成にログインします。
2. [個人用設定] → [オンスクリーン ID] をクリックします。
3. [会議室名] の横にある入力フィールドをクリックし、会議室の名前を入力します。

このテキストは、Button の共有準備が完了すると ([Ready to share on... (...で共有する準備ができました)] と表示されると)、ユーザの装置、Base Unit に接続された中央画面、ユーザの iOS 装置の AirPlay レシーバーの一覧に表示されます。

4. [場所名] の横にある入力フィールドをクリックし、場所を入力します。
5. [歓迎メッセージ] の横にある入力フィールドをクリックし、希望のメッセージを入力してください。

5.4 カスタマイズ、壁紙

壁紙について

CX-50 Gen2 が起動すると背景 (壁紙) が表示されます。この背景壁紙の表示は、無効にすることが可能です。

デフォルトでは、2つの一般的な ClickShare 壁紙を使用できます。独自の背景 (壁紙) をアップロードすることも可能です。デフォルトの壁紙は、システムから削除できません。

壁紙の選択

1. 構成にログインします。
2. [個人用設定] → [壁紙] をクリックします。



画像 5-7 壁紙の選択

[壁紙] 選択ペインが表示されます。現在選択されている壁紙は、赤色の枠付きで表示されます。

3. 選択可能な壁紙のいずれかを選択し、**[変更の保存]** をクリックします。

注: デフォルトでは、2つの一般的な Barco 壁紙がご利用いただけます。壁紙はスクリーンの縦横比に合わせて自動的にサイズ変更されます。

選択されている壁紙は、赤色の枠付きで表示されます。

壁紙を選択するウィンドウの上部に **[変更が適用されました]** というメッセージが表示されます。



また、独自の壁紙 (貴社のロゴなど) を追加することもできます。一覧に新しい壁紙を追加する方法の詳細は、[93 ページ](#)、[個人用設定](#)、[独自の壁紙](#) を参照してください。

壁紙のダウンロード

1. カーソルをダウンロードする壁紙の上に置き、右上隅にあるダウンロード記号をクリックします。



画像 5-8 壁紙のダウンロード

壁紙がお使いの PC にダウンロードされました。

壁紙の有効化 - 無効化

1. [壁紙] ペイン内で、[画面が共有されていない場合のみ壁紙を表示する] の横にあるチェックボックスをオンにします。

チェックボックスをオンにする: コンテンツが共有されていない場合のみ壁紙が表示されます。

チェックボックスをオフにする: コンテンツが共有されていない場合も壁紙は表示されません。コンテンツが共有されていない場合、Base Unit のビデオ出力は無効になります。この機能は、Base Unit が Cisco ビデオ会議システム、Microsoft Teams ルームシステム、Zoom ルームシステムなどのルームシステムに統合された場合に特に有用です。

5.5 個人用設定、独自の壁紙

アップロード方法

1. 構成にログインします。
2. [Personalisation (個人用設定)] → [Wallpaper (壁紙)] をクリックします。
[壁紙] 選択ペインが表示されます。現在選択されている壁紙は、赤色の枠付きで表示されます。
3. 何もない場所にカーソルを置き、[Choose image (画像の選択)] をクリックします。



画像 5-9 独自の壁紙の選択

参照のためのウィンドウが開きます。

4. 目的の画像を参照し、[Open (開く)] をクリックしてその画像を読み込みます。
ファイルのコンテンツが確認され、(形式およびサイズが)有効である場合はファイルがアップロードされます。新しい壁紙が赤色の枠付きで表示されます。
5. [Save changes (変更の保存)] をクリックして独自の壁紙を適用します。
ページの上部に [Successfully applied change (変更が適用されました)] というメッセージが表示されます。

独自の画像の変更

1. [Personalisation (個人用設定)] → [Wallpaper (壁紙)] をクリックします。
2. 現在の独自の画像にカーソルを置き、[Change image (画像の変更)] をクリックします。

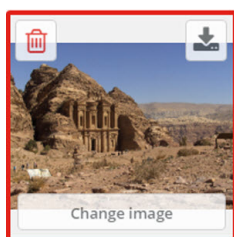


画像 5-10 画像の変更

3. 目的の画像を参照し、[Open (開く)] をクリックしてその画像を読み込みます。
ファイルのコンテンツが確認され、(形式およびサイズが)有効である場合はファイルがアップロードされます。新しい壁紙が赤色の枠付きで表示されます。
4. [Save changes (変更の保存)] をクリックして独自の壁紙を適用し、以前のファイルを置き換えます。
ページの上部に [Successfully applied change (変更が適用されました)] というメッセージが表示されます。

独自の壁紙の削除

1. 現在の画像にカーソルを置き、ゴミ箱をクリックして画像を削除します。



画像 5-11 壁紙の削除

独自の壁紙が削除され、デフォルトの壁紙がアクティブ化されました。

5.6 構成ファイルの管理

構成ファイルの管理について

完全バックアップはダウンロードできますが、構成設定を別の Base Unit に複製するために使用できません。そのため、ポータブルバージョンをダウンロードすることが可能です。この Portable Version は、別の Base Unit にある [Configuration Button (構成のアップロード)] ボタンを使用してアップロードできます。同じボタンを使用して、元の Base Unit で完全バックアップをアップロードできます。

Portable バックアップには以下が含まれています：

- 壁紙
- 壁紙の設定
- ログの設定
- すべてのディスプレイ設定
- OSD 言語
- 場所
- ウェルカムメッセージ
- WiFi チャンネル
- WiFi 周波数

構成ファイルを管理するには

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Personalisation (個人用設定)] → [Configuration Files (構成ファイル)] をクリックします。



画像 5-12 構成ファイル

3. 完全バックアップをダウンロードするには、[Full Backup (完全バックアップ)] をクリックします。すべての情報および履歴を含む xml ファイルがダウンロードされます。このファイルは、同じ Base Unit でのみ再使用可能です。
4. Portable Version をダウンロードするには、[Portable Version] をクリックします。別の Base Unit で設定を複製するためのポータブル情報を含む xml ファイルがダウンロードされます。
5. 構成をアップロードするには、[Upload Configuration (構成のアップロード)] をクリックします。

参照のためのウィンドウが開きます。アップロードするファイル (xml ファイル) に移動し、[Open (開く)] をクリックするとアップロードされます。

完全バックアップは、バックアップが作成された Base Unit でアップロードできます。Portable Version は、同じモデルの別の Base Unit のいずれでもアップロードできます。



構成ファイルをアップロードすると、ソフトウェアの更新履歴とペアリングされた Button は失われます。ただし、Base Unit の SSID またはワイヤレス パスワードが変更されていない場合、ペアリングされた Button はそのまま機能します。

5.7 ディスプレイ設定、出力

ディスプレイポート

Base Unit の背面にある USB タイプ C™ ポート経由でポート出力を表示します。

この出力はデフォルトで有効になっており、解像度は固定で自動的に設定されています。

HDMI

Base Unit とディスプレイの間に HDMI 接続がある場合は、ディスプレイタイプが表示されます。解像度を選択できます。

解像度

ディスプレイの出力解像度は [Auto (自動)] に設定されています。これは、CX-50 Gen2 の出力解像度がディスプレイの解像度に合わせて自動的に調整されるということです。HDMI ディスプレイの場合は、ホットプラグ検出を利用できます。

ディスプレイが出力に接続されている場合は、モデルとベンダーが表示されます。

ディスプレイが接続されていない場合は、未接続がモデルとベンダーの横に表示されます。

ディスプレイモード

ディスプレイモードは、次のいずれかに設定できます：

- クローンモード：
ソースコードは、接続されたディスプレイ間で複製されます。
- 拡張モード：（デフォルト）
追加のソースコンテンツを表示するための追加ウィンドウが利用可能になります。

[ClickShare位置] の後の数字を変更することで、デュアルディスプレイの位置を入れ替えることができます。



タッチスクリーンを使用する場合は、その位置を1つに設定しなければなりません！

The screenshot shows the '出力' (Output) settings page. On the left is a navigation menu with 'ディスプレイと音声' (Display and Audio) selected. The main content area is titled '出力' and contains two sections: 'DisplayPort' and 'HDMI'.
 - Under 'DisplayPort', there is a checkbox for '有効化' (Enabled) which is checked. Below it is a dropdown menu for '解像度' (Resolution) set to '自動' (Auto). Below that is a dropdown for 'ClickShareポジション' (ClickShare Position) set to '1'.
 - Under 'HDMI', there is a checkbox for '有効化' (Enabled) which is checked. Below it is a dropdown for '解像度' (Resolution) set to '自動' (Auto). Below that is a dropdown for 'ClickShareポジション' (ClickShare Position) with a list of options: '2', '1', and '2'. The '2' at the bottom is highlighted in blue.
 At the top right of the settings area are two buttons: '変更を破棄' (Discard Changes) and '変更を保存' (Save Changes).
 At the bottom left of the settings area, there is a footer with the text: '基本設定をアップデートするには ClickShareコンフィギュレーションウィザード。 © 2023, Barco. All rights reserved.' and the Barco logo.

画像 5-13

CEC

Consumer Electronics Control (CEC) は、ユーザーが1つのリモートコントロールのみを使用して、HDMIで接続されたデバイスをユーザーが命令および制御できるように設計されたHDMIの機能です。

CEC を有効化するには、[CEC の有効化] の前のチェックボックスにチェックを入れます。

音声出力

オーディオを有効化するには、[オーディオの有効化] の前のチェックボックスにチェックを入れます。

USB スピーカーフォンがデバイスに接続されている場合、このデバイスは、会議オーディオとコンテンツオーディオの両方のデフォルトのオーディオ出力デバイスになり、HDMI、DP またはオーディオジャックをオーディオ出力として構成することはできなくなります。デフォルトで USB が選択されており、変更はできません。

USB スピーカーフォンがデバイスに接続されていない場合は、オーディオ出力を構成し、HDMI、DP またはオーディオジャックを選択できます。

UI イラスト画像は、USB スピーカーフォンが接続されたデバイスを示します。



すべてのオーディオがエコーキャンセルスピーカーから再生およびキャプチャされるため、周辺機器はコンテンツオーディオをキャンセルします。ユーザーは、オーディオでコンテンツを再生したときにオーディオに対して呼び出しへの共有を有効化する必要があります。これは、共有時にさまざまなツールで選択できます。

1. コンフィギュレータにログインします。
2. ディスプレイとオーディオ → 出力 をクリックします。



画像 5-14 ディスプレイ設定、出力

3. スクリーンセーバーをアクティブ化するには、目的の遅延時間になるまで、スライダーを左右にドラッグします。

スライダーが最も左側に設定されている場合は、スクリーンセーバーはアクティブ化されません。

5.8 ディスプレイ設定、入力

入力モードの設定

1. [コンフィギュレーター]にログインします。
2. [ディスプレイとオーディオ]→[入力]をクリックします



画像 5-15 ディスプレイ、入力

3. 入力モードを変更するには、[入力モード]の隣にあるドロップダウンをクリックし、希望のオプションを選択します。

以下のオプションが利用できます：

- 有線ルームドックディスプレイ画面はローカルデバイスに表示されます。
- DisplayPort over USB-C: HDMI デバイスからコンバータを経由して DisplayPort over USB-C への入力
- オフ: 入力不可

信号があると、[信号]の横のLEDが緑色に点灯します。

4. ソース名を入力: 入力フィールドをクリックし、現在の名前を選択し、新しい名前を入力します。
5. [設定の保存]をクリックします。

5.9 周辺機器

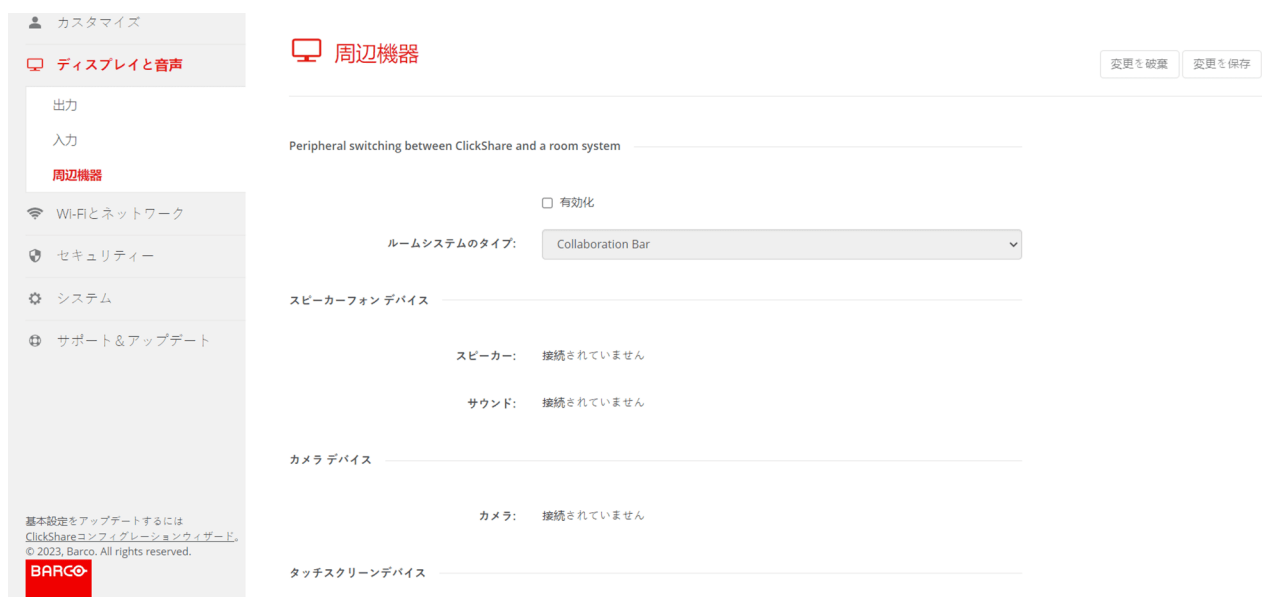
概要

ClickShare 会議室で、スピーカーフォン、マイク、カメラおよびルーム システムをワイヤレスでラップトップに接続し、ビデオ会議通話で会議室のより良い機器を使用できます。

[周辺機器] ページでは、フレキシブルな会議室を有効にし、接続されているデバイスとそのステータスの概要を表示します。

周辺機器の概要

1. コンフィギュレータにログインします。
2. ディスプレイとオーディオ → 周辺機器 をクリックします。

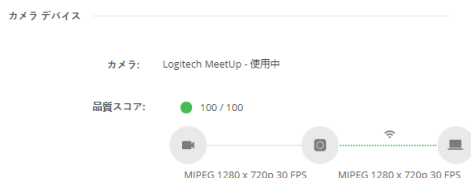


画像 5-16 周辺機器

品質スコア カメラ

カメラを使用している場合、品質スコアは 0 から 100 の間で与えられます。カメラ ストリームの品質と形式の変更で何を行っているかを示します。品質スコアは画質を反映します。ゼロは、ClickShare で受け入れられる最低画質 (最低帯域幅) を示し、100 は、カメラで使用できる最高画質 (最高帯域幅) を示します。これは、形式解像度やフレームレートとは無関係です。要求されたフレームレートを満たすように品質が調整されます。フレームレートに到達できない場合は、品質が低下します。最低の品質になると、フレームレートを満たす方法は他にありません。したがって、品質スコアはゼロになります。

品質スコア (0 ~ 100 の正規化値):



画像 5-17 品質スコア

- グリーン: >68
- オレンジ: 35 - 68
- レッド: 0 - 34

ソース (カメラから Base Unit) は、要求されたフレームレートです。このフレームレートでは、Base Unit とアプリまたは Button との間の宛先フレームレートが得られます。

周辺機器のファームウェアのアップデート

コンフィギュレーターを使用した周辺機器のファームウェアの更新は、Logitech Meetup および Rally でサポートされており、カメラが使用されていない場合のみサポートされます。

インストールされているファームウェアのバージョンが Barco 公認の周辺機器ファームウェアのバージョンよりも低い場合は、インストール Button がアクティブになります。最新バージョンの [インストール] をクリックします。

5.10 フレキシブルな会議室


インルーム システムやモジュール式インルームシステムで標準化されたコラボレーション バーとシームレスに統合できるように CX-50 Gen2 を設定します。



画像 5-18 ルーム システム タイプのドロップダウン メニュー


コラボレーション バー

1. [ディスプレイとオーディオ - 周辺機器] にある **ClickShare** とルームシステム間の周囲切り替えのチェックボックスを有効にします。
2. ドロップダウンメニュー [ルーム システム タイプ] から [コラボレーション バー] を選択します。

 注: スタンバイ モードは、自動的に「ECO モード」に切り替わり、ロックされたままになります。

モジュール設定

1. [ディスプレイとオーディオ - 出力] で [オーディオ出力] を「USB」に設定します。
2. [ディスプレイとオーディオ - 周辺機器] にある **ClickShare** とルームシステム間の周囲切り替えのチェックボックスを有効にします。

 注: スタンバイ モードは、自動的に「ECO モード」に切り替わり、ロックされたままになります。

3. ドロップダウンメニュー [ルーム システム タイプ] から [モジュラー設定] を選択します。
4. 以下の設定がモジュラー デバイス上で構成されていることを確認してください。
 - 自動画面共有を有効にします。
 - エコー キャンセリング スピーカーフォンがデフォルトのオーディオ構成に設定。
 - 「ルームカメラ」をデフォルトのビデオカメラに設定。

5.11 WiFi設定



警告: Base Unit を対象地域外で操作することは許可されていません。

WiFi について

Base Unit にはワイヤレス接続を使用して接続できます。接続は、固定ワイヤレス IP アドレスを使って確立します。

WiFi 設定 (WiFi Settings) が選択され、アクセスポイント (Access Point) が有効な場合、現在の設定の概要が表示されます。

画像 5-19 WiFi設定

アクセスポイントの設定と無線クライアントの設定は、**[編集の設定 (Edit settings)]** をクリックした後に有効または無効にできます。

[有効化 (Enable)] の隣のチェックボックスをオンにします。

[チェック済み (Checked)]: アクセスポイントの設定が有効です。現在の設定はすべて変更できます。

[未チェック (Unchecked)]: アクセスポイントの設定は無効です。

アクセスポイントの設定の詳細については、[104 ページ](#)、[Wi-Fi 設定](#)、[アクセスポイント設定](#) を参照してください。



IP アドレスを変更した後は、この Base Unit で使用している Button を再度ペアリングする必要があります。

5.12 Wi-Fi 設定、アクセスポイント設定

変更方法

1. [有効化 (Enable)] の隣のチェックボックスをオンにします。
[チェック済み (Checked)]: アクセスポイントの設定が有効です。現在の設定はすべて変更できます。
[未チェック (Unchecked)]: アクセスポイントの設定は無効です。
2. 必要に応じて、新しい WiFi パスフレーズを入力し、その WiFi パスフレーズを確認します。

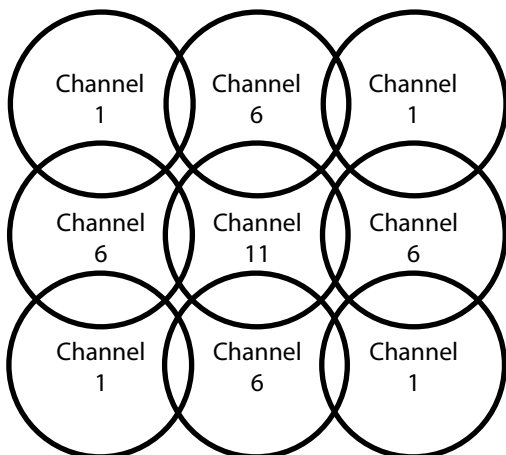


画像 5-20 WiFi設定、アクセスポイントの設定

3. ワイヤレスネットワークのパブリック名 (SSID) を入力します。
デフォルトの SSID は *ClickShare-<製造番号 Base Unit>* です。
4. この SSID をブロードキャストするには、[SSID のブロードキャストを有効化する (Enable SSID broadcast)] の前にあるチェックボックスをオンにします。

周波数帯域とチャンネルの選択について

理想的な設定では、重複するチャンネルは、互いに範囲内にある 2 つの ClickShare Base Unit で使用しないでください。2.4 Ghz 帯域のチャンネルは互いに重複しているため、最良慣行は、単一フロアでチャンネル 1、6、および 11 を使用することです。上下の階では、たとえば図のパターンの中心にチャンネル 6 を配置することにより、階間の重なりを避けるためにチャンネルパターンがシフトされます。



画像 5-21

5 GHz チャンネルは、互いに重複せず、2.4 GHz チャンネルよりも非 Wi-Fi 装置で使用されることが少なくなります。さらに、5 GHz 信号は 2.4 GHz 信号よりも急速に減衰します。したがって、5 GHz チャンネルの使用が推奨されます。これにより、設置されている他の ClickShare ユニットおよび他の WLAN ユーザーに対する ClickShare システムの影響が制限されます。

周波数帯域とチャンネルの選択

1. ワイヤレス接続チャンネルを選択するには、ドロップダウンボックスをクリックして目的のチャンネルを選択します。

一覧で選択できるチャンネルは、Base Unit の地域版によって異なります。周波数帯域やワイヤレス接続チャンネルの変更する場合、Button を再度ペアリングする必要はありません。

理想的には、ワイヤレスサイト調査を実施した後に、ClickShare チャンネルを選択します。サイト調査では、干渉源とアクティブな RF システムをマッピングします。いくつかの WiFi 調査ツールが市販されています。サイト調査の結果に基づき、各会議室で最も占有率の低いチャンネルを見つけて選択できます。

2. ワイヤレス接続の周波数帯域（「2.4 GHz」または「5 GHz」のいずれか）を選択するには、ドロップダウンボックスをクリックして適切な帯域を選択します。

チャンネル選択ウィンドウの下に、現在のチャンネルで利用可能な帯域幅の指示が表示されます。十分な帯域幅が別のチャンネルで利用できるかどうかを確認するには、ドロップダウンでチャンネルを選択して変更内容を保存します。ページは新しい設定でリロードされ、約 1 分後にチャンネルのフィットが表示されます。結果を見るためにページをリロードする必要はありません。

一覧で選択できるチャンネルは、Base Unit の地域版によって異なります。周波数帯域やワイヤレス接続チャンネルの変更する場合、Button を再度ペアリングする必要はありません。

Intense を使用すると、別の WiFi チャンネルへの変更が表示され、別のチャンネルに変更されます。約 1 分後にページがリロードされます。

WiFi を使用した ClickShare コンフィギュレーターへのアクセス


1. WiFi を介したコンフィギュレーターへのアクセスを許可するには、[WebUI を WiFi 経由で利用可能にする] の前にあるチェックボックスをオンにします。

チェックボックスをオンにする: Wi-Fi を使用して構成にアクセスできます。

チェックボックスをオフにする: Wi-Fi を使用した構成へのアクセスはブロックされます。

IP アドレスとサブネットマスク

1. IP アドレスまたはサブネットマスクを変更するには、入力フィールドをクリックして、新しい IP アドレスまたはサブネットマスクの 4 つの数値を入力します。

 注: 固定 IP アドレスを割り当てる場合、0.0.0.0 は指定できません。

無線クライアントの設定

詳細は、[104 ページ](#)、[Wi-Fi 設定](#)、[アクセスポイント設定](#) を参照してください。

5.13 WiFi 設定、ワイヤレスクライアント

はじめに

ワイヤレスクライアントモードでは、イーサネットインターフェース経由ではなく WiFi 経由で Base Unit をネットワークに接続できます。これにより、有線ネットワーク接続と同じ機能を提供します。完全なネットワーク統合、自動更新機能、および XMS での集中管理です。設置場所でネットワークケーブルをドロップする必要がなくなるため、Base Unit の配置の柔軟性が向上します。

ワイヤレスクライアントをアクティブにする方法

1. [コンフィギュレーター] にログインします。
2. [WiFi とネットワーク] → [WiFi 設定] をクリックします。
3. 下のチェックボックス [無線クライアント設定] をオンにします。

ワイヤレスクライアントの設定が開きます。

画像 5-22 WiFi 設定、ワイヤレスクライアント

さまざまなワイヤレスクライアントモード設定が可能です。

- EAP-TLS
- EAP-TTLS
- PEAP
- WPA2-PSK

5.14 WiFi設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS

EAP-TLS について

EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) は、クライアントおよびサーバー間の相互認証を可能にする証明書に基づく EAP メソッドの 1 つです。サーバーおよびクライアント証明書を配布するための PKI (公開キーインフラストラクチャ) が必要です。一部の企業ではこれが大きな障害となり、その場合は代わりに EAP-TTLS および PEAP を利用します。規格では X.509 クライアントの証明書が厳格に求められているわけではありませんが、ClickShare を含むほとんどの実装ではそれが必須となっています。クライアント証明書を使って実装する場合、EAP-TLS は最も安全な EAP メソッドの 1 つであると考えられています。PEAP および EAP-TTLS と比較した場合の唯一の小さなデメリットは、ユーザー ID が実際の TLS ハンドシェイクが行われる前に暗号化されずに送信されることです。EAP-TLS には、SCEP や INDES を使用することで、または証明書を手動でアップロードすることで対応しています。

EAP-TLS の使用方法

1. [認証モード (Authentication Mode)] の隣にあるドロップダウンリストから [EAP-TLS] を選択します。

画像 5-23 WiFi設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS

2. 社内 SSID を入力します。
ClickShare Button が接続されることになる貴社ワイヤレス インフラストラクチャの SSID。
3. ドメインと ID を入力します。
4. 証明方法を選択します。ドロップダウンボックスをクリックし、希望の方法を選択します。
 - クライアントおよび CA 証明書を手動で提供する
 - SCEP 経由で自動登録

証明書を手動で提供

1. クライアント証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。

許可されているファイル形式:

- .pfx (PKCS#12)
- .p12 (Base64 エンコード DER)

少なくともクライアント証明書と対応する秘密鍵を含める必要があります。

2. クライアント証明書のパスワードを入力します。
3. CA 証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。次の形式が許可されます。

- .pem
- .cer
- .crt
- .pb7 (Base64 エンコード DER)

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。

4. 変更内容の保存

自動登録の使用

簡易証明書登録プロトコル (SCEP) は、拡張可能な方法で証明書を発行および無効にすることができるプロトコルです。SCEP サポートにより、ClickShare Base Unit および Button の企業ネットワークへの統合がより迅速でスムーズになります。

Base Unit ファームウェアバージョン 02.11.01 まで、SCEP の実装は特に Windows Server の一部である Network Device enrollment Service (NDES) をターゲットとしていました。Base Unit ファームウェアバージョン 02.12.00 以降は、NDES と標準 SCEP の両方をサポートしています。

NDES には以下のパラメーターが必要です。

SCEP サーバー: これは、NDES サービスが稼働しているネットワークにある Windows Server の IP またはホスト名です。http のみが許可されます。例: http://myserver or http://10.192.5.1

SCEP ユーザー名: これは、NDES にアクセスし、チャレンジパスワードを要求するために必要な許可が与えられている、お使いの Active Directory のユーザーです。このためにユーザーは、CA 管理者グループに属す (スタンドアロン CA の場合) か、所定の証明書テンプレートで登録許可を得る必要があります。

SCEP パスワード: サービスで認証に使用している SCEP ユーザー名に対応するパスワードです。

共通名: 証明書とリンクさせたい ID。

The screenshot shows a configuration form with the following fields:

- 証明書を提供する: NDES経由で自動登録 (dropdown menu)
- SCEPサーバー: http:// [input field] /CertSrv/mscep_admin/
- SCEPユーザー名: [input field]
- SCEPパスワード: [input field]
- 共通名: ClickShare-000129613835

画像 5-24 WiFi設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS、NDES

SCEP には以下のパラメーターが必要です。

SCEP サーバー: SCEP サービスを実行しているサーバーの IP またはホスト名に、ポートおよびサブフィックスを追加したもの。http のみが許可されます。E.g.: http://myserver:8080/scep または http://10.192.5.1/test

SCEP チャレンジ: 対応する SCEP チャレンジパスワード。

共通名: 証明書とリンクさせたい ID。

証明書を提供する: SCEP経由で自動登録

SCEPサーバー: http://

SCEP課題:

共通名: ClickShare-000129613835

画像 5-25 WiFi設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS、SCEP

5.15 WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TTLS

EAP-TTLS について

EAP-TTLS (トンネル化トランスポート層セキュリティ) は、Juniper Networks 社による EAP 実装です。EAP-TLS と同程度強力な認証を提供しますが、それぞれのユーザーに対して証明書を発行する必要はありません。証明書の発行を受ける代わりに、認証サーバーが発行された証明書の役割を果たします。ユーザー認証はパスワードによって行われますが、そのパスワード資格情報は、サーバー証明書に基づいて確立された安全に暗号化されたトンネル内で送信されます。

ユーザー認証は、既に企業 LAN で使用されているのと同じセキュリティ データベースに対して行われます。たとえば、SQL または LDAP データベースやトークン システムなどです。EAP-TTLS は通常クライアント証明書なしで企業環境において実装されるため、クライアント証明書の使用はサポートされていません。ユーザーごとにクライアント証明書を使用する場合は、EAP-TLS を使用することを推奨します。

EAP-TTLS の使用方法

1. [認証モード (Authentication Mode)] の隣にあるドロップダウンリストから [EAP-TTLS] を選択します。

The screenshot shows the configuration page for WiFi and wireless clients. The left sidebar contains navigation options: カスタマイズ, ディスプレイと音声, Wi-Fiとネットワーク (selected), WiFi設定, LAN設定, サービス, セキュリティ, システム, サポート&アップデート. The main content area is titled 'Wi-Fiとネットワーク' and shows the following settings:

- 認証モード: EAP-TTLS (selected in a dropdown)
- 社内SSID: [Empty text box]
- ドメイン: [Empty text box]
- ID: [Empty text box]
- 匿名 ID: [Empty text box]
- パスワード: [Empty text box]
- CA証明書のアップロード (オプション):
 - Bestand kiezen | Geen bestand gekozen
 - 許可されているファイル形式: .pem, .cer, .crt, .p7b (Base64 エンコード DER).
 - ファイルには、少なくともドメインのルートCA証明書が含まれている必要があります。
- メソッド: 自動 (DHCP) (selected in a dropdown)
- IPアドレス: [Empty text box]
- サブネットマスク: [Empty text box]
- デフォルトゲートウェイ: [Empty text box]
- DNS サーバー: [Empty text box]

At the bottom of the sidebar, there is a note: '基本設定をアップデートするには ClickShareコンフィグレーションウィザード。' and a copyright notice: '© 2021, Barco. All rights reserved.' The Barco logo is also present.

画像 5-26 WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TTLS

5.16 WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、PEAP

PEAP について

PEAP (保護された拡張認証プロトコル) は EAP 実装の 1 つで、Cisco Systems 社、Microsoft 社、および RSA Security 社が共同開発しました。サーバー CA 証明書を使ってセキュリティ保護された TLS トンネルを設定し、その後実際のユーザー認証がトンネル内で行われます。このように機能するため、ユーザーを認証しながら、PKI を使用する必要なく TLS のセキュリティを活用することが可能です。

トンネル内での認証に使用する実際のメソッドは、規格によって指定されていません。ただし本アプリケーション注記で PEAP について言及する際は、EAP-MSCHAPv2 を内部認証メソッドとして使用する PEAPv-0 を指します。これは、WPA および WPA2 規格において認可された 2 つの PEAP 実装の 1 つで、最も一般的で広く使用されている PEAP 実装です。

PEAP の使用方法

1. [認証モード (Authentication Mode)] の隣にあるドロップダウンリストから [PEAP] を選択します。

画像 5-27 WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、PEAP

2. 社内 SSID を入力します。
ClickShare Button が接続されることになる貴社ワイヤレス インフラストラクチャの SSID。
3. ドメインと ID を入力します。
4. パスワードを入力します。
5. CA 証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。
次の形式が許可されます。
 - .pem
 - .cer
 - .crt

- .pb7 (Base64 エンコード DER)

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。

6. **[変更内容の保存 (Save changes)]** をクリックして、設定を保存します。

5.17 WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、WPA2-PSK

WPA2-PSK について

WPA2-PSK は個々のユーザーを区別することなく、ワイヤレス インフラストラクチャに接続するすべてのクライアントに対して 1 つのキーワード (PSK - 事前共有キー) を使用します。そのため、設定は非常に簡単です。接続後は、クライアントと AP (アクセス ポイント) 間で送信されるデータはすべて、256 ビット キーを使って暗号化されます。

WPA2-PSK の使用方法

1. [認証モード (Authentication Mode)] の隣にあるドロップダウンリストから [WPA2-PSK] を選択します。

The screenshot shows a configuration form with the following fields and values:

- 認証モード: WPA2-PSK (selected in a dropdown menu)
- 社内SSID: (empty text input field)
- パスフレーズ: (empty text input field)
- メソッド: 自動 (DHCP) (selected in a dropdown menu)
- IPアドレス: (disabled text input field)
- サブネットマスク: (disabled text input field)
- デフォルトゲートウェイ: (disabled text input field)
- DNS サーバー: (disabled text input field)

画像 5-28 WiFi 設定、ワイヤレスクライアント、WPA-PSK

2. 社内 SSID を入力します。

ClickShare Button が接続されることになる貴社ワイヤレス インフラストラクチャの SSID。

3. パスフレーズを入力します。

WPA2-PSK で使用されるキーにより、ワイヤレス インフラストラクチャへの認証が行われます。これは、64 桁の 16 進数か、8~63 字の印刷可能な ASCII 文字のいずれかです。

4. [変更の保存] をクリックします。

5.18 LAN 設定

LAN ネットワーク設定について

ネットワーク接続は、DHCP を介して、または固定 IP アドレスを手作業で入力することによって設定できます。



DHCP

動的ホスト構成プロトコル (Dynamic host configuration protocol)。DHCP とは、ネットワーク管理者が組織のネットワークの IP アドレスの管理と割り当てを集中的に行える通信プロトコルです。インターネットプロトコルを使用する場合、インターネットに接続可能な各コンピュータに一意の IP アドレスが必要となります。組織でインターネットに接続可能なコンピュータを設定する際には、各コンピュータに IP アドレスを設定する必要があります。DHCP を使用しない場合、IP アドレスを各コンピュータに手作業で入力しなければならず、またコンピュータをネットワークの異なる部分の別の場所に移す際には再度 IP アドレスを入力しなければなりません。DHCP を使用すると、ネットワーク管理者は集中的に IP アドレスの監視と割り当てを行えます。また、コンピュータがネットワークの別の場所に接続されると、新しい IP アドレスが自動的に送信されます。

ホスト名と方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Wi-Fi とネットワーク (Wi-Fi & Network)] → [LAN 設定 (LAN Settings)] をクリックします。

The screenshot shows the 'LAN 設定' (LAN Settings) page. On the left is a navigation menu with options like 'カスタマイズ', 'ディスプレイと音声', 'Wi-Fi とネットワーク', 'セキュリティ', 'システム', and 'サポート & アップデート'. The 'Wi-Fi とネットワーク' section is expanded, showing 'WiFi 設定', 'LAN 設定' (selected), and 'サービス'. The main content area is titled 'LAN 設定' and includes a 'LAN ホスト名設定' section with a 'ホスト名' field containing 'ClickShare-1863550238'. Below this is the 'プライマリインターフェイス' section with a 'メソッド' dropdown set to '自動 (DHCP)'. Other fields include 'IP アドレス' (10.200.20.205), 'サブネットマスク' (255.255.254.0), 'デフォルトゲートウェイ' (10.200.20.1), 'MAC アドレス' (00:04:A5:01:03:EE), and 'DNS サーバー' (10.197.192.11, 10.193.251.11). There is also a '有線認証ステータス' section with a button '有線認証を設定しています...'. At the bottom, there is a 'LAN プロキシ設定' section with a checkbox 'プロキシサーバーを使用' which is unchecked.

画像 5-29 LAN 設定

3. [ホスト名 (Hostname)] の横にある入力フィールドをクリックし、Base Unit のホスト名を入力します。デフォルトのホスト名は「ClickShare-<製造番号 Base Unit>」です。

4. 方法を選択するには、[方法 (Method)] の横にあるドロップダウンボックスをクリックし、[自動 (DHCP) (Automatic (DHCP))] または [手動 (Manual)] を選択します。

[自動 (DHCP)] を選択すると、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの各フィールドが灰色表示になり、現在使用している設定が自動的に入力されます。

5. [変更の保存 (Save changes)] をクリックして設定を適用します。

手動 (固定) IP アドレス

1. [方法 (Method)] の横にあるドロップダウンボックスをクリックし、[手動 (Manual)] を選択します。

IP アドレス、サブネット、ゲートウェイの各入力フィールドがアクティブ化されます。

2. [IP アドレス (IP address)] 入力フィールドをクリックし、4 つの数値を入力します。



注: 1 つのアドレスは、255 以下の値の 4 つの数値で構成されます。
固定 IP アドレスを割り当てる場合は、0.0.0.0 以外を指定する必要があります。

3. [サブネットマスク (Subnet mask)] 入力フィールドをクリックし、ローカルサブネットとして 4 つの数値に値を入力します。

4. [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] 入力フィールドをクリックし、4 つの数値に値を入力します。このデフォルトゲートウェイは、ルーターの IP アドレスに設定します (ローカルサブネット上にある必要があります)。



注: 0.0.0.0 以外である必要があります。
ローカルサブネット上にルーターが存在しない場合は、このフィールドをサブネット上の任意の IP アドレスに設定します。

5. DNS サーバー入力フィールドをクリックし、優先 DNS サーバー (最大 5) をコンマ区切りのリストで入力します。

6. [変更の保存 (Save changes)] をクリックして設定を適用します。



サブネットマスク 255.255.255.0 には IP アドレス 192.168.2.x、サブネットマスク 255.255.0.0 には IP アドレス 192.168.x.x を使用しないでください。

プロキシサーバーを使用する

この設定は、インターネットアクセスを必要とする Base Unit の自動更新機能を利用する際に重要です。

1. [プロキシサーバーを使用する (Use a proxy server)] の横にあるチェックボックスをオンにします。

プロキシサーバーを使用

サーバーアドレス:

サーバーポート (オプション):

ユーザー名 (オプション):

パスワード (オプション):

画像 5-30 プロキシ設定

[プロキシ設定] の入力が可能になります。

2. プロキシサーバーのアドレスを入力します。IP アドレスまたはホスト名を入力します。
一部のプロキシサーバーではポート番号、ユーザー名、パスワードの入力が必須ですが、それ以外の場合はオプションです。
3. オプションで、使用するサーバーポートを入力します。
4. オプションで、ユーザー名を入力します。
5. オプションで、パスワードを入力します。

6. **[変更の保存 (Save changes)]** をクリックして設定を適用します。

5.19 LAN 設定、有線認証

設定方法

1. 有線認証のセットアップ...をクリックします。

The screenshot shows the 'LAN設定' (LAN Settings) page. On the left is a navigation menu with options like 'カスタマイズ', 'ディスプレイと音声', 'Wi-Fiとネットワーク', 'セキュリティ', 'システム', and 'サポート&アップデート'. The 'Wi-Fiとネットワーク' section is expanded, showing 'WIFI設定', 'LAN設定' (selected), and 'サービス'. The main content area is titled 'LAN設定' and includes buttons for '変更を破棄' and '変更を保存'. Below the title, there are sections for 'LANホスト名設定' (Host Name Setting) with a text input for 'ClickShare-1863550238', 'プライマリインターフェイス' (Primary Interface) with a dropdown set to '自動 (DHCP)', 'IPアドレス' (IP Address) set to '10.200.20.205', 'サブネットマスク' (Subnet Mask) set to '255.255.254.0', 'デフォルトゲートウェイ' (Default Gateway) set to '10.200.20.1', 'MACアドレス' (MAC Address) set to '00:04:A5:01:03:EE', and 'DNS サーバー' (DNS Servers) set to '10.197.192.11,10.193.251.11'. The '有線認証ステータス' (Wired Authentication Status) is '使用不可能です' (Not available), and a button '有線認証を設定しています...' (Setting up wired authentication...) is present. At the bottom, there is a checkbox for 'プロキシサーバーを使用' (Use proxy server) which is unchecked.

画像 5-31 有線認証

設定ウィザードが起動します。

2. 認証方法を選択します。ドロップダウンをクリックし、希望の方法を選択します。

以下の方法が使用可能です。

- 認証なし：有線インターフェースには認証メカニズムは適用されません。
- EAP-TLS
- EAP-TTLS
- PEAP

5.20 LAN 設定、EAP-TLS セキュリティモード

EAP-TLS について

EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) は、クライアントおよびサーバー間の相互認証を可能にする証明書に基づく EAP メソッドの 1 つです。サーバーおよびクライアント証明書を配布するための PKI (公開キーインフラストラクチャ) が必要です。一部の企業ではこれが大きな障害となり、その場合は代わりに EAP-TTLS および PEAP を利用します。規格では X.509 クライアントの証明書が厳格に求められているわけではありませんが、ClickShare を含むほとんどの実装ではそれが必須となっています。クライアント証明書を使って実装する場合、EAP-TLS は最も安全な EAP メソッドの 1 つであると考えられています。PEAP および EAP-TTLS と比較した場合の唯一の小さなデメリットは、ユーザー ID が実際の TLS ハンドシェイクが行われる前に暗号化されずに送信されることです。EAP-TLS には、SCEP を使用することで、または証明書を手動でアップロードすることで対応しています。

EAP-TLS の設定方法

1. 認証モード *EAP-TLS* を選択します。

The screenshot shows the 'ClickShare 有線認証ウィザード' (ClickShare Wired Authentication Wizard) interface. The '認証モード' (Authentication Mode) dropdown is set to 'EAP-TLS'. Below it are input fields for 'ドメイン' (Domain) and 'ID'. The '証明書を提供する' (Provide Certificate) dropdown is set to 'Manually provide Client & CA certificates'. There are two sections for certificate uploads: 'クライアント証明書のアップロード' (Client Certificate Upload) and 'CA証明書のアップロード' (CA Certificate Upload). Both sections show a 'Bestand kiezen' (Select file) button and a message: 'Geen bestand gekozen' (No file selected). Below the CA section, there is a note: '許可されているファイル形式: .pem, .cer, .crt, .p7b (Base64エンコードDER)。ファイルには、少なくともドメインのルートCA証明書が含まれている必要があります。' (Allowed file formats: .pem, .cer, .crt, .p7b (Base64 encoded DER). The file must contain at least the root CA certificate of the domain.) At the bottom right, there is a 'コンフィギュレーションの保存' (Save Configuration) button with a checkmark icon.

画像 5-32 EAP-TLS

2. ドメインと *ID* を入力します。
3. 証明方法を選択します。ドロップダウンボックスをクリックし、希望の方法を選択します。
 - クライアントおよび CA 証明書を手動で提供する
 - SCEP 経由で自動登録

証明書を手動で提供

1. クライアント証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。

許可されているファイル形式:

- .pfx (PKCS#12)
- .p12 (Base64 エンコード DER)

少なくともクライアント証明書と対応する秘密鍵を含める必要があります。

2. クライアント証明書のパスワードを入力します。
3. CA 証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。

次の形式が許可されます。

- .pem
- .cer
- .crt
- .pb7 (Base64 エンコード DER)

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。

4. 構成の保存

自動登録の使用

簡易証明書登録プロトコル (SCEP) は、拡張可能な方法で証明書を発行および無効にすることができるプロトコルです。SCEP サポートにより、ClickShare Base Unit および Button の企業ネットワークへの統合がより迅速でスムーズになります。

Base Unit ファームウェアバージョン 02.11.01 まで、SCEP の実装は特に Windows Server の一部である Network Device enrollment Service (NDES) をターゲットとしていました。Base Unit ファームウェアバージョン 02.12.00 以降は、NDES と標準 SCEP の両方をサポートしています。

NDES には以下のパラメーターが必要です。

SCEP サーバー: これは、NDES サービスが稼働しているネットワークにある Windows Server の IP またはホスト名です。http のみが許可されます。例: `http://myserver` or `http://10.192.5.1`

SCEP ユーザー名: これは、NDES にアクセスし、チャレンジパスワードを要求するために必要な許可が与えられている、お使いの Active Directory のユーザーです。このためにユーザーは、CA 管理者グループに属す (スタンドアロン CA の場合) か、所定の証明書テンプレートで登録許可を得る必要があります。

SCEP パスワード: サービスで認証に使用している SCEP ユーザー名に対応するパスワードです。

共通名: 証明書とリンクさせたい ID。

画像 5-33 LAN 設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS、NDES

SCEP には以下のパラメーターが必要です。

SCEP サーバー: SCEP サービスを実行しているサーバーの IP またはホスト名に、ポートおよびサブフィックスを追加したもの。http のみが許可されます。E.g.: `http://myserver:8080/scep` または `http://10.192.5.1/test`

SCEP チャレンジ: 対応する SCEP チャレンジパスワード。

共通名: 証明書とリンクさせたい ID。

画像 5-34 LAN 設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS、SCEP

5.21 LAN 設定、EAP-TTLS セキュリティモード

EAP-TTLS について

EAP-TTLS (トンネル化トランスポート層セキュリティ) は、Juniper Networks 社による EAP 実装です。EAP-TLS と同程度強力な認証を提供しますが、それぞれのユーザーに対して証明書を発行する必要はありません。証明書の発行を受ける代わりに、認証サーバーが発行された証明書の役割を果たします。ユーザー認証はパスワードによって行われますが、そのパスワード資格情報は、サーバー証明書に基づいて確立された安全に暗号化されたトンネル内で送信されます。

ユーザー認証は、既に企業 LAN で使用されているのと同じセキュリティ データベースに対して行われます。たとえば、SQL または LDAP データベースやトークン システムなどです。EAP-TTLS は通常クライアント証明書なしで企業環境において実装されるため、クライアント証明書の使用はサポートされていません。ユーザーごとにクライアント証明書を使用する場合は、EAP-TLS を使用することを推奨します。

EAP-TTLS の設定方法

1. 認証モード EAP-TTLS を選択します。

The screenshot shows the 'ClickShare有線認証ウィザード' (ClickShare Wired Authentication Wizard) window. The '認証モード' (Authentication Mode) dropdown is set to 'EAP-TTLS'. Below it are input fields for 'ドメイン' (Domain), 'ID', and 'パスワード' (Password). At the bottom, there is a section for 'CA証明書のアップロード (オプション)' (CA Certificate Upload (Optional)) with a 'Bestand kiezen' (Select file) button and a message: 'Geen bestand gekozen' (No file selected). Below the message, it states: '許可されているファイル形式: .pem, .cer, .crt, .p7b (Base64エンコード DER). ファイルには、少なくともドメインのルートCA証明書が含まれている必要があります。' (Allowed file formats: .pem, .cer, .crt, .p7b (Base64 encoded DER). The file must contain at least the root CA certificate of the domain.)

画像 5-35 EAP-TTLS

2. ドメインと ID を入力します。

ドメイン 登録している企業ドメインは、Active Directory で定義されているものと一致している必要があります。

ID Active Directory のユーザアカウント IDで、企業ネットワークに接続する際に ClickShare Button が使用します。

3. パスワードを入力します。

LAN ネットワークで認証に使用している ID に呼応するパスワードです。Base Unit ごとに、それぞれの Button が同じ ID およびパスワードを使用して企業ネットワークに接続します。

4. オプションで、CA 証明書をアップロードします。

次の形式が許可されます。

- .pem
- .cer
- .crt
- .p7b (Base64 エンコード DER)

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。

5. **[Save configuration (構成の保存)]** をクリックします。

5.22 サービス、モバイル装置

ClickShare アプリ

この機能により、ClickShare アプリを使用しているモバイル装置と接続することで、Base Unit に接続できます。

デフォルトで有効化されています。Base Unit が企業ネットワークに統合されている場合は、ClickShare アプリのコンテンツ共有を無効化する必要があるかもしれません。

Airplay を介したストリーミング情報について

情報をストリーミングして ClickShare に表示するには、その前にお使いの装置を Base Unit のワイヤレスネットワークに接続する必要があります。その後、お使いの装置で AirPlay をアクティブ化します。AirPlay をアクティブ化する方法の詳細については、お使いの装置のユーザーガイドを参照してください。

AirPlay のサポートされるバージョンは Barco の Web サイト www.barco.com/clickshare で入手できます。これらのプロトコルの非リリース版のサポートは、Barco により保証できません。

Google Cast を介したストリーミングについて

情報をミラーリングして ClickShare に表示するには、その前にお使いの装置を Base Unit のワイヤレスネットワークに接続する必要があります。デバイスで Google Cast をアクティブ化すると、アクセスポイントの概要が与えられます。Google Cast の使用についての詳細は、デバイスのユーザーガイドを参照してください。

Google Cast のサポートバージョンは Barco の Web サイト www.barco.com/clickshare で入手できます。これらのプロトコルの非リリース版のサポートは、Barco により保証できません。

Google Cast は、パスコードに対応していません。



Google Cast は、Base Unit の時計が正しく設定されている場合のみ使用可能です。正しく設定されていない場合、Google Cast は Base Unit と接続できません。

Miracast™ 経由でのストリーミングについて

Miracast™ により、Miracast® デバイス間のマルチメディアコンテンツのシームレスな表示が可能になります。Miracast を使用すると、Wi-Fi ネットワークが利用できない場合でも、Wi-Fi デバイス間で高解像度の写真や高解像度 (HD) ビデオコンテンツを含むマルチメディアをワイヤレスで共有できます。

Miracast は、情報をストリーミングして表示するために独自のネットワークを ClickShare 経由で設定するため、Base Unit と直接接続する必要はありません。お使いの装置で Miracast を有効化します。Miracast をアクティブ化する方法の詳細については、お使いの装置のユーザーガイドを参照してください。

Miracast のサポートされるバージョンは Barco の Web サイト www.barco.com/clickshare で入手できます。これらのプロトコルの非リリース版のサポートは、Barco により保証できません。

表示方法

1. [コンフィギュレーター] にログインします。
2. WiFi とネットワーク → サービス をクリックします。



画像 5-36 サービス、モバイル装置

3. ClickShare アプリ経由でコンテンツを共有できるようにするために、**ClickShare** アプリ経由で共有 がデフォルトで有効になっており、変更できません。

AirPlay を使用したストリーミングを許可するには、**[AirPlay を使用してストリーミング]** の前にあるチェックボックスをオンにします。

Google Cast を使用したストリーミングを許可するには、**[Google Cast を使用してストリーミング]** の前にあるチェックボックスをオンにします。

Miracast 経由でのストリーミングを許可するには、**[Miracast 経由でのストリーミング]** の前にあるチェックボックスにチェックを入れます。

注: ファームウェアバージョン 2.12 以降は、ファクトリー リセット後、AirPlay、Google Cast および Miracast が非アクティブ化されます。

パスコードのタイプ選択

1. [コンフィギュレーター] にログインします。
2. WiFi とネットワーク → サービス をクリックします。
3. ドロップダウンボックスをクリックし、希望のパスコードのタイプを選択します。
 - パスコードなし
 - 数値のパスコード

パスコードは、Google Cast を除くすべての BYOD 画面共有に適用されます。

5.23 サービス、PresentSense

PresentSense について

PresentSense 機能を使用すると、会議室に入った時に、簡単に Base Unit に接続できます。この機能が有効で、Base Unit デスクトップアプリがユーザーの PC にインストールされている場合、会議室に入ると、ClickShare は、デバイス ID と PIN コードが含まれる超音波を介して、ユーザーの在室を検出し、ユーザーが自分の PC のポップアップで**接続**をクリックした後に、含まれている PIN コードとの**接続が確立**されます。

会議室に入室またはそこから退室すると、アプリは、自動的に接続および切断されます。会議室の選択や PIN コードの入力は必要ありません。会議室の中の人だけが、自分の行動を見たり聞いたりできます。

有効にする方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. WiFi とネットワーク → サービス をクリックします。



画像 5-37 PresentSense

3. PresentSense ペインで、ClickShare超音波による在室検出の横にあるチェックボックスをオンにします。

チェックあり：PresentSense 検出が有効になりました。

チェックなし：PresentSense 検出が有効になっていません。

4. 信号の強さの横にあるドロップダウン ボックスをクリックして、信号の強さを選択します。

以下のオプションが利用できます：

- 低
- 中
- 高

5.24 サービス、ClickShare API、API を使用したりリモートコントロール

API 設定について

API は有効化または無効化できます。つまり、外部装置からユニットにアクセスしたり、そのアクセスをブロックしたりすることが可能です。

この機能は、デフォルトで有効化されています。

API ドキュメント

API ドキュメントは、Base Unit に含まれています。API ドキュメントの表示をクリックするだけで、ドキュメントにアクセスできます。Base Unit に保存されているドキュメントにアクセスするには、ユーザ名とパスワードを入力します。



デフォルトのユーザ名とパスワードは、コンフィギュレーター (admin/admin) と同じです。これは、セキュリティー → パスワードで変更できます。

ClickShare API

API経由でのリモートコントロール

API ドキュメントの表示

画像 5-38 ClickShare API とドキュメント

API を使用したりリモートコントロールを有効にする方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. WiFi とネットワーク → サービス をクリックします。
3. この機能を有効化するには、[Remote control via API (API を使用してリモート コントロールする)] の前にあるチェックボックスをオンにします。

このチェックボックスは、通常、デフォルトでオンになっています。

チェックボックスをオンにする: API を使用したりリモート コントロールが可能になります。パスワードを使ってアクセスを保護できます。

チェックボックスをオフにする: API を使用したりリモート コントロールは利用できません。

API ドキュメントについて

サードパーティによる統合用の完全な API ドキュメントは、Base Unit に保存され、ユーザ名とパスワードで保護されます。

API ドキュメントの表示方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. API ドキュメントの表示をクリックします。
3. ユーザ名およびパスワードを入力して [OK] をクリックします。
ドキュメントはクリック可能な HTML ページとして表示されます。

5.25 サービス、SNMP

SNMP について

Simple Network Management Protocol (SNMP) は、IP ネットワーク上の管理対象デバイスに関する情報を収集および整理し、その情報を変更してデバイスの動作を変更するためのインターネット標準プロトコルです。一般的に、SNMP 管理スイート (サーバー上で実行) は、SNMP エージェント (デバイス上で実行) と通信を行います。SNMP エージェントは、MIB (Management Information Base) に基づいて変数の形式でデバイス情報を収集して公開します。SNMP 管理スイートは、SNMP プロトコルを介して ClickShare デバイスにアクセスし、デバイス情報を要求できます。

SNMPv3 がサポートされています。

表示方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. WiFi とネットワーク → サービス をクリックします。
3. SNMP までスクロールします。

画像 5-39 サービス、SNMP

4. [有効にする] の前にあるチェックボックスにチェックを入れます。
構成フィールドが使用可能になります。

設定方法

1. デフォルトのエンジン ID を使用する場合は、デフォルトのエンジン ID を使用 の前にあるチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。

デフォルトのエンジン ID は、Barco Enterprise Number と MAC アドレス (eth0) を組み合わせたものです。

2. SNMP マネージャーのアドレスを入力します。

これは、TRAP イベント / メッセージを受信するホストアドレスです。

可能なトラップは次のとおりです。

- CPU 温度がしきい値を超えたことを示すアラーム CPU 温度トラップ。
- ケースファンの回転が遅すぎることを示す Alarm Case Fan Speed トラップ。
- 監視対象プロセスの1つが実行されていないことを示す Alarm Process Not Running トラップ。

3. ユーザー名を入力します。
4. 新しいパスワードを入力し、そのパスワードを確認します。

5.26 セキュリティ、セキュリティ レベル

セキュリティ レベルについて

ClickShare システムの使用においては、セキュリティ レベルを設定できます。デフォルトで、レベル 1 がアクティブ化されています。セキュリティ レベルは事前定義された設定であり、レベルを選択すると自動的に設定されます。

レベル 1: あらゆる組織での一般的かつ日常的な操作をサポートします。

レベル 1 には、以下に示す標準セキュリティ オプションと音声およびビデオ データの暗号化が含まれています。

標準セキュリティ オプション:

- PIN コードによるアクティブ化 (モバイルアプリおよび Button)、
- ログイン管理を伴う HTTPS を介した ClickShare 構成 (WebUI) アクセス、
- ワイヤレス ClickShare コンフィギュレーター (WebUI) アクセスおよび API 経由のリモートコントロールなし、
- Wi-Fi ネットワークの SSID は非表示。

レベル 2: このレベルでは、より高度なセキュリティが提供されます。セキュリティの問題により敏感な組織に適しています。

レベル 2 では、レベル 1 のセキュリティに加え、モバイル装置の PIN コードが必須です。英数字 PIN コード (モバイルアプリおよび Button) およびペアリングの証明書 (Button)

レベル 3: このレベルは、セキュリティに関して極度に厳しい要件を有する組織で使用されます。

レベル 3 には、レベル 2 のセキュリティに加え、モバイルアプリのブロックが含まれます。また、ファームウェアのダウングレードは不可能で、構成 (WebUI) へのワイヤレス アクセスはできません。

セキュリティ レベルを設定しても、構成で個々のアイテムを使うと、そのセキュリティ レベルに含まれる個々のアイテムを変更できます。個々のアイテムを変更すると、それに従ってセキュリティ レベル表示が調整されますが、その他の設定が自動的に変更されることはありません。

たとえば、レベル 3 を設定してモバイルアプリのブロックを有効に変更すると、セキュリティ レベル表示がレベル 2 に変化します。ただし、最初からレベル 3 に含まれるその他のアイテムは、すべてレベル 3 のままです。



個々の変更をリセットするには、目的のセキュリティー レベルを選択して **[Save changes (変更の保存)]** をクリックします。



セキュリティ レベルを変更すると、Button を再度ペアリングすることが必要となります。セキュリティ レベルを 1 からより高いレベルへと変更すると、証明書付き Button (R9861006D01) の互換性設定を変更します。セキュリティ レベルが 1 よりも高いと、再ペア化ができません。

セキュリティ レベルの設定方法

1. コンフィギュレーターにログインします。
2. **[Security (セキュリティ)]** → **[Security Level (セキュリティ レベル)]** をクリックします。



画像 5-40 セキュリティレベル

3. 目的のセキュリティレベルアイコンを選択します。
4. [Save changes (変更の保存)] をクリックして設定を適用します。

5.27 セキュリティ、パスワード

パスワードについて

ClickShare 構成にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要です。パスワードはいつでも変更できます。これにより、[ClickShare Configuration (ClickShare 構成)] 設定が保護されます。

ClickShare コンフィグレータとパスワードの変更

1. コンフィグレータにログインします。
2. [Security (セキュリティ)] → [Passwords (パスワード)] をクリックします。



画像 5-41 パスワード

3. [Password (パスワード)] ペインの [Old password (古いパスワード)] の横にある入力フィールドをクリックし、古いパスワードを入力します。
4. [New password (新しいパスワード)] の横にある入力フィールドをクリックし、新しいパスワードを入力します。
5. [Confirm password (パスワードの確認)] の横にある入力フィールドをクリックし、新しいパスワードを再度入力します。
6. [Save changes (変更の保存)] をクリックして設定を適用します。

5.28 セキュリティ、HTTP 暗号化

HTTP 暗号化について

HTTP 暗号化は、自己署名証明書またはカスタム証明書を使用して設定できます。デフォルトでは、自己署名証明書が使用されます。

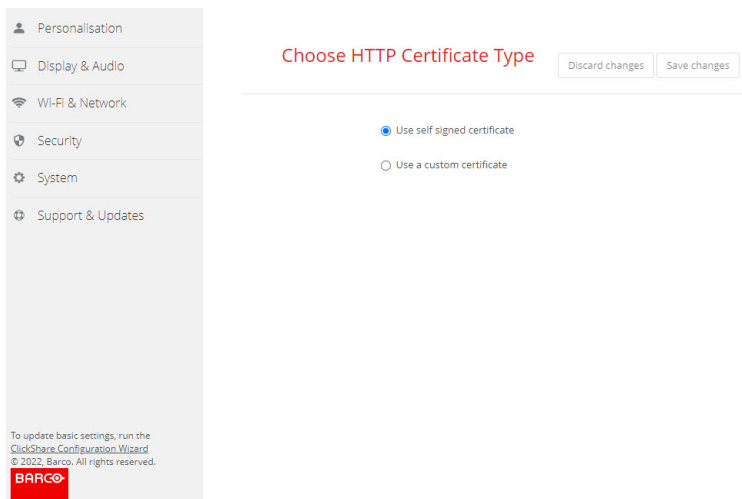
設定方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Security (セキュリティ)] → [Passwords (パスワード)] をクリックします。



画像 5-42 HTTP 暗号化

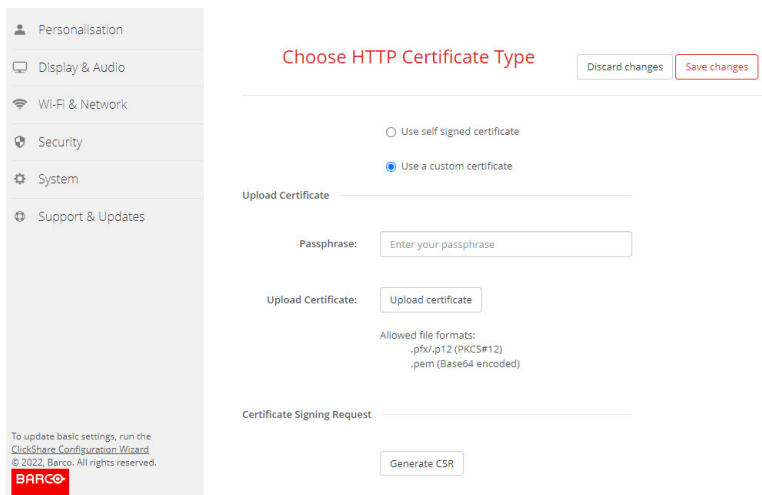
3. [HTTP 暗号化...] をクリックします。
4. 証明書を選択します。
以下のオプションが利用できます:
 - 自己署名証明書を使用します。
 - カスタム証明書を使用します。



画像 5-43 HTTP 暗号化

カスタム証明書のアップロード

1. パスフレーズを入力します。



画像 5-44 カスタム証明書のアップロード

2. **[証明書の上ロード]** をクリックします。
参照のためのウィンドウが開きます。
3. 目的のカスタム証明書ファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。
許可されているファイル形式は次のとおりです。
 - .pfx/.p12 (PKCS#12)
 - .pem (Base64 エンコード)
4. **[CSR を生成]** をクリックします。
[証明書署名要求のダウンロード] ページが開きます。
5. ページに入力し、**[ダウンロード]** をクリックします。
CRS ファイルが作成され、コンピューターにダウンロードされます。

5.29 Base Unit のステータス情報

ステータス情報

以下の情報を確認できます:

- モデル情報、モデル名、および部品番号
- 製造番号
- ファームウェアのバージョン
- 使用開始日時
- 最後の使用日時
- 現在の稼働時間: 最後のスタートアップからの時間
- 合計稼働時間: 最初のスタートアップからの使用時間
- 全般的なステータス

Base Unit の再起動

1. コンフィギュレータにログインします。
2. サポート → **Base Unit** のステータスをクリックします。

Base Unitのステータス

モデル:	
製品:	
製造番号:	
ファームウェアのバージョン:	02.05.91.0002
使用開始日時:	2019-09-27T02:48:08
今回の稼働時間:	4日, 16時間, 19分, 15秒
使用開始から現在までの稼働時間:	3月, 4日, 10時間, 7分, 52秒
全体的なステータス:	すべてのプロセスは実行中です

Base Unitの再起動

画像 5-45

3. Base Unit を再起動するには、**Base Unit の再起動**をクリックします。
再起動中は、ClickShare システムの再起動メッセージが進行状況バーと共に表示されます。
再起動後は、再度ログインする必要があります。

5.30 日時の設定、手動

[Date & Time (日時)] 設定について

日時は、タイムゾーン表示または1台以上のNTPサーバーを使って手動で設定できます。

設定方法

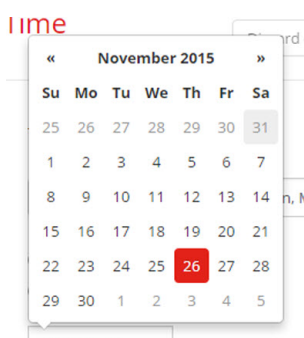
1. コンフィギュレータにログインします。
2. [System (システム)] → [Date & Time (日時)] をクリックします。



画像 5-46 手動による日時のアップデート

現在の時間が [Currenttime (現在の時間)] の横に表示されます。

3. タイムゾーンを選択します。[Time zone (タイムゾーン)] の横にあるドロップダウンボックスをクリックし、該当するタイムゾーンを選択します。
4. [Set time and date manually (手動で日時を設定する)] の前にあるラジオ ボタンをオンにします。
5. 日付を変更する場合は、[Date (日付)] の横にある入力フィールドをクリックします。カレンダー ウィンドウが開きます。現在の日付が赤色の背景付きで表示されます。



画像 5-47 日付の選択

6. 月を変更するには、月の横にある左向きまたは右向きの矢印を目的の年および月が表示されるまでクリックします。

日を設定するには、数字フィールドの数字をクリックします。

7. 時間を変更する場合は、[Time (時間)] の横にある入力フィールドをクリックします。3つのスクロール カウンターが表示されたウィンドウが開きます。



画像 5-48 時間設定

8. 各スクロール カウンターの上下矢印を正しい時、分、および秒が表示されるまでクリックします。
9. 時刻形式を選択します。
チェック済み: 24 時間形式の使用
チェックなし: 12 時間形式を使用
10. [Save changes (変更の保存)] をクリックして設定を適用します。

5.31 日時の設定、タイム サーバー

NTP サーバーの使用について

クロックは外部タイム サーバーと継続的に同期化され、ずれはミリ秒単位です。その他のタイム サーバーを追加できます。

タイム サーバーとの同期を行わない限り、ステータスは無効と表示されます。

設定方法


1. コンフィギュレータにログインします。
2. [System (システム)] → [Date & Time (日時)] をクリックします。



画像 5-49 タイム サーバーの設定

現在の時間が [Currenttime (現在の時間)] の横に表示されます。

3. [Use NTP (NTP を使用する)] の横にあるラジオ ボタンをオンにします。
4. [NTP servers (NTP サーバー)] の横に NTP サーバーのアドレスを入力します。IP アドレスまたはサーバー名を入力します。

 注: 複数のサーバー (最大 5 台) を追加できます。追加する場合は、それぞれをカンマで区切りません。

5. 時刻形式を選択します。

チェック済み: 24 時間形式の使用

チェックなし: 12 時間形式を使用

6. [Save changes (変更の保存)] をクリックして設定を適用します。

NTP サーバーとの同期が実行されます。ステータス フィールドに進行状況が表示されます。

5.32 省電力設定

スタンバイについて

スタンバイ開始 (分後): スタンバイ タイムアウト中にクライアントの接続が検出されない場合、Base Unit は、選択したスタンバイ モードになります。

デフォルト設定: 10 分、Base Unit がスタンバイ モードになります。

ECO モード

Base Unit がスタンバイモードになると、HDMI 出力信号が無効化されます。Base Unit の LED は白色で点滅し、スタンバイ モードになっていることを示します。

Base Unit は次のいずれかのアクションでアウトプットを起動します。

- Button に接続している Base Unit またはアプリケーション
- Base Unit のスタンバイボタンを押します。
- Base Unit の USB ポートで Button をペアリング
- HDMI ディスプレイに差し込む
- HDMI ソースに差し込む
- カメラがストリーミングを開始したとき

スタンバイ モード

Base Unit がディープスタンバイモードになると、WiFi アクセスポイントを含むすべてのプロセスをシャットダウンします。

Base Unit は、Base Unit に接続されているアクティブなネットワークがある場合はいつでも、ネットワークスタンバイに移行します。

この場合、Base Unit の LED は白く点滅します。

ネットワークスタンバイの電力消費: 3.7 W

ネットワークが検出されないと、ディープスタンバイ状態になり、Base Unit の LED は暗くなります。

ディープスタンバイの電力消費: 0.27 W

Base Unit をディープスタンバイから復帰させるには、スタンバイボタンを押す必要があります。



画像 5-50

ディスプレイのタイムアウトの変更方法

1. [コンフィギュレーター] にログインします。
2. システム → 省電力設定 をクリックします。
3. ディスプレイ タイムアウトを設定するには、目的のスタンバイ タイムアウトになるまで、スライダーを左右に移動します。

5.33 Button

Button について

Button ページには、どの Base Unit またはネットワークに Button が接続されているかが示されます。また、現在の状態も表示されます。

ネットワークに接続すると、ドメイン、ID、および提供された証明書が示されます。

Button は、Base Unit または外部アクセスポイントに接続できます。

Base Unit で使用されるすべての Button は、次の Button のリストに記載されています：

- 製造番号
 - MACアドレス
 - アーティクルコード
 - ファームウェアのバージョン
- Wi-Fi 経由で Button のソフトウェアを更新できます。
- モデル情報
 - 接続数
 - 前回の接続

設定を編集するには

1. コンフィギュレータにログインします。
2. システム → Buttons をクリックします。


The screenshot shows the 'Button' configuration page. On the left is a sidebar with navigation options: カスタマイズ, ディスプレイと音声, Wi-Fiとネットワーク, セキュリティ, システム (selected), Base Unitのステータス, 日付と時刻, 省電力, Button (selected), ブラックボード, XMS, サポート&アップデート. The main area is titled 'Button' and has a '編集の設定' button. Below the title is a section 'Buttonの接続先:' followed by a table. The table has buttons for 'すべて選択' and '選択しない', and a '削除' button. The table columns are: 選択, 製造番号, MACアドレス, アーティクルコード, ファームウェア, モデル情報, 接続, 前回の接続. Two rows of data are shown:

選択	製造番号	MACアドレス	アーティクルコード	ファームウェア	モデル情報	接続	前回の接続
<input type="checkbox"/>	1200463655	EC:5C:84:04:D4:21	R9861600D01C	04.18.00.0001	GEN4.1	6	2023-09-19T08:04:58
<input type="checkbox"/>	1860086321	08:3A:88:1F:19:6E	R9861600D01C	04.18.00.0001	GEN4.0	13	2023-09-19T08:04:43

画像 5-51 Button の概要

現在接続されている Button のリストとそれぞれの詳細が表示されます。

3. **設定の編集** をクリックします。
4. Button を外部アクセスポイントまたは ClickShare デバイスのどちらに接続するかを選択します。

 **注:** 外部アクセスポイントでは、追加の設定が必要となります！

5.34 Button、外部アクセスポイント、モード EAP-TLS

入力方法

- 社内 SSID を入力します。

The screenshot shows the configuration interface for a Button device. At the top, there is a gear icon and the word "Button". To the right are "キャンセル" (Cancel) and "変更を保存" (Save Changes) buttons. The main configuration area is titled "Buttonの接続先:" and has a dropdown menu set to "外部アクセスポイント". Below this is a section for "外部アクセスポイントの設定" (External Access Point Settings). It includes a "認証モード:" dropdown set to "EAP-TLS", a "社内SSID:" text field containing "Home Sweet Home", and empty text fields for "ドメイン:" and "ID:". There are two "証明書を提供する:" dropdown menus, both set to "手動でクライアント証明書とCA証明書を提供しま". Below these are two "アップロード:" sections. The first is for "クライアント証明書のアップロード:" and the second is for "CA証明書のアップロード:". Both have a "Bestand kiezen" button and a message: "Geen bestand gekozen. 許可されているファイル形式: .pfx (PKCS#12), .p12 (Base64エンコード DER). ファイルには少なくともクライアント証明書と対応するプライベートキーが含まれている必要があります。"

画像 5-52 Button、外部アクセスポイント、モード EAP-TLS

ClickShare Button が接続されることになる貴社ワイヤレス インフラストラクチャの SSID。

- ドメインと ID を入力します。
- 証明方法を選択します。ドロップダウンボックスをクリックし、希望の方法を選択します。
 - クライアントおよび CA 証明書を手動で提供する
 - SCEP 経由で自動登録

証明書を手動で提供

- クライアント証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。

許可されているファイル形式:

- .pfx (PKCS#12)
- .p12 (Base64 エンコード DER)

少なくともクライアント証明書と対応する秘密鍵を含める必要があります。

- クライアント証明書のパスワードを入力します。
- CA 証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。次の形式が許可されます。

- .pem
- .cer
- .crt

- .pb7 (Base64 エンコード DER)

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。

4. 変更内容の保存

自動登録の使用

簡易証明書登録プロトコル (SCEP) は、拡張可能な方法で証明書を発行および無効にすることができるプロトコルです。SCEP サポートにより、ClickShare Base Unit および Button の企業ネットワークへの統合がより迅速でスムーズになります。

Base Unit ファームウェアバージョン 02.11.01 まで、SCEP の実装は特に Windows Server の一部である Network Device enrollment Service (NDES) をターゲットとしていました。Base Unit ファームウェアバージョン 02.12.00 以降は、NDES と標準 SCEP の両方をサポートしています。

NDES には以下のパラメーターが必要です。

SCEP サーバー: これは、NDES サービスが稼働しているネットワークにある Windows Server の IP またはホスト名です。http のみが許可されます。例: http://myserver or http://10.192.5.1

SCEP ユーザー名: これは、NDES にアクセスし、チャレンジパスワードを要求するために必要な許可が与えられている、お使いの Active Directory のユーザーです。このためにユーザーは、CA 管理者グループに属す (スタンドアロン CA の場合) か、所定の証明書テンプレートで登録許可を得る必要があります。

SCEP パスワード: サービスで認証に使用している SCEP ユーザー名に対応するパスワードです。

共通名: 証明書とリンクさせたい ID。

画像 5-53 ボタン設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS、NDES

SCEP には以下のパラメーターが必要です。

SCEP サーバー: SCEP サービスを実行しているサーバーの IP またはホスト名に、ポートおよびサフィックスを追加したもの。http のみが許可されます。E.g.: http://myserver:8080/scep または http://10.192.5.1/test

SCEP チャレンジ: 対応する SCEP チャレンジパスワード。

共通名: 証明書とリンクさせたい ID。

画像 5-54 ボタン設定、ワイヤレスクライアント、EAP-TLS、SCEP

5.35 Button、外部アクセスポイント、モード EAP-TTLS

設定の入力方法

1. 社内 SSID を入力します。

The screenshot shows the configuration page for a ClickShare Button. At the top, there is a gear icon and the word "Button". To the right are two buttons: "キャンセル" (Cancel) and "変更を保存" (Save changes). Below this is a dropdown menu for "Buttonの接続先:" (Button connection destination) with "外部アクセスポイント" (External access point) selected. A section titled "外部アクセスポイントの設定" (External access point settings) contains several input fields: "認証モード:" (Authentication mode) with "EAP-TTLS" selected, "社内SSID:" (Intranet SSID) with "Home Sweet Home" entered, "ドメイン:" (Domain), "ID:", and "パスワード:" (Password). At the bottom, there is a section for "CA証明書のアップロード (オプション):" (CA certificate upload (optional)) with a "Bestand kiezen" (Select file) button and a message: "Geen bestand gekozen" (No file selected). Below this, it lists supported file formats: ".pem, .cer, .crt, .p7b (Base64エンコード DER)". A note states: "ファイルには、少なくともドメインのルートCA証明書が含まれている必要があります。" (The file must contain at least the root CA certificate of the domain).

画像 5-55 Button、外部アクセスポイント、モード EAP-TTLS

ClickShare Button が接続されることになる貴社ワイヤレス インフラストラクチャの SSID。

2. ドメインと ID を入力します。
3. パスワードを入力します。
4. CA 証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。次の形式が許可されます。
 - .pem
 - .cer
 - .crt
 - .p7b (Base64 エンコード DER)

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。
5. [変更内容の保存 (Save changes)] をクリックして、設定を保存します。

5.36 Button、外部アクセスポイント、モード PEAP

設定の入力方法

- 社内 SSID を入力します。

Button

キャンセル 変更を保存

Buttonの接続先: 外部アクセスポイント

外部アクセスポイントの設定

認証モード: PEAP

社内SSID: Home Sweet Home

ドメイン:

ID:

パスワード:

CA証明書のアップロード (オプション): Bestand kiezen Geen bestand gekozen
許可されているファイル形式: .pem, .cer, .crt, .p7b (Base64エンコードDER)
ファイルには、少なくともドメインのルートCA証明書が含まれている必要があります。

画像 5-56 Button、外部アクセスポイント、モード PEAP

ClickShare Button が接続されることになる貴社ワイヤレス インフラストラクチャの SSID。

- ドメインと ID を入力します。
- パスワードを入力します。
- CA 証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。次の形式が許可されます。

- .pem
- .cer
- .crt
- .pb7 (Base64 エンコード DER)

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。

- [変更内容の保存 (Save changes)] をクリックして、設定を保存します。

5.37 Button、外部アクセスポイント、モード WPA2-PSK

設定の入力方法

1. 社内 SSID を入力します。



The screenshot shows the configuration interface for a Button. At the top left is a gear icon and the word 'Button'. To the right are two buttons: 'キャンセル' and '変更を保存'. Below this is a section titled 'Buttonの接続先:' with a dropdown menu currently showing '外部アクセスポイント'. Underneath is a section titled '外部アクセスポイントの設定'. This section contains three input fields: '認証モード:' with a dropdown menu showing 'WPA2-PSK', '社内SSID:' with a text input field containing 'Home Sweet Home', and 'パスフレーズ:' with an empty text input field.

画像 5-57 Button、外部アクセスポイント、モード WPA2-PSK

ClickShare Button が接続されることになる貴社ワイヤレス インフラストラクチャの SSID。

2. パスフレーズを入力します。

WPA2-PSK で使用されるキーにより、ワイヤレス インフラストラクチャへの認証が行われます。これは、64 桁の 16 進数か、8~63 字の印刷可能な ASCII 文字のいずれかです。

3. [変更の保存 (Save changes)] をクリックして設定を保存します。

5.38 黒板

ブラックボードについて

ブラックボードからの情報の保存は、有効または無効にすることができます。有効にすると、情報は、接続されているすべての Button のハードディスク、接続された ClickShare アプリと Base Unit に接続された USB スティックに保存されます。

ブラックボード設定の変更方法

1. [コンフィギュレーター] にログインします。
2. システム → ブラックボード をクリックします。



画像 5-58 注釈の保存

3. ブラックボードを有効化または無効化するには、無効化または有効化の前にあるチェックボックスのチェックをオンまたはオフにします。
 チェックを入れる: ブラックボードは有効になります
 チェックを外す: ブラックボードは無効になります。
4. 接続されたクライアントや USB スティックへの注釈の保存を有効にするの前にあるチェックボックスにチェックを入れるかチェックを外します。
 チェックを入れる: ブラックボードの注釈を保存できます。
 チェックを外す: ブラックボードへの注釈は保存できません。

5.39 XMSクラウド統合

概要

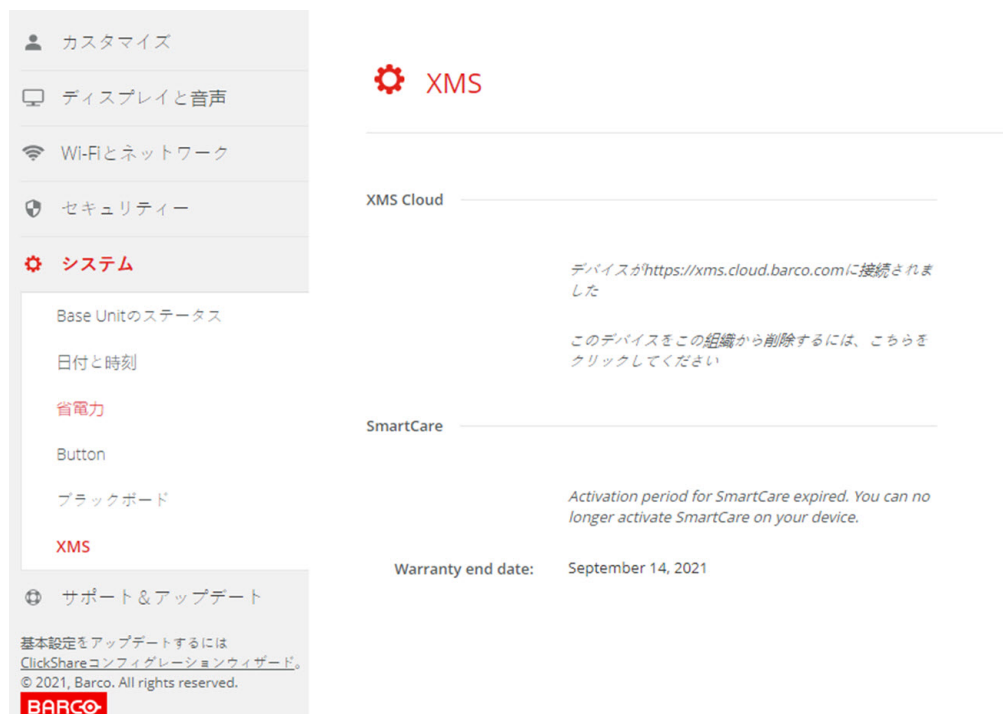
デバイスが登録されておらず、クラウドサービスに接続されていない場合は、次のメッセージが表示されます：デバイスが XMS クラウドに追加されていません。XMS Cloud にデバイスを追加するには、こちらの <https://xms.barco.com/add> をクリックしてください。

デバイス トークンが指定され、コピーできます。



画像 5-59 XMS Cloud、登録なし

デバイスが正しく登録されると、次のメッセージが表示されます：ClickShare デバイスが正常に登録されました。



画像 5-60 XMS Cloud

可能な操作

1. ネットワーク設定を確認するか、XMS Cloud にデバイスを登録してください。

60 ページ、[XMS Cloud 登録](#)の説明に従って手順を実行します。

SmartCare

SmartCare パッケージは、各 ClickShare ユニットの購入に含まれています。

当社の ClickShare ユニットで問題が発生したまれなケースに備えて、最大 5 年間、Barco とパートナーの両方から、予算の予測可能性、迅速なハードウェア交換、専門家によるサポートを提供するサービス パッケージ SmartCare を開始しました。

SmartCare が有効になると、SmartCare ペインで、メッセージ *SmartCare*有効 (有効期限...) が表示されます。

まだ有効でない場合は、最初の設定から 6 か月以内に SmartCare を有効化して、5年間のハードウェアカバレッジをお楽しみください。

有効化期間が終了すると、保証終了日が表示されます。

5.40 ファームウェア更新

ファームウェア更新について

Base Unit のファームウェアは、Web インターフェイスを使って更新できます。ファームウェアの最新バージョンは Barco の Web サイトで入手できます。



画像 5-61 ファームウェア更新

自動ファームウェア更新について

自動更新の設定には 3 つの方法があります:

- **自動:** システムは自動的にファームウェアの更新を検出し、使用されていないときにインストールします。
- **通知:** システムはファームウェアの更新を自動的に検出し、Web インターフェイスのダッシュボードおよびファームウェアページで通知します。更新は、サポート & アップデート > ファームウェア ページで開始します。
- **オフ:** システムはファームウェアの更新を検出せず、通知もしません。

手動ファームウェア更新

1. ファームウェアの最新バージョンを Barco の Web サイトからダウンロードします。
2. コンフィギュレータにログインします。
3. [サポートと更新 (Support & Updates)] → [ファームウェア (Firmware)] をクリックします。
4. ファームウェアのバージョンをアップロードするには、[ファームウェアのアップロード... (Upload firmware...)] をクリックします。
参照のためのウィンドウが開きます。
5. 新しいファームウェアが格納されたファイルを参照し、[開く (Open)] をクリックするとアップロードが開始します。



注: このファイルは .enc ファイルです。Barco の Web サイトからダウンロードしたファイルを解凍しなければならない場合もあります。



注: Base Unit ソフトウェアを更新するには、数分かかります。処理状況は会議室のディスプレイに表示されます。

Base Unit ソフトウェアが更新されます。



Base Unit でファームウェアのダウンロードが必要な場合、ファームウェアのダウングレードを許可するの**前**にあるチェックボックスをオンにします。

コンフィギュレータを使用せずにファームウェアを更新

コンフィギュレータを使用してファームウェアをアップグレードするには、次の方法もあります。

- デバイスがネットワークに接続され、XMS (クラウド) 管理プラットフォームを介して管理されている場合、この管理ソリューションを介してファームウェアをアップグレードできます。この方法によるファームウェアのアップグレードの詳細については、XMS に関する Barco のウェブページ (<https://www.barco.com/en/page/xms-cloud-management-platform>) を参照してください。
- USB スティックにファームウェアをダウンロードし、この USB をデバイスに接続します。詳しくは、[154 ページ](#)、[CX-50 Gen2 ファームウェアの更新](#) を参照してください。

5.41 サポートとアップデート、トラブルシューティング、ログ設定

ログ作成について

Button および Base Unit のログデータは、Base Unit のログファイルに保存されます。これらのログファイルには、デバッグ情報が含まれていることがあります。また、ローカルコンピュータにダウンロードして、Base Unit でクリアできます。デバッグのログが網羅するのは、上書きされるまでの数時間です。そのため、作成されたログは、すぐにダウンロードしてシステムの問題を発見することが重要です。

使用方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Support & Updates (サポートとアップデート)] → [Troubleshoot (トラブルシューティング)] をクリックします。



画像 5-62 トラブルシューティング、ログ作成

3. デバッグのログを作成するには、[Enable debug logging (デバッグのログ作成を有効にする)] の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. 報告する問題を再現します。
5. 現在のログファイルをダウンロードするには、[Download logs (ログのダウンロード)] をクリックします。
6. 現在のログファイルをクリアするには、[Clear logs (ログの消去)] をクリックします。

5.42 トラブルシューティング、すべての設定を消去

すべての設定の消去について

すべての設定を消去すると、デバイス設定はデフォルトに戻ります。オンボーディング手順を実行する必要はありません。



XMS クラウドの組織アカウントからデバイスが削除されることはありません。

消去方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Support & Updates (サポートとアップデート)] → [Troubleshoot (トラブルシューティング)] をクリックします。
3. すべての設定を消去してデフォルトに戻すには、**すべての設定を消去**をクリックします。



画像 5-63 トラブルシューティング、ログ作成

5.43 工場出荷時の設定にリセット

リセットについて

リセットを工場出荷時のデフォルトに適用すると、デバイス設定は工場出荷時のデフォルトに戻ります。さらに、Base Unit は、XMS クラウドの組織アカウントから削除され、デバイスが出荷された場合と同様に、初回のセットアップ手順が開始されます。



初回のセットアップを完了するには、ユニットをインターネットに接続する必要があります。

リセット方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Support & Updates (サポートとアップデート)] → [Troubleshoot (トラブルシューティング)] をクリックします。



画像 5-64 工場出荷時の設定に戻す

3. [Reset to factory defaults (工場出荷時のデフォルトにリセット)] をクリックします。
以下のメッセージが表示されます: このアクションにより、Base Unit のすべての設定が削除され、デフォルトの設定が復元されます。操作を実行してもよろしいですか?]
4. 操作を実行するには [Yes, remove all settings (はい、すべての設定を削除します)] をクリックします。実行しない場合は [No, I changed my mind (いいえ、操作を実行しないでください)] をクリックします。[はい] をクリックすると、システムの再起動が開始されます。

5.44 トラブルシューティング、診断

診断について

TCP Dump テストでは、ネットワーク データが 2 分間キャプチャされ、結果がログ アーカイブ内の別のファイルに書き込まれます。このファイルは、ネットワーク監視ツールでのみ開くことができます。

開始方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Support & Updates (サポートとアップデート)] → [Troubleshoot (トラブルシューティング)] をクリックします。
3. 診断ペインで、**TCP Dump テストを実行**をクリックします。



画像 5-65 トラブルシューティング、診断

別のファイルがログ アーカイブに書き込まれます。

このテストの一部として収集されるのは TCP ヘッダー情報だけです。

ファームウェア更新

6

6.1	CX-50 Gen2 ファームウェアの更新.....	154
-----	----------------------------	-----

6.1 CX-50 Gen2 ファームウェアの更新



装置を初めて起動するときは、ソフトウェアの更新が必要です。この更新はネットワーク経由でのみ行うことができます。

ファームウェア更新について

Base Unit ソフトウェアを更新するには、様々な方法があります。

- ネットワークに接続されている場合、またはデバイスが XMS クラウドで構成されている場合の自動更新。
- 構成を使用する (詳しくは、次を参照してください: [147 ページ](#)、[ファームウェア更新](#) を参照)。
- ソフトウェアを USB スティックにコピーする

Base Unit ソフトウェアを USB スティックにコピーして更新するには

1. ファームウェアの最新バージョンを Barco の Web サイト www.barco.com/clickshare からダウンロードします。サポートをクリックし、お使いのデバイスタイプの更新ファームウェア Button を選択します。
2. zip ファイルを解凍します。
3. ENC ファイルを USB スティックにコピーします。
同じスティックで複数のデバイスタイプに対して複数のファームウェアを入れることができます。
4. USB スティックを Base Unit の前面にある USB ポートに挿入します。
5. 会議室のスクリーンに表示される指示に従ってください。
6. プロセスが終了したというメッセージがスクリーンに表示されたら、USB スティックを取り外します。
Base Unit が再起動します。

トラブルシューティング

7

7.1	トラブルシューティング一覧.....	156
-----	--------------------	-----

7.1 トラブルシューティング一覽

Barco ナレッジベースと YouTube 動画

Barco の Web サイトの製品ページに移動し、右側のサポートで選択します。Barco のナレッジベース (<https://www.barco.com/en/support/knowledge-base>) と最新のチュートリアル動画にアクセスできます。その他の YouTube 動画については、<https://www.youtube.com/user/barcoTV> にアクセスして ClickShare を選択してください。

問題解決

問題	原因	解決策
会議室のディスプレイに表示される画像の質がよくない	<p>Base Unit およびディスプレイ間のケーブルの品質または長さ、あるいはその接続</p> <p>ディスプレイの解像度が適切でない</p> <p>システムは平均的なラップトップの解像度 (3 メガピクセル) を処理できません。ただし、会議室のディスプレイで拡大または縮小が行われると、アーチファクトが発生する原因となる場合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルを交換してください。 別のケーブルを使用してください。 <p>Web インターフェイスで解像度を変更し、会議室のディスプレイのネイティブ解像度と一致させてください。</p>
ワイヤレス接続状態がよくない。Button から Base Unit への接続が頻繁に切断される。	<p>ワイヤレスの輻輳状態</p> <p>信号の届く距離が短い</p>	<ul style="list-style-type: none"> WiFi スキャナーを使って空きワイヤレスチャネルを探し、Web インターフェイスでそれを選択してください。この作業には、市販されているツールおよび inSSIDer や Xirrus などの無料オンラインツールを使用できます。「WiFi 設定」を参照してください。 Base Unit を会議室テーブルの近くに置いてください。 Button および Base Unit 間にある障害物をできるだけ取り除くか、制限してください。
Web インターフェイスにアクセスできない	<p>ブラウザ</p> <p>接続できない</p>	<ul style="list-style-type: none"> 別のブラウザ (バージョン) を使用してください。 ブラウザの設定を確認してください。 Web インターフェイスにアクセスするには 3 つの方法があります。説明書の該当する章を参照してください。 プロキシ設定を確認してください。
Button をラップトップに挿入しても ClickShare ドライブが認識されない。	<ul style="list-style-type: none"> ドライブが自動更新されていない Windows がすでに予約済みのドライブ文字に ClickShare ドライブを割り当てようとする <p>ラップトップの USB ポートの接続がよくない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ラップトップの表示を更新してください。 Microsoft Windows の「ディスクの管理」を使用して、空きドライブに割り当ててください。 USB ポートに再度接続してください。

問題

原因

解決策

	<ul style="list-style-type: none"> 一部の USB デバイスが、会社のポリシーによりブロックされている。 ラップトップの USB ポートの設定により、バッテリー使用時に使える USB デバイスがハイパワー USB デバイスに限定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 別の USB ポートを使ってください。 ラップトップを再起動してください。 <p>可能な場合は、ラップトップの USB ポートポリシーを変更してください。</p>
<p>ビデオパフォーマンスがよくない</p>	<p>ラップトップのパフォーマンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ラップトップの画面解像度を下げてください。 ビデオのハードウェアアクセラレーターを無効にしてください。 ビデオを表示する際、ディスプレイの一部のみを使用してください。 システムトレイの ClickShare アイコンを右クリックし、[キャプチャモード] をクリックして現在の設定を切り替えます。 <p>「ワイヤレス接続状態がよくない」を参照してください。</p>
<p>ビデオが画面に表示されない</p>	<p>プレイヤーがオーバーレイを使用している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ビデオプレイヤーの基本設定でオーバーレイの使用を無効にしてください。 ビデオは HDCP によって保護されており、ClickShare によりキャプチャできません。
<p>Windows の一部プログラムがディスプレイに表示されない</p>	<p>GPU におけるオーバーレイ、3D、またはハードウェアアクセラレーションの使用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> GPU でオーバーレイまたはハードウェアアクセラレーションを無効にしてください。 Windows 7 では Aero グラスを無効にしてください。 Base Unit ソフトウェアを最新バージョンにアップグレードしてください。
<p>Windows 7 を使用している場合、Windows Aero のカラースキームに関する次のメッセージが表示されます: 「コンピューターのパフォーマンスが遅くなっていることを Windows が検出しました。Windows Aero の画面の配色を実行する十分なリソースがないことが原因である可能性があります。パフォーマンスを上げるには...」</p>	<p>ClickShare は GPU からのリソースを使用します。Windows 7 では、他にも GPU からのリソースを使用する他のプログラムが実行されている場合、このメッセージが表示され、ラップトップのパフォーマンスを向上するために Aero を無効にするよう提案することがあります。</p>	<p>このメッセージを無視して [現在の画面の配色を使います] を選択しても問題ありません。</p>
<p>Button を押してもディスプレイに画面が表示されない</p>	<p>画面上の共有ビデオの数を超過しています。ルームドックを使用する場合、1人の参加者だけが画面を共有できます。</p>	<p>全画面表示機能を使用するには、Button をクリックして 2 秒間押し続けます。</p>

問題	原因	解決策
コンテンツがディスプレイから非表示になり、Button の LED が白色で点滅している	ClickShare ソフトウェアが稼働していない。 Base Unit への接続が失われています。	ClickShare ドライブに移動してソフトウェアを実行します。 ClickShare が自動的に接続の復元を試みます。復元できない場合、Button の LED が赤色で点滅し始めます。 ラップトップから Button を取り外し、新しい Button を使用してみてください。
ディスプレイにまったく何も表示されない。	ディスプレイの電源がオフになっている。 ディスプレイケーブルが適切に接続されていない。 ディスプレイが Base Unit の出力解像度を認識しないか、表示できない。 Base Unit が待機モードになっている	ディスプレイの電源をオンにします。 ディスプレイケーブルをディスプレイおよび Base Unit に挿入します。 Web インターフェイスを使用して該当する設定を変更します。 Base Unit の待機 Button を短く押すか、Button を挿入して ClickShare ソフトウェアを実行します。
WiFi 接続状態がよくない	ワイヤレスチャンネルが輻輳状態である 金属製キャビネット、壁、建築材などが、ワイヤレス信号の反射の原因となり、接続状態を悪化させることがあります。 Button および Base Unit 間に障害物があると、ワイヤレス信号の強度および質が低下する原因となります。	ワイヤレスネットワークスキャンツールを使って、空きチャンネルまたは最も輻輳状態でないチャンネルを探してください。 Base Unit を部屋の別の場所に移動してください。 キャビネットの中、吊天井、テーブルの下、壁の後ろ、別の部屋などには置かないでください。 WiFi に関する ClickShare ホワイトペーパーを www.barco.com/clickshare で参照してください。
Web インターフェイスに、「WiFi アクセスポイントデーモン」および/または「DHCP サーバー」プロセスでエラーが発生したと表示される	構成ファイルが破損している	Web インターフェイスの [構成] タブに移動し、[デフォルト設定のロード] をクリックしてください。
ClickShare Base Unit が適切に起動しない	構成ファイルが破損している	Web インターフェイスの [構成] タブに移動し、[デフォルト設定のロード] をクリックしてください。
Base Unit で LAN 接続できない	IP アドレスが間違っている	IP アドレスがお使いの LAN 範囲内ではない。 DHCP が有効になっていない。
Base Unit との WiFi 接続なし	SSID が正しくない	正しい SSID を入力してください

問題	原因	解決策
<p>通話中に ClickShare を使用している場合のエコー</p>	<p>間違ったマイクロ選択</p> <p>周辺機器はエコーをキャンセルしていません。その結果、マイクはリモート参加者の発言を拾い上げ、通話で送り返します。</p> <p>部屋自体の大規模なリバーブ (エコー、サウンドバウンス)。これは、リモート側が、マイクの真正面に座っていない場合に、金属缶または金魚鉢に座っているかのように室内の参加者の声を聞くことができる理由となります。</p>	<p>ClickShare システムからマイクを選択しますが、通話中の PC マイクは選択しません。</p> <p>エコーキャンセリングを備えた正しいデバイスを使用してください。</p> <p>このような状況では、テーブル (または天井) マイクの使用または吸音パネルの使用が推奨される場合があります。</p>

発生している問題を下表で検索し、解決策を実行してください。

索引

数字/記号

- ウォール マウント
 - Base Unit 27
- オンボード XMS Cloud 60
- カレンダーの統合 65
- コンフィグレーションをアップロード 95
- サービス
 - PresentSense 124
 - モバイル装置 122
- システム
 - XMS 145
- スクリーンセーバー 97
- スタンドアロンセットアップ 29
- スタンバイ 136
- ステータス情報 132
- セキュリティ
 - HTTP 暗号化 130
 - 推奨事項 21
- セキュリティ レベル 127
- タイムアウト画面 136
- テーブル マウント
 - Base Unit 26
- ディスプレイ
 - 接続 36
- ディスプレイ設定 97
- 入力 99
- デスクトップアプリ 78
 - MSI インストーラー 79
- トラブルシューティング 155
 - ログ作成 150
 - ログ設定 149
 - 診断 152
- トラブルシューティング一覧 156
- の仕様 9
 - CX-50 Gen2 12
- パスワード 129
- ファームウェア
 - 更新 153-154
 - Base Unit 147
 - Button 147
- フレキシブルなルーム 41, 102
- ベースユニット
 - スピーカーフォン
 - 接続 46
- ペアリング
 - Button 72
- ポート 30
- モバイル オンボーディング
 - XMS Cloud 61
- モバイル装置 122
 - サポート 18
- ログ設定 149
- 会議室名 89
- 個人用設定
 - 壁紙 91
 - 独自 93
 - 独自の壁紙 93
- 最初の起動
 - Base Unit 52
 - コンフィグレーションなし 53
 - 優先方法 54
- 周辺機器 100
- 基本ワークフロー 22
- 場所の名前 89
- 壁紙 91
 - 独自 93
- 安全 20
- 完全バックアップ 95
- 工場出荷時のデフォルト 151
- 接続
 - Base Unit
 - LAN 47
 - USB カメラ 44
 - イーサネット 47
 - カメラ 44
 - コンテンツオーディオ 45
 - タッチスクリーン 43
 - HDMI 48
 - ベースユニット
 - スピーカーフォン 46
 - 有線ルームドック 51
 - 電源 49
- 日付 - 時間
 - NTP サーバー 135
 - タイム サーバー 135

- 手動 133
- 更新
 - ファームウェア
 - Base Unit 147
 - Button 147
- 条件 20
- 構成 81
 - アクセス 83
- 構成パスワード 129
- 構成ファイル 95
- 歓迎テキスト 89
- 準備
 - Button 71
- 環境 20
- 省電力設定 136
- 紹介 19
- 解像度 97
- 言語 89
- 設定
 - ウィザード: 87
- 設置 23
 - Base Unit
 - 方法 24
 - ウォールマウント
 - Base Unit 27
 - オーディオのみ 39
 - ガイドライン 25
 - カメラのみ 39
 - スタンドアロン 29
 - テーブルマウント
 - Base Unit 26
 - ディスプレイ
 - 接続 36
 - ネットワークデプロイメント
 - 要件 30
 - ネットワーク接続セットアップ 32
 - デュアルネットワーク 33
 - 専用 34
 - 設備が整っている 39
- 電源
 - 接続 49
- 黒板 144

A

- APIドキュメント 125
- APIパスワード 129
- API設定 125

B

- Base Unit
 - LAN
 - 接続 47
 - イーサネット
 - 接続 47
 - ウォールマウント 27
 - カメラ
 - 接続 44
 - コンテンツオーディオ
 - 接続 45
 - タッチスクリーン

- 接続 43
 - テーブルマウント 26
- 一般情報 14
- 再起動 132
- 最初の起動 52
 - コンフィグレーションなし 53
- 優先方法 54
- 設置
 - 方法 24
- Button 138
 - ペアリング 72
 - 外部アクセスポイント
 - EAP-TLS 139
 - EAP-TTLS 141
 - PEAP 142
 - WPA2-PSK 143
 - 準備 71

C

- ClickShare API 125
 - パスワード 129
- CX-50 Gen2
 - はじめに 10

E

- ECOスタンバイ 136
- Extension Pack 74
 - インストラ 75

H

- HTTP暗号化 130

L

- LAN設定 114
 - 有線認証 117
 - EAP-TLS 118
 - EAP-TTLS 120

P

- PCオンボーディング
 - XMS Cloud 60
- Portable Version 95
- PresentSense 124

S

- SNMP 126

W

- WebUIパスワード 129
- WiFi設定 103–104
 - ワイヤレスクライアント 106
 - EAP-TLS 107
 - EAP-TTLS 110

PEAP 111
WPA-PSK 113
Windows
認定ドライバ 77

X

XMS Cloud 145
 PC オンボーディング 60
 モバイル オンボーディング 61
XMS Cloud カレンダー 65
XMS Cloud の登録 60
XMS Cloud 登録 60



R5900120JA /04 | 2023-12-14

www.barco.com